

第九回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

作品集

本大会では、できる限り多くの方が入賞・入選できるように、
原則として一人一賞とさせていただきます。

一般の部 題詠 【菜】

入賞・入選作品

最優秀賞 一首

菜の花をなぎ倒してゆく子へさげぶ学校はいい行かなくていい

宮崎県日向市 佐々木 泰三

優秀賞

二首

菜箸は誰の指より勇敢で湯や油にも拒みはしない

群馬県沼田市

蠟山 恵子

菜の花が咲いたら野原に連れ出してヒヨウモンリクガメは陽と婚礼す

茨城県つくば市

松田 早苗

特別賞・伊藤一彦選

二首

もう全部捨ててしまったはずなのに菜箸だけが君を知ってる

群馬県みなかみ町

どーメキ

若き日に学びし歌の「菜摘ます児」名告るは当り前の世となる

群馬県高崎市

石井省三

特別賞・小島なお選

二首

棄てられる野菜でできたクレヨンでスイカ模様にだるま塗ります

千葉県柏市

佐藤和裕

教室に菜の花和えと残されて眩しいだけの陽を浴びている

神奈川県横浜市

黒川かおる

入選 二十首

菜の花は縦に黄色を綴るから右に開いてゆく春の本

群馬県みなかみ町

野本 ゆかこ

ゆでた菜のくすみがすつと抜けてゆく冷たい水はさよならのよう

群馬県みなかみ町

篠原 香代

菜の花のなですと鈴の声聞こえ美しいのみと早口で言う

群馬県片品村

金子 美由紀

今し方摘んだと言いて瑞瑞しい蓴菜じゆんさいを下さげ碁敵きりのくる

埼玉県所沢市

若山 巖

菜の花の一壺にあまる菜の花忌空ゆく雲の眩くらしかりけり

東京都町田市

原澤 昇司

小4の看護師役の菜々ちゃんに注射打たれて寝るだけの役

群馬県沼田市

岡本 有未

白菜に青菜、赤蕪、大根と色とりどりの秋に塩振る

宮城県仙台市

角田 正雄

先延ばし癖ある私だけが知る冷蔵庫の菜の花ばたけ

群馬県みなかみ町

山崎 杜人

ごくわづかつくる野菜の畝合ひに子どもを背負ふ精霊蝗虫

大阪府豊能町

熊ノ郷 紀子

菜の花を轟音で鋤くトラクター春を破壊で代謝させてく

長野県松本市

戸来 あい

おかんから831と来るライン今夜もやっぱり野菜スープか

群馬県沼田市

小林 恵美子

品定めされてるような東京でどうぞと出された八宝菜は

群馬県みなかみ町

本多 寿美枝

野菜にも親ガチャありや間引かれた大根葉炒め味はひぶかし

群馬県前橋市

中澤 ひろみ

新米や菜は要らぬという父の大塩むすび眼裏まなこにあり

群馬県みなかみ町

澁谷 典子

分け入りて山菜探す爺二人互ひに熊と間違へ騒ぐ

群馬県前橋市

武藤 洋一

べんとうの片隅にあるひじき煮の最後のひとつの鹿尾菜ひじき愛しき

群馬県みなかみ町

吉田 まゆみ

沐浴の温度を測る指先が菜箸のごと水面を揺らす

北海道滝川市

武田 生吹

菜ぎざむ厨のすみのラジオ告ぐ石垣島は風力4と

埼玉県羽生市

浅見 邦恵

菜っ葉の菜ではなく奈良の奈なんですすだけどまあどっちでもいいです

東京都文京区

遠藤 玲奈

七菜の会万葉集を学びたりき有川教授の声を忘れず

群馬県前橋市

山口 タツ子

一般の部

自由詠

入賞・入選作品

最優秀賞 一首

お湯になるまで流される水のごと吾ら世代を扱うなかれ

東京都中央区 佐藤 直大

優秀賞

二首

鈴虫と名付けられたる鈴よりも永く大地を奏で来しもの

愛知県名古屋市

遠藤雄介

褒められることの無かった人生を短歌に詠んで褒められている

愛媛県新居浜市

大賀康男

特別賞・伊藤一彦選

二首

靴ひもがほどけてるけど言わなかった 七分前から他人のあなた

群馬県前橋市

加藤 孝博

旅人の姿が見えなくなってから足跡だけの旅が始まる

大阪府岸和田市

ツキミサキ

特別賞・小島なお選

二首

一つずつ言葉を紡ぐ校舎裏ガスバーナーの手順のごとく

北海道滝川市

武田 生吹

驟雨去り弓引き絞る的ちかく霞のごとく蚊柱の立つ

群馬県伊勢崎市

木村 あい子

悲しみは風にもあるか独り居のわが耳たぶをすすり泣き過ぐ

愛知県岡崎市 中村 佐世子

モニターと夫の顔を観てるだけ人の命の終わるといふに

群馬県みなかみ町 高橋 芳子

金木屋浴びたい量に従ってあちらこちらへ急がない夜

東京都豊島区 工藤 好洋

思ひ出し笑ひと言ふのでせう零れて止まぬ朝の地下鉄

茨城県つくば市 松田 早苗

夢に立つ貴女の頬を力こめ叩いたつもりの手が宙を切る

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

藪椿手折るその手は節くれて私の髪を優しく撫でる

群馬県沼田市 小林 恵美子

盆花に父の教へし奥山の節黒仙翁われのみぞ知る

群馬県みなかみ町 小林 博子

みなかみと坪谷は深山で源流が牧水育てたふたつの故郷

宮崎県日向市 黒木 金喜

義姉は言う「チンゲン菜は最高よ」振り子のように頷く私

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

水紋は交わらず重なってゆく五月雨式のメール開けば

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

牧水の本に挟まれていた紙に我が若き日の恋のうたあり

群馬県川場村 桑原 謙一

鉄色の空を西へと渡る鳥供物のごとく森へと降り

宮崎県宮崎市 大重 知加子

世界中を手にするように歩きゆく腕いっぱい本を抱えて

兵庫県三田市 藤野 椎^{しづ}月

三度目の霊柩車の助手席に座し朝焼けの色の配合思ふ

群馬県藤岡市 堀口 りつ子

ほの暗い階段登れば異世界に転生されてつづく牛鍋^{すき}酒家^{やき}

群馬県みなかみ町 篠原 香代

新姓のさんずい上手く書けなくておりなす点は夫、吾子、わたし

埼玉県春日部市 藤澤 由紀

可決するまで結婚は待つという友とドリンクバーを飲み継ぐ

神奈川県横浜市 黒川 かおる

「鮭の皮なるべく食べよ」もう居ない祖父直伝の教え守る日

群馬県沼田市 岡本 有未

売りに出す土地にまっかな曼殊沙華父の肉から生えたるごとく

東京都国立市 宮崎 洋子

宍道湖の深さは知らず白々と胸うちつける夏のさよなら

広島県広島市 小野 系子

高校生以下の部

題詠

【菜】

入賞・入選作品

最優秀賞 一首

菜の花や元気いっぱい手をふるな私だけでは手ふりかえせぬ

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 陵太

優秀賞

二首

菜の花の色をすつてもまっ白なチヨウは蜜を月にあげてる

群馬県利根商業高校

1年

田村

璃桜

子供たち、野菜をひふみと数えたらひふみと口へ放り込んでね

神奈川県立光陵高校

3年

山本

未生

特別賞・伊藤一彦選

二首

試験前机に置かれし菜の弁当母の祈りが青さに宿る

群馬県利根商業高校

1年 木内 美和

クラスでは言えない気持ち育ててる窓ぎわの菜がそつとゆれてる

群馬県利根商業高校

2年 小野里 悠月

特別賞・小島なお選

二首

七色の野菜ジュースを寄せ集め嘘の規模より遠い満月

神奈川県立光陵高校

3年 猪野田 涼奈

優しさが確かに切った思い出をサラダ菜で巻き込んでひとくち

神奈川県立光陵高校

2年 藤井 綾音

入選 二十首

白菜が鍋でぽったりするように柔らかいままのころでいたい

神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋

色彩は白菜みたい制服は喪服のように夏を終わらす

神奈川県立光陵高校 3年 佐野 晃太

母の手から鍋の中へと舞い降りる菜種油のような微笑み

神奈川県立光陵高校 1年 山田 万葉

小松菜の緑は深くバス停で買いたる物袋君に手渡す

神奈川県立光陵高校 1年 稲田 銀次郎

早く夕方が来てほしい時は菜の花を近くの池に浮かべる

神奈川県立光陵高校 2年 中西 董

散歩道菜っ葉と青空いい景色覗いてるのは自然の目たち

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 瑞稀

菜の花をただ見ていたら春だった写真をとってすぐに帰った

群馬県利根商業高校 1年 田原 要

風に揺れ黄色く光る菜の花の強さを感じ明日へ向かう

群馬県利根商業高校 1年 山崎 綾太

制服の裾がそよいで菜の花とふざけ合う日々かけがえもなく

群馬県利根商業高校 2年 小坂橋 翔和

皿の上茹ですぎた菜に文句言いそれでも全部食うのが寮生

群馬県利根商業高校 2年 唐木 湘太郎

菜の花に寄りかかりつつ語り合う未来のことはまだ菜の花色

群馬県利根商業高校 2年 増田 結衣

冬菜摘むひとつひとつに名をつけて呼んでみたくなる静けさの中

群馬県利根商業高校 3年 田原 葵

山菜を採って渡すわおばあちゃんなんでも作れる料理人

群馬県利根商業高校 3年 阿部 晃大

一面の菜の花の中ワンピースなびかせる君愛しくおもう

群馬県利根商業高校 3年 星野 彩虹

おばあちゃん今日は小松菜パーティーよテーブルの上小松菜だらけ

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉

菜の花がさいていたからひろったよかがやいてほかんちゅうです

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 横山 麗葉

春を駆ける菜の花みたくに生きていくそんな背中に恋をした夜

神奈川県立光陵高校 1年 眞壁 春菜

「おはよう」を弾かれたから何重も壁を作って白菜になる

神奈川県立光陵高校 1年 松尾 綾音

五分おきの電車の風に急かされて菜の花は少し背伸びして咲く

神奈川県立光陵高校 1年 石井 桃衣

鍋の底菜の芯からの泡ひとつゆっくり透けて冬がほどける

神奈川県立光陵高校 2年 古川 眞帆

高校生以下の部

自由詠

入賞・入選作品

最優秀賞 一首

海底でエイに囲まれ死んでいく
僕らの育てたアサリへのフーガ

山口大学教育学部附属光義務教育学校 9年 横 道 玄

優秀賞

二首

お宝のたを探してますとたたと駆け逃げてく足音残し

神奈川県立光陵高校 3年 福島 楓

弟を追いたくないから忘れ物するな入試の小問集合

神奈川県立光陵高校 3年 洲崎 大知

特別賞・伊藤一彦選

二首

花ひらくその瞬間を見ていたら自分の未来少し信じる

群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜

にんじんが、喋った気がして、逃げ出した、よく見たらさ、自分の声だ

群馬県利根商業高校 3年 松井 吏音斗

特別賞・小島なお選

二首

重力がどうしても動に見えちゃって一部分だけくしゃくしゃになる

神奈川県立光陵高校 2年 中西 董

朝露に濡れてひかれる菜の花を手を繋いでみる友達とぼく

群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝

入選 二十首

スーパ―の光に集まって来た蛾が前世天才だった確率

神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈

風纏い不自然に舞うタンポポは動物だつて思い込んでる

神奈川県立光陵高校 1年 西村 真穂

夕焼けは私の部屋に差さなくてどこか遠くで鳴る古時計

神奈川県立光陵高校 2年 照田 佳苗

米不足と重なり気付く感謝の気持ちもう食べられない曾祖父の味

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 1年 大崎 菜央

下校時間窓から差し込むオレンジ色照らされながら最後の放送

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 松村 優月

消しゴムの角ひとつだけ残りおり積み重ねたる日々の証よ

群馬県利根商業高校 1年 木内 美和

名前だけノートの隅に書いてみる誰にも見せぬ小さな秘密

群馬県利根商業高校 2年 星野 隼人

トマト食べ口の中だけ夏祭り誰にも見えぬ赤の花火よ

群馬県利根商業高校 3年 坂本 孝信

水上の雪解け水に流れ着く淡い青春冷たい記憶

群馬県利根商業高校 3年 松井 漣

青春だあの人と行く夏祭り夜空の下で恋人つなぎ

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 内田 花音

夏まつりいろんなやたいあるけどねどれにしようとなやむのがいい

長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな

暗い海灯台が一部照らしてる希望の光があるかのように

長野県塩尻市立広陵中学校 3年 水迫 大樹

内側の熱を知りたい氷菓子切り開かれた表面零度

神奈川県立光陵高校 1年 木村 夏帆

空のまだ研究されてないところペガサス今だにいてほしいから

神奈川県立光陵高校 1年 眞壁 春菜

金じゃない優しい黄色が好きだった風に揺れる君のたてがみ

神奈川県立光陵高校 1年 尾上 幸奈

埃とかかぶってそうな森にある館みたいな昨日が過ぎた

神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良

再啓で始まる手紙が灯^ひとなって夜風とともに川を流れる

神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子

朝焼けでパンを焦がしてしまふから早く迎えに来てよ大空

神奈川県立光陵高校 3年 佐野 晃太

切ないね、それは切ない。左手の小指もそうって言っていますよ

神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生

御茶ノ水までの毎朝四ページ江森備は今日への祝福

京都市立洛友中学校 2年 中振 悠

入賞作品講評

◆ 選者紹介

伊藤 一彦(いとう かずひこ)



昭和十八年(1943)宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、
遼空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、若山牧水記念文学館館
長、宮崎県立図書館名誉館長。歌集に『海号の歌』、『月の夜声』、『光の
庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水
の心を旅する』、『歌が照らす』など多数の著書がある。2025年、『若
山牧水全歌集』を編纂。同年、宮崎県県民栄誉賞を受賞した。

小島 なお(こじま なお)



昭和六十一年(1986)東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの手
伝いをしていうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中の
2004年に最年少で角川短歌賞受賞。2016・2020年度「NH
K短歌」選者。コスモス短歌会所属。同人誌「cocoon」編集委員。その他、
現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャー
は死んでしまった』、『展開図』、『卵降る』などがある。

一般の部・【題詠】

最優秀賞

宮崎県日向市 佐々木 泰三

菜の花をなぎ倒してゆく子へさげぶ学校はいい行かなくていい

上の句の場面が鮮烈で印象に残る。子供は無理に学校に行かされているのか。下の句は作者の胸中の思いなのか、実際に声に出して言ったのか、何れにしても気持ちが籠っている。

優秀賞

群馬県沼田市 蝨山 恵子

菜箸は誰の指より勇敢で湯や油にも拒みはしない

日常的に使う菜箸を新鮮な視点で歌っており心に残った。口語を使用しているが、文体にゆるみがなくきつぱりとしている。日頃から人の生き方について深く考えている作者の歌だ。

優秀賞

茨城県つくば市 松田 早苗

菜の花が咲いたら野原に連れ出してヒョウモンリクガメは陽と婚礼す

アフリカ東南部が生息域のヒョウモンリクガメ。暖かい気候を好み、植物食性の彼にとって春は過ぎやすくなる季節なのだろう。厳かな結句に大地と命の古からの縁を思う。

特別賞・伊藤一彦選

群馬県みなかみ町 どーメキ

もう全部捨ててしまったはずなのに菜箸だけが君を知ってる

心の綾を巧みに歌っている。自分を鋭く見つめている作者である。上の句の「はず」の語が生きている。相手はこの前まで共に生活していた者だろう。「菜箸」は嘘をつかない。

特別賞・伊藤一彦選

群馬県高崎市 石井 省三

若き日に学びし歌の「菜摘ます兒」名告るは当り前の世となる

「菜摘ます兒」は言うまでもなく『万葉集』の巻頭の長歌のフレーズで、「家聞かな」と続く。「名告る」が当り前となり、危険さえ招く現代を嘆き憂える歌だと思ふ。

特別賞・小島なお選

千葉県柏市 佐藤 和裕

棄てられる野菜でできたクレヨンでスイカ模様にするま塗ります

廃棄処分になる野菜をアップサイクルしたクレヨン。まるまると美味しそうなスイカの実に変身したたるまは実りの叶わなかった野菜の願いを体現した姿なのかもしれない。

特別賞・小島なお選

神奈川県横浜市 黒川 かおる

教室に菜の花和えと残されて眩しいだけの陽を浴びている

菜の花の和え物が苦手なのだろう。給食を食べ終われずにとり取り残されてしまった。春の日差しが射す教室が眩しいほどに、ひとりきりが際やかに照らし出されてしまう。

一般の部・【自由詠】

最優秀賞

東京都中央区 佐藤 直大

お湯になるまで流される水のごと吾ら世代を扱うなかれ

今の新卒の大企業の大任給は大幅アップだ。氷河期世代はかつての苦を思い、今もそれが続いていることが辛い。上の句の比喻は見事と言う他ない。現代の社会を詠んだ秀作である。

優秀賞

愛知県名古屋市長 遠藤 雄介

鈴虫と名付けられたる鈴よりも永く大地を奏で来しもの

鈴の歴史よりもずっと前からその虫は美しい音を響かせてきた。まだ名前のなかった頃、古代人は暗闇におのおの豊かな想像を膨らませてその音を聞き做なしていたはず。

優秀賞

愛媛県新居浜市長 大賀 康男

褒められることの無かった人生を短歌に詠んで褒められている

かつて先輩に「褒められたことを歌にしても人が妬むだけだ。失敗したことを歌え」と言われたことがある。不成功や失敗や挫折を自分のものとして捉えた時に秀作が生まれると。

特別賞・伊藤一彦選

群馬県前橋市長 加藤 孝博

靴ひもがほどけるけど言わなかった 七分前から他人のあなた

上の句と下の句をどうつなげて読むか、その意味で面白い作品である。上の句の主語は「あなた」か作者自身か。「七分前」がいずれにしても微妙で、リアリティがある。

特別賞・伊藤一彦選

大阪府岸和田市長 ツキミサキ

旅人の姿が見えなくなってから足跡だけの旅が始まる

若山牧水然り、松尾芭蕉然り。魅力的な旅人たちはこの世から消えたあとも旅の時間や作品が残り続ける。今日も彼らの足跡を辿ってあたらしい時代の旅人が生まれてる。

特別賞・小島なお選

北海道滝川市長 武田 生吹

一つずつ言葉を紡ぐ校舎裏ガスバーナーの手順のごとく

元栓を開く、コックを開く、ガス調節ねじを回す、空気調整ねじを……と点火の手順を確かめるように慎重に言葉を選んでゆく。脳内で何度もおさらいした告白の語順だろう。

特別賞・小島なお選

群馬県伊勢崎市長 木村 あい子

驟雨去り弓引き絞る的ちかく霞のごとく蚊柱の立つ

雨後の弓道場のみずみずしい空気を引き絞るように弓を引く。意識を集中させる緊張感と遙かの近くの蚊柱の浮遊感。一場面のなかの鮮やかな緩急に心が吸われてゆく。

高校生以下の部・【題詠】

最優秀賞

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 陵太

菜の花や元気いっぱい手をふるな私だけでは手ふりかえせぬ

菜の花がたくさん咲き誇っている場面を新鮮に歌って心に残る。菜の花が手をふっているという捉え方、自分一人ではふりかえせぬという謙虚で前向きな姿勢。魅力ある若さだ。

優秀賞

群馬県利根商業高校 1年 田村 璃桜

菜の花の色をすつてもまつ白なチョウは蜜を月にあげてる

菜の花の蜜を吸つてもまつ白なチョウという意表をつく表現がまず心に残るが、さらにその蜜は天上の金いろの月にあげているというミラクルな発想。将来が楽しみな作者だ。

優秀賞

神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生

子供たち、野菜をひふみと数えたらひふみと口へ放り込んでね

本の古い大和言葉では一二三を「ひふみ」と数えていた。「ひふみ」は命の起源「日風水」を表わす言葉でもある。呪文はたまた祝詞のような子供たちへの呼びかけ。

特別賞・伊藤一彦選 群馬県利根商業高校 1年 木内 美和

試験前机に置かれし菜の弁当母の祈りが青さに宿る

「菜」から母親の「菜の弁当」とは高校生らしくていい。そして、下の句が豊かな感性を示して見事である。「母の祈りが青さに宿る」と。お母さんにぜひ見せたい一首だ。

特別賞・伊藤一彦選 群馬県利根商業高校 2年 小野里 悠月

クラスでは言えない気持ち育ててる窓ぎわの菜がそつとゆれてる

高校生になると心理も複雑だ。クラスの者がわるいわけではなく、それでも「言えない気持ち」がある。その上の句をうけての下の句が絶妙だ。菜の花は作者の分身か。

特別賞・小島なお選 神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈

七色の野菜ジュースを寄せ集め嘘の規模より遠い満月

集まれば虹のように綺麗なパッケージでも、野菜ジュースはジュースであつて野菜とは違う。私たちの住む地上に溢れるあまたの嘘を遥か天上の月が静かに照らし出すようだ。

特別賞・小島なお選 神奈川県立光陵高校 2年 藤井 綾音

優しさが確かに切った思い出をサラダ菜で巻き込んでひとくち

あるときはスパッと切り落とし、記憶を忘れることも優しさと言えるかもしれない。けれど、忘れたはずのあれこれをサラダ菜で巻いて口に運ぶように再び思い出してしまったり。

高校生以下の部・【自由詠】

最優秀賞 山口大学教育学部附属光義務教育学校 9年 横道 玄

海底でエイに囲まれ死んでいく僕らの育てたアサリへのフーガ

保全活動のために僕らが育てて海に還したアサリ。しかし
せつかく大事に育てても、エイの食害に遭ってしまうという。
アサリらへの弔いの遁走曲としてフーガが流れる。

優秀賞 神奈川県立光陵高校 3年 福島 楓

お宝のたを探してますとたたたと駆けて逃げてく足音残し

何とも不思議な歌で、そこが大きな魅力である。「お宝のた」
そして「たたたと」。駆けて逃げていったのは誰か。青春と
いう宝。宝探しの高校生の日々の困難を諧謔で歌い見事。

優秀賞 神奈川県立光陵高校 3年 洲崎 大知

弟を追いたくないから忘れ物するな入試の小問集合

一緒に家を出たはずの弟を追いかけることになるから「忘れ
物するな」。入試問題の小問集合は着実に点数が取れるから
「忘れ物するな」。三句が上にも下に係る巧みな構造だ。

特別賞・伊藤一彦選 群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜

花ひらくその瞬間を見ていたら自分の未来少し信じる

一首の背景に「自分の未来」を十分に信じられない不安をま
ずしつかり読みとるべきである。その作者が「花ひらくその
瞬間を見て」気持が変わったという。「少し」にポイント。

特別賞・伊藤一彦選 群馬県利根商業高校 3年 松井 吏音斗

にんじんが、喋った気がして、逃げ出した、よく見たらさ、自分の声だ

作者はにんじんが嫌いなのか、好きなのか。読点を四つ使っ
ての独特の文体が魅力。特に面白いのは下の句。「逃げ出した」
が逃げられるはずがない。ブラックユーモアが見事。

特別賞・小島なお選 群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝

朝露に濡れてひかれる菜の花を手を繋いでみる友達とぼく

朝露に濡れてひかりを返す菜の花を見ながら、きっとはじめ
て手を繋ぐふたり。友達と呼ぶ距離にもう少し踏み込んでみ
ようとすする相手へのおそれと好奇心の眩しさ。

特別賞・小島なお選 神奈川県立光陵高校 2年 中西 董

重力がどうしても動に見えちゃって一部分だけくしゃくしゃになる

字と字の間隔が狭くなつて何度も書き直しているのだろう。
書いては消してを繰り返すうち紙はくしゃくしゃに。あるい
は「動」の字がうずうず勝手に動き出したようにも。

一般の部【題詠「菜」】作品集

222人 449首
投稿順に掲載
太字作品は入賞・入選

- 1 菜の花が咲いたら野原に連れ出してヒョウモンリクガメは陽と婚禮す
茨城県つくば市 松田 早苗
- 2 泡立ちてゐる感情をどうしやう亀が青菜を食ひちぎりをり
茨城県つくば市 松田 早苗
- 3 戯れてジグザグに舞うモンシロ蝶菜園の菜の花に舞いいる
大分県竹田市 佐藤 政俊
- 4 朝食の担当我に妻は言う菜と菓物今朝は満点
宮崎県日向市 黒木 直行
- 5 三樽の野沢菜漬けを終える頃木曾駒ヶ岳は夕焼けの中
長野県箕輪町 市川 光男
- 6 鑑真を偲ぶ浜に立ち菜の花の香にむせびつつ波音を聞く
奈良県奈良市 堀ノ内 和夫
- 7 野菜天二人で作る紫蘇の青人参の赤が夫婦の色どり
宮崎県宮崎市 荒尾 洋一
- 8 肉減らし 菜食中心 三ヶ月 慣れて数値に 空し諦め
大阪府大阪市 後藤 憲之
- 9 こだわりて 白菜調理 あれこれと 残り漬物 これぞ一番
大阪府大阪市 後藤 憲之
- 10 夕飯のおかずを選んで惣菜は割引きされた黒い鹿尾菜煮
長野県安曇野市 茅野 勇史
- 11 菜香^{なご}という娘二人と受賞旅なまはげ民謡こっちゃこいと
北海道札幌市 鎌田 誠
- 12 かかる世にひと日を風の董菜^{すみれ}となり距^{きま}の中我の涙をためん
山口県光市 井ノ口 皓
- 13 野の草を嫁菜と名づけし古の人のこころを偲びつつ摘む
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 14 山菜を採りて暮しを立てた日の山にはいまも筒鳥鳴くか
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 15 雪消えに摘み来し芹のひと握りわが一菜に春の香の満つ
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 16 山すその傾りの畑は花ざかり菜種油を採るのだと聞く
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 17 丘の上の菜の花畑より仰ぐ富士相模の海ははるかに光る
神奈川県厚木市 井上 勝朗
- 18 爽やかに浮き立つ白き昼の月ときをり仰ぎて間引き菜をつむ
神奈川県厚木市 井上 勝朗
- 19 沓脱ぎに 向ひて坐り 草履直す 孫嫁の名は妃菜^{ひな}と言ふらし
群馬県みなかみ町 笛木 洋子
- 20 春の野で菜摘むやさしき人であれ娘は「春菜」六月生まれ
東京都足立区 鷺沼 あかね
- 21 望遠で狙ひし笑顔をやはらかく縁取るやうにぼやける菜の花
愛媛県松山市 宇和上 正
- 22 菜の花とミモザを揺らし風渡る犬寄峠^{いぬよせ}の黄色い丘に
愛媛県松山市 宇和上 正
- 23 今日採れた野菜を並べ晩ご飯君は知らないじゃこがけトマト
愛知県蒲郡市 牧原 正枝
- 24 キリギリスの宇宙は菜の上土の土地上に立てる吾の掌の上
宮崎県宮崎市 中村 由美
- 25 古民家の宿にいただく朝食の折目正しき一汁三菜
埼玉県本庄市 白藤 巳玲
- 26 バンダナに長靴すがたの夫甦る野菜作りにまめまめしき日の
群馬県前橋市 松下 昭代

- 27 一人居はコスパ理由に菜を買ふさんま一匹コロッケひとつ
群馬県前橋市 松下 昭代
- 28 背丈より 高い菜の花 囲まれし 子供の頃の 想い出の道
千葉県千葉市 うめさわ かよこ
- 29 御菜には青菜にジャガ芋鯨肉昭和も百年幼時のわが家
香川県三豊市 上久保 忠彦
- 30 菜あらば粗食にあるも、それはそれ玉子焼く膳 妻色黄金
群馬県伊勢崎市 齋藤 守男
- 31 具だくさん朝餉のミソ汁キノコ雲菜切り包丁してやつたり顔
東京都足立区 佐藤 春夫
- 32 食事では野菜を多く食べなさい妻の遺言今も守りて
岩手県盛岡市 森 義真
- 33 二人いたはずの席には前菜と沈黙だけが冷たく並ぶ
群馬県みなかみ町 どーメキ
- 34 気づいたら賞味期限が過ぎていた値引き惣菜君への好意
群馬県みなかみ町 どーメキ
- 35 **もう全部捨ててしまったはずなのに菜箸だけが君を知ってる**
群馬県みなかみ町 どーメキ
- 36 杉菜見て筆頭菜のうちに天麩羅にされずに済んで助かったなど
群馬県みなかみ町 どーメキ
- 37 音もなく桜を散らす菜種梅雨この静寂も私のものだ
群馬県みなかみ町 どーメキ
- 38 雪どけの谷川水を飲みほした春の山菜極上の味
群馬県みなかみ町 原澤 君子
- 39 好きだから塩あぢ濃いめに漬けあがる夫の作りし白菜新香
茨城県鹿嶋市 見矢野 雅恵
- 40 花の香は菜花桜の模糊として土手に桃色黄色は伸びつ
東京都杉並区 井芹 純子
- 41 **白菜に青菜、赤蕪、大根と色とりどりの秋に塩振る**
宮城県仙台市 角田 正雄
- 42 面白い事言わぬ叔父の好物は白菜漬と最近知りぬ
大阪府羽曳野市 赤澤 皆春
- 43 「芥子葉か。」「辛子和えだよ。菜の花の。」清和の考の風物詩なり
群馬県みなかみ町 奈 良
- 44 **今し方摘んだと言いつて瑞瑞しい尊菜じゆんさいを下さげ碁敵きりのくる**
埼玉県所沢市 若山 巖
- 45 野沢菜のまんじゅうを買いふんわりと母の手作り懐かしむ道
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 46 心にも無いこと言えぬ菜箸で手延べそうめん泳がせている
群馬県沼田市 岡本 有未
- 47 スーパーの値引き商品お惣菜シール貼つたら手が伸びてくる
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 48 ジュースでは野菜を摂取したことはなりませんよと怒られる母
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 49 **ゆでた菜のくすみがずっと抜けてゆく冷たい水はさよならのよう**
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 50 夏盛り野菜本番食べきれず知人に分けて喜ばれたり
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 51 子供部屋窓辺で睨む悟空のフィギア有めるように揺れる菜の花
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 52 レンジにて回りながらとける肉青菜抱えて戻る君待つ
群馬県片品村 金子 美由紀

- 53 エイリアンの卵みたいな物体は畑に残った白菜の球
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 54 梅雨明けの報せを聞けば外干しのシーツ眩しく青菜を刻む
群馬県みなかみ町 小室 史
- 55 白菜に群がる蝶を追い払い虫食いのない収穫を待つ
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 56 母の炊く雪花菜はいつも甘すぎて容器はここに返せないまま
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 57 日輪に息かさねにし菜の花のあさひのあまみ、ゆうひのがみ
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 58 カーキ色の菜っぱ服着て働けり馬場あき子氏は戦中を生く
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 59 朝とれた野菜が直ぐにスーパーへ届く道筋(なるほど)に着く
群馬県昭和村 加藤 南風
- 60 吐息まで黄色に染める花菜風君は半歩だけ後ろを歩く
群馬県前橋市 木下 美樹枝
- 61 菜色の子等がかぼそき腕伸ばし鍋を差し出すガザは戦場
群馬県みどり市 志田 貴志生
- 62 老いしともまだまだ出来るこのからだ農のはしくれ菜園に起つ
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 63 望月の明けし光に洗はれて菜花の色香夜風にそよぐ
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 64 丁寧に皮を剥かれしトマト食むわが菜園のめぐみのあした
群馬県前橋市 和田 うるじ
- 65 病みし児に菜根の煮汁溜め置き奥歯かみしめ飲ませたからに
千葉県船橋市 川崎 富子
- 66 菜根譚読みし曾祖母か伝授され菜根食めば願ひ叶うと
千葉県船橋市 川崎 富子
- 67 土なくも育つ野菜のやわやわと売場に並ぶ現世の地球
千葉県船橋市 川崎 富子
- 68 アレルギーの妻は中華の単菜にしっかり「蝦」の文字をみつける
東京都世田谷区 野上 卓
- 69 一才児ほどに大きい白菜の重さを量る抱きかかえつつ
東京都世田谷区 野上 卓
- 70 産直に野菜果物香りたち時におへちやにも会える楽しみ
栃木県那須塩原市 久保 澄子
- 71 一列にのの字白菜整然とお店に並ぶ夢見る秋と
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 72 拘りのアミの塩辛アメ横へこれが勝負よ白菜キムチ
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 73 小松菜ね東京の頃蒔いたよね庭広かった小さいからよ
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 74 敗戦は校庭にまで芋菜蒔くふと今思う一体誰れが
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 75 庭隅に捨てられしか冬越して咲いた菜の花なんと健やかに
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 76 トントンと菜刻む母の前掛けの後ろの紐を静かに解く
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 77 菜っぱ服着ていた叔父の御下がりが僕の服だった思い出してる
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 78 二語文をしぼり出してる五才児は未来へ芽吹く青き菜のごと
群馬県高崎市 齋藤 宏子

- 79 夏野菜茄子のむらさきミニトマト見事な色の恵に感謝
埼玉県本庄市 飯島 トモ子
- 80 飲む妻は二人の菜をまず決めて夕食つくるスマホ見ながら
宮崎県日向市 黒木 直行
- 81 「ナターシャ」はきれいな名前「菜々美」ちゃん農家を継ぎて牛飼いめざす
岡山県新見市 浅井 和枝
- 82 虎杖と杉菜の天ぷら口にして見知らぬ同志卓を囲めり
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 83 ささやかなプランターからあふれ出る育む喜び家庭菜園
大阪府摂津市 高橋 好恵
- 84 じりじりと射す陽に耐えて実りたる野菜の命きらり煌く
大阪府摂津市 高橋 好恵
- 85 真剣な眼差しをして真菜箸を扱う板前まだ未成年
三重県津市 樋田 由美
- 86 これはただ老化防止と思えども出来なきや悔しい菜園ゲーム
三重県津市 樋田 由美
- 87 あらなんと野菜売場にすべりひゆ畑の雑草がスーパーフード
埼玉県熊谷市 小熊 星子
- 88 炊き上げてうすき緑の嫁菜飯昭和の母のおもてなしあり
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 89 人の世をやさしと思ふ花菜漬夫の目少しほころびてをり
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 90 風の私語菜の花畑につきつぎと蝶の翔び交ふ黄泉の国かと
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 91 閉じし翅しずかにひらき菜の花の妖精のごと風を起こしぬ
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 92 菜をつめば朝な朝なに妣の顔浮かびて消ゆる幼きわれも
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 93 杓子菜の干葉の味噌汁啜る朝日向のかをりおふくろの味
群馬県沼田市 内山 路鳥
- 94 水温み凍土目覚めたとう立ち菜おてんこ盛りの春をいただく
群馬県沼田市 内山 路鳥
- 95 本当は野菜の仲間イチゴとかメロンにすいかパイナップルも
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 96 香菜を避ける人生やめにしてカオマンガイに緑添えよう
群馬県沼田市 岡本 有未
- 97 菜箸でつかむ素麺ツルリンと夏バテ防ぐお酒とアイス
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 98 待ちわびた恵みの雨に土湿り野菜成長私私休憩
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 99 細切りにしたはずの菜が冷汁でひとつにつながら紫蘇の香が立つ
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 100 旬野菜体調悪く食べれない右から左通りすぎてゆく
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 101 メンチ揚げパセリを添えて徐に肉惣菜のソースで仕上げる
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 102 菜箸を持つ手に見とれていることは隠し味のチョコレートと共に
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 103 山菜のごはん懐かし母の味月日は流れ十七回忌
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 104 夏野菜冷蔵庫からはみ出して私の脳を侵蝕してく
群馬県沼田市 小林 恵美子

- 105 先延ばし癖ある私だけが知る冷蔵庫の菜の花ばたけ
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 106 畑なかにほどろに生えしべんり菜の残る若葉に群がる小虫
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 107 菜と桜咲く昼過ぎの人混みを寄り添った君明日は彼方へ
群馬県昭和村 加藤 南風
- 108 過去になき本気込めたる老の身の種まき植付け菜園耕作
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 109 下呂に食む漬菜の味にあがないき
どこから変わるや三河の味に
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 110 通夜・葬儀大事二日を遣り過ごし今日は白菜十株とかぶを植えぬ
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 111 初恋の君の訃報を耳にせり空苾菜を山盛り炒めき
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 112 古棚に祖父の形見の『菜根譚』朱筆の書込み幾度も読みき
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 113 一年生菜の花畑のあぜみちを胡蝶のように舞い踊りくる
群馬県高崎市 猪俣 軍司
- 114 しづか夜にまなこ閉じれば菜の花と「おぼろ月夜を」唄ふ母見ゆ
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 115 みつばちに菜花ひと群刈り残す従姉は黄泉へみつばち何処に
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 116 職退きてスマホと本を師に据えて夫の畑に小松菜出揃ふ
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 117 山菜をさがして山に入りたれば熊に会ふかもこはこは進む
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 118 大根と白菜育てし畑なのに荒らしてごめんと母に詫びるよ
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 119 菜園を荒らす犯人猿の群れ猿ヶ京すら憎しと思ふ
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 120 菜箸に伝はる感触たしかめてそろそろかなと天ぶらあげる
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 121 タアサイ菜丸く開けば花のやう大きく育てと眺めてをりぬ
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 122 ごくわづかつくる野菜の畝合ひに子どもを背負ふ精霊蝗虫
大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子
- 123 亡き母が寒に干したる大根菜の味噌汁の味からだ温もる
青森県八戸市 木立 徹
- 124 子等の待つ野菜作ると山畑に鋤を振るえば力湧き来る
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 125 木犀の心地よき香は流れ来つ越冬野菜の種を蒔きたり
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 126 冬越しの菜大根採る短日にパートをしつつ幾日もかけて
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 127 囲ひおきし野菜は残り少なくて長かりし冬終らんとする
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 128 「なつばの菜」言ひつつ習ひし孫のいま青物足らふや一人の暮し
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 129 摺子木を使つて胡麻すり懐かしく若菜目にしむ料理母の
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 130 旅先に群馬ちゃんタオルのネーム入り「紗菜」の目に入る孫の名なれば
群馬県沼田市 田村 鶴江

- 131 昨日から菜食主義にしたけれどケンタッキーのとりの日パック
青森県青森市 高橋 圭子
- 132 菜の花のはうがスイセンよりも好きそめいよしのに寄り添ふ色は
群馬県前橋市 細井 美登里
- 133 春告げるかき菜を食めば吾の心軽し清けしハミングも出づ
群馬県前橋市 細井 美登里
- 134 花の時季やまずに続く菜種梅雨われの心も憂い多き日々
群馬県前橋市 細井 美登里
- 135 母亡くて香菜子は家族の料理長寡暮しの爺の分まで
茨城県笠間市 飯田 初江
- 136 放っておく訳にはいかぬさりとて勝てる気もせぬ杉菜十葉
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 137 根菜類秋深まれば甘み増し濃い味わいとA Iの言ふ
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 138 巧みなるディスプレイに惑はされデパ地下惣菜あれもこれもと
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 139 畦道に嫁菜の咲けばおのづから野菊の歌を口づさみをり
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 140 なんとまあ安いと都会より来し人は芽花椰菜を三つつ買ひ行く
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 141 根菜の具沢山の味そ汁は 母の愛情あふれむばかり
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 142 母手製の、かじき入りの白菜鍋 心あったか外は木枯し
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 143 馬見塚の母の実家の、お茶受けは 伯父が育てし青菜のおひたし
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 144 八宝菜は私の好物 女子寮の、おばさん達に感謝し食したり
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 145 東京のデパート地下の総菜は よりどりみどりで時を忘れぬ
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 146 山菜と串揚げ食し母と見たり 隅田川花火大会
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 147 前菜はチーズとパテを少なめに デザート楽しみホテルビュッフェ
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 148 細身の私の食事の前菜は サンドウィッチやピザを一切れ
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 149 私の食は一汁三菜 デザートにフルーツとスイーツ付けをり
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 150 盆の夕げ青菜とナスの油みそ 料理上手の亡祖母、想い食す
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 151 菜の花を轟音で鋤くトラクター春を破壊で代謝させてく
長野県松本市 戸来 あい
- 152 菜箸は誰の指より勇敢で湯や油にも拒みはしない
群馬県沼田市 蛸山 恵子
- 153 菜箸で鍋から取り出し大皿に手際良く盛る板前さすが
群馬県みなかみ町 佐藤 静江
- 154 夫採るワラビ、タラの芽、コシアブラ山菜並ぶ夕餉の食卓
群馬県みなかみ町 佐藤 静江
- 155 雨降れば野菜畑も潤って大根は葉っぱのびのび広げ
群馬県みなかみ町 佐藤 静江
- 156 夏雲と秋の雲とが混ざりあい親しみ不足の今年の野菜
宮崎県日向市 黒木 金喜

- 157 菜畑は黄色い空で蟻の巣を緑の雲と共に見守り
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 158 新鮮な小松菜の束迷いなく切り刻むあのリズム聴こえる
群馬県沼田市 岡本 有未
- 159 高菜つみ過去さかのぼる我が畑希望の種に天の雨水
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 160 今年こそ種から白菜育てるぞ気付けば秋で苗買いに行く
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 161 十日後に咲いているのか菜の花は揺らぐ心と黄昏を待つ
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 162 白菜は野菜の中で漬けても煮ても焼いても旨い早く食べたい
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 163 毒もなくトゲも持たない菜の花は優しさ醸す黄色と緑
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 164 コンロ前菜箸まわし手拭いを額にあてる昼のお勝手
群馬県片品村 金子 美由紀
- 165 ありがとう野菜スティック旨かった いいえ、それはウサギのエサです
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 166 青菜食む咀嚼の音が脳内に響きわたしはサナギになるよ
群馬県みなかみ町 小室 史
- 167 ラーメンと共に味わうわさび菜井夏の暑さを吹き飛ばすカラ
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 168 おかんから831と来るライン今夜もやっぱ野菜スープか
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 169 ゲシユタルト崩るるほどに菜畑を見詰めて閉ざすまなうらが海
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 170 浅漬けのほろ苦し味わさび菜の鼻から抜ける爽やかな青
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 171 異業種の友とこれから語りつつ一菜毎に三杯の酒
群馬県昭和村 加藤 南風
- 172 菜の花のなですと鈴の声聞こえ美しいのひと早口で言う
群馬県片品村 金子 美由紀
- 173 菜の花や遠くに霞む雪の山いつものこの景色いつまでも
群馬県安中市 福田 誠
- 174 菜を摘む手とめふとおもふ花咲かす夢を抱かむこの一株も
群馬県安中市 新井 八重子
- 175 叱られて青菜に塩の幼子は母に抱かれ心戸惑ふ
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 176 絶え間なく咀嚼続けるヤギの口青菜またたくシュレッターに消ゆ
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 177 胡瓜茄子ピーマンオクラ夏来ればしばし菜食主義者となりて
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 178 雪国の厳しき耐えた人の食む冬菜の味わいふくよかなるを
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 179 太古には名もなきままに食べ継がれ春の野山に山菜出る
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 180 もち菜摘む手をころげ落ち玉霰蟻穴の巣戸たたく音のす
岐阜県中津川市 吉田 順代
- 181 野菜畑を任せて隣の爺行きぬ葱の収穫我に命じて
埼玉県小鹿野町 根岸 恵美子
- 182 大根と小松菜の種を買ひに行く暑さ続きに播き時遅る
埼玉県小鹿野町 根岸 恵美子

- 183 菜箸で氷砂糖をかきまぜる自家採りの梅のシロップのビン
群馬県川場村 桑原 謙一
- 184 取り残され畑に枯れし白菜の形そのまま凍てつきてあり
群馬県川場村 桑原 謙一
- 185 生育の盛りを過ぎし菜園の小さき茄子は朝露に濡る
群馬県川場村 桑原 謙一
- 186 利根川の土手は菜の花見はるかす涯なき宙へグライダーの飛ぶ
群馬県榛東村 岸 和夫
- 187 三月の日差し温もりようやくに春の証しのかき菜を摘みぬ
埼玉県本庄市 清塚 茅香子
- 188 菜の花を借景にして青空を掴^{つか}めるような吾子の万歳
群馬県沼田市 桑原 環世
- 189 頭垂れ力を失う夏野菜我が子以上に水やり育て
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 190 クロネコへ想いを込めた夏野菜独り暮らしの吾子へ届けと
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 191 ひたむきな野菜の花のど根性特にミョウガは誰にも負けぬ
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 192 甘くない野菜ジュースを吸い上げてストローが鳴く西武新宿
群馬県沼田市 岡本 有未
- 193 野菜弁当揚げ物湯煎鍋何か美味しい魅惑の温度
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 194 根菜の食べ過ぎ注意腹こわす食物繊維摂り過ぎになる
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 195 リズム取りまな板の上刻んでいる小松菜揺れて味噌汁のなか
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 196 白菜漬け食欲進む酷暑の日いがぐり落ちてイチジク開く
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 197 品定めされてるような東京でどうぞと出された八宝菜は
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 198 キャベツ派か白菜派かとプチ戦^{いくま}向かい合わせて餃子を包む
群馬県片品村 金子 美由紀
- 199 南国の知らない土地で見慣れたる稲の隣に知らない野菜
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 200 菜々美がさままた明日って言うからさ学校来たけどいいじゃないじゃん
群馬県みなかみ町 小室 史
- 201 畑から菜っぱを抜いてはどうぞ会うたび感謝上手かったよと
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 202 堤防の盛りを過ぎた菜の花に一羽の蝶の夢は果てなく
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 203 忘るとは和するに通ず水にわする菜にわするみずからをもわする
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 204 花色の白からうすい桃いろに心変わりか酔芙蓉
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 205 夏の葉が変わる姿を見送って人混みの中孤独が迫る
群馬県昭和村 加藤 南風
- 206 朝日浴び畑に残りし菜の花につゆが光りて世間映しぬ
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 207 寒き冬耐えて残り菜の株に黄色き物が僅か芽吹きぬ
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 208 菜の花が畑の回り咲き乱れ辺り一面春をばら撒く
群馬県みなかみ町 番場 正夫

- 209 蒔かぬとも勝手に咲きし菜の花に散歩せし人顔ほころばせ
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 210 味噌汁の香おりに混じる菜の匂い朝餉済ませて畑へ急ぎぬ
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 211 春キャベツ菜花アスパラばりつぼり夫はいつしか蝶になるらむ
群馬県前橋市 中澤 ひろみ
- 212 野菜にも親ガチャありや間引かれた大根葉炒め味はひぶかし
群馬県前橋市 中澤 ひろみ
- 213 定年後始めた農業三十年夫の菜園プロ級となる
香川県丸亀市 寒川 靖子
- 214 伝来とふ唐菜の種は友よりのこつぶ黒きを心して蒔く
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 215 百名山成したる友のゆめうつつ菜の花見しとひと夜を語る
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 216 遠き日をそつくり仕舞ひ「若菜集」私はそこへたまには帰る
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 217 鬱血を確かめて放つくちづけに青々と在り空芯菜は
三重県四日市市 埜^{のなか}中^{なか} なの
- 218 いちめにんに土手に輝く菜の花はカラシナの花 アクセルを踏む
岡山県和気町 行正 健志
- 219 青菜いる熱き味噌汁すするとき同じ地球に飢ゑるガザの子
茨城県鹿嶋市 大熊 佳世子
- 220 サラダ菜はメトロノームの正しさでうさぎの口にしゃくしゃくと消ゆ
千葉県市川市 岡本 恵
- 221 夏野菜水かけやれば応へくれ年金生活助けくれたり
山形県鶴岡市 大沼 二三枝
- 222 菜根の夕餉を終へて寝に就くよ老いの一人の夜が華やぐ
愛知県知立市 星原 風堂
- 223 菜園に赤のシヨベルとポット苗遺ししままに妹は逝きたり
群馬県高崎市 井田 建
- 224 大原の野菜の畑の細道をゆるりとあゆむ老尼の草履
群馬県高崎市 井田 建
- 225 菜畑の蜘蛛の打ちたる銀色の小さき投網に金の朝露
群馬県高崎市 井田 建
- 226 舗装路のすき間に生ふる菜の花は何処より来て一人しをるる
兵庫県宝塚市 小竹 哲
- 227 菜の花がもしも絶滅危惧種なら紋白蝶の未来危うし
東京都清瀬市 野原 てい子
- 228 菜の花が咲く頃古稀となる夫よ青春切符の旅をしようか
東京都清瀬市 野原 てい子
- 229 丘ひとつのみこむごとく菜の花が押しよせてくるかがよひながら
宮城県宮崎市 大重 知加子
- 230 佐賀ことば習ひし夜はさざめきて「今日の菜は貝」「キョーノシヤハキヤー」
宮城県宮崎市 大重 知加子
- 231 菜食も野菜の命奪うこと友よ菜食は偉大に非ず
岐阜県郡上市 海^{わたつみ}神^{かみ} 瑠^る珂^か
- 232 宝石のような前菜食みたればそれだけでコース終える心地す
大阪府大阪市 多治川 紀子
- 233 毎土曜惣菜届けてくれしきみは父の他界を深く寂しむ
大阪府大阪市 多治川 紀子
- 234 祖の墓参三日の留守に菜園の茄子もピーマンも夏草の中
福島県いわき市 鈴木 椿

- 235 間引き菜や残す一本迷ひ抜く成長株ぬいたかと後悔止まず
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 236 菜を蒔きて子鳥ススと足で蹴り可愛いいけれど他を頼むよ
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 237 菜の花の畑にカバンを投げ捨てて隠れん坊した子達何処に
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 238 菜の花と桜のコラボ介護車のいつものコースはずれて廻る
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 239 落ワラビぜんまい惚の芽いつしかに山菜待つ春ころの弾む
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 240 毎年を千本桜と菜の花の共演みる旅行事と決むる
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 241 玄関を野菜の箱で封鎖する悪戯してた友の逝きたり
愛媛県新居浜市 大賀 康男
- 242 幼日に「野ばら」のハミング孫菜津実いま教職の道に勤しむ
群馬県伊勢崎市 木村 あい子
- 243 前菜は春キャベツのサラダにて舌鼓うつ八十の祝ひに
神奈川県横浜市 高山 克子
- 244 出来たての総菜並べ食む前に夫ならひの醤油をかける
神奈川県横浜市 高山 克子
- 245 菜の花のからし和えをば仏前に窓外に聞こゆ鶯の声
神奈川県横浜市 高山 克子
- 246 重ね来ぬ夫婦としての年月を静かに見守るお玉菜箸
静岡県沼津市 石田 禰子
- 247 まず野菜呪文のように唱えつつ光る新米誘惑恐し
群馬県みなかみ町 ベネット 昭子
- 248 菜の花と一緒にの写真笑みこぼれ褪せてもそこは春の香りが
群馬県みなかみ町 ベネット 昭子
- 249 「サリーナス」大地豊かに広がりぬ飽かず眺めむ野菜畑は
大阪府堺市 名川 よしえ
- 250 レストラン洒落た前菜いちじくが祖母と煮詰めたジャムや遙けし
大阪府河内長野市 木村 嘉子
- 251 炎天に干されゆく菜よ久に降りし夜の雫を葉裏に隠す
群馬県前橋市 岡田 正子
- 252 そちこちに菜の花続く野の道を杖つく夫に添いて歩めり
埼玉県本庄市 明石 俊恵
- 253 秋野菜種は蒔けども発芽せず猛暑と日照りに神頼みせり
埼玉県朝霞市 金澤 隆男
- 254 白菜の種を蒔けども発芽せず猛暑と日照りに適時過ぎたり
埼玉県朝霞市 金澤 隆男
- 255 菜の花の揺れるにまかせ野辺おくり 車のわだち還らない春
群馬県前橋市 加藤 孝博
- 256 いちめんの山葵田の隅菜の花が 天狗ばやしに揺られて眠る
群馬県前橋市 加藤 孝博
- 257 蒼天の裸の君は菜畑に 秘めたる花を隠して笑う
群馬県前橋市 加藤 孝博
- 258 休日の花木センター野菜苗つぎつぎ買われて 人の営み
群馬県高崎市 大塚 とみこ
- 259 電車旅終えて明るき東京で野菜スープのころみを溶かす
東京都西東京市 三好 あやこ
- 260 夏野菜猛暑に負けて半作やされど負けじと秋野菜まく
群馬県みなかみ町 澁谷 典子

- 261 **新米や菜は要らぬという父の大塩むすび眼裏にあり**
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 262 菜園に朝な夕なと通う夫野菜育つを喜々と語らむ
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 263 満開の桜の根元そっと笑む菜の花見事春を演出
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 264 菜の花の芯をつみとり塩漬けに妣のもてなし春一番や
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 265 大皿に盛られて夕の野菜天食べる家族の会話がはずむ
群馬県みなかみ町 内田 春江
- 266 先丸く長さも揃わぬ菜箸は母の煮炊きの歴史を語りぬ
神奈川県横浜市 西前 敦子
- 267 **若き日に学びし歌の「菜摘ます兄」名告るは当り前の世となる**
群馬県高崎市 石井 省三
- 268 あの味を求め二晩続けての青菜炒めに首を傾げる
長野県安曇野市 茅野 勇史
- 269 背丈ほど伸びる菜の花に分け入りて黄の花香り蝶々となる
埼玉県本庄市 野口 美江子
- 270 高値とて身体に良いとレジ済ます籠半分の新鮮野菜
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 271 一日の野菜分量ジュースにて栄養補給今朝の食卓
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 272 糧求め縄文の人賢^かけれ毒か食えるか自然の魚菜
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 273 さくら咲くその下に咲く菜の花は日本の春の原風景なり
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 274 朝早くつみ菜をつみておひたしに厨は春の香につつまれる
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 275 大樽に白菜つけしあの頃が吾が家も子等も育ち盛りよ
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 276 菜箸にほろりほどける母の味しよっぱくなりぬ在りし日よぎり
大阪府羽曳野市 凜 七星
- 277 菜單^{メニュー}から当てずっぽうで注文す 出会いはいつも冒険なのよ
大阪府羽曳野市 凜 七星
- 278 飲み会の後に立ち寄る長男に野菜多めのスープ多めに
千葉県柏市 まれ よ
- 279 両膝に人工骨得て山畑にリハビリもかね菜の苗まびく
大阪府岸和田市 向井 靖雄
- 280 新聞に包まれし水菜広げれば土と一緒に大谷の笑顔
岐阜県飛騨市 江尻 恵子
- 281 ひんまがる野菜並ばぬスーパーの小学生たち乱れず並ぶ
千葉県柏市 佐藤 和裕
- 282 **棄てられる野菜でできたクレヨンでスイカ模様にするま塗ります**
千葉県柏市 佐藤 和裕
- 283 児童らと炊き出し用の野菜作り高校生の防災ガーデン
徳島県阿南市 坂東 典子
- 284 向き合って食うより一人かなしげに食いてえもんだ八宝菜は
岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢
- 285 つゞきたる猛暑にたえしひまわりの菜畑のそばに見事にさきて
群馬県みなかみ町 松井 とし子
- 286 秋深み峡の空澄み迷ひなく亡き母教への白菜を漬く
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

- 287 ささやかな老のふたりの夕餉には一握りの菜卓を彩どる
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 288 秋の陽の落つる早さを気にしつつ峡の畑に唐菜をまきぬ
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 289 秋耕し大根冬菜の種おろす緑の芽ぶき生命かがやく
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 290 秋たけて大根冬菜緑ます小さき苗を愛でておろぬく
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 291 猛暑にも負けじと耐えし菜園の無農薬なる茄子きゅうり挽ぐ
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 292 菜園は朝な夕なの我が居場稔れる野菜に心おどらす
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 293 指パッチンみたいな音を立てながらかぼちゃを移す秋の菜箸
兵庫県三田市 藤野 椎_レ月_キ
- 294 フライパンの生卵色を菜箸で円を描けば玉子焼き色
兵庫県三田市 藤野 椎_レ月_キ
- 295 山菜の好きな少年惚の字を覚えて漢字検定挑む
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 296 分け入りて山菜探す爺二人互ひに熊と間違へ騒ぐ
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 297 山下りて陽の沈みたる田舎道駅まで二キロの菜の花畑
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 298 一面に菜の花ゆれる河川敷園児もゆれて春の円舞曲
大阪府柏原市 田倉 あけみ
- 299 裏の川に菜洗いをする祖母の手にかかればうまき漬物となる
岐阜県飛騨市 横山 美保子
- 300 菜の花の一壺にあまる菜の花忌空ゆく雲の眩しかりけり
東京都町田市 原澤 昇司
- 301 薄氷張りたる樽の底ひより残り少なき漬菜とりだす
東京都町田市 原澤 昇司
- 302 をさなごは与へられたる鉛筆を菜箸にして母のまねせり
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 303 やや重き菜切り包丁言ひ出せぬことばかりがつながつてゐて
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 304 京土産これがいちばんうれしとて壬生菜の種に母は笑みをり
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 305 わが勝手知つたるChatGPTすら放て一汁二菜
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 306 久久にバイクに触るる吾が胸に風切れと言ふ松島菜々子
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 307 ポクの棲む惑星は玉菜_{ほし}というんだよはらぺこなんてありえないんだ
群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子
- 308 菜箸をトングに替へしリウマチの母はひよいと鯉鮓を腕へ
群馬県藤岡市 堀口 りつ子
- 309 定年後野菜作りに励む友肌の色まで茄子に似るなり
愛知県一宮市 伊藤 輝和
- 310 あふれでる見えないものを菜箸でこぼれぬようにかき混ぜてみる
群馬県藤岡市 神田 恵美子
- 311 頭_ずの中に野菜の畝が浮びきて成長具合を想いて眠る
山口県光市 松本 進
- 312 看病の母に代わって子のつくる野菜炒めは少し辛くて
群馬県渋川市 木暮 由利子

- 313 道の駅初めましての野菜あり食べ方を聞き今日は置き去る
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 314 **小4の看護師役の菜々ちゃんに注射打たれて寝るだけの役**
群馬県沼田市 岡本 有未
- 315 もらい物野菜のスイカ冷やし入れ八等分で暑い日食べる
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 316 取り組むか健康チャレンジキャンペーン野菜サラダを毎日は無理
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 317 行き戻りそっと覗いて立ち止まり四五六菜館君の直感
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 318 二百株畑に植えて殆どを人にあげてる家の白菜
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 319 無くさないように紐をつけたのに切れば離れる菜箸も我も
群馬県片品村 金子 美由紀
- 320 夕方に値引きのシール貼られてる惣菜選ぶ人と目が合い
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 321 大根菜青虫群れて穴だらけ消毒をして収穫を待つ
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 322 母の見た菜殻火遠く天空の川は流れて時はこぶ舟
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 323 収斂進化の末なる内耳の蝸牛ひたむきに菜の雨音を食む
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 324 **べんとうの片隅にあるひじき煮の最後のひとつの鹿尾菜愛しき**
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 325 菜の花の咲く時迎え言交わす事無い時を無いことと言う
群馬県昭和村 加藤 南風
- 326 亡き義母の白菜漬けし大樽はまだ捨てがたく物置の奥
群馬県みなかみ町 高橋 芳子
- 327 子どもらが集まるといふ夏の日の菜は何にせむ回るすしとぞ
宮城県宮崎市 岩切 喜久代
- 328 ふるさとの菜の花と桃麦の緑ほんに帯よと妣は称えき
京都府舞鶴市 鱒本 ミツ子
- 329 狭小の庭の一角ミニ菜園 熟れし初物ひとくち毒味
岡山県倉敷市 三宅 照司
- 330 流れくる小川に板掛け菜を洗ふ秋の慣ひの母の頭ちくる
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 331 背をまるめ初秋に種蒔く春の菜の甘さ増しゆく冬越えたれば
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 332 朝に摘み夕べに菜を摘み待つ人の笑み浮かびくる春の冬菜に
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 333 二ヶ月の主なき庭に楚楚と咲く菜の花かすか揺れる卯月
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 334 母のまだ分かるものでも揃へむと少なさに泣く すみれ菜の花
東京都練馬区 稲山 博司
- 335 人の世はもう十分と背をまるめ夫は今日も菜園のヒト
群馬県榛東村 川本 福江
- 336 大樽の漬菜も残り僅かなり豆まきの夜は賑やかなりし
長野県安曇野市 穂苅 真泉
- 337 笹の目をくぐる若菜は流れゆき故郷の沢の碧くきらめく
群馬県藤岡市 清水 静子
- 338 手の窪に載せし菜の花の黒き種を乳癌の予後を祈るかに蒔く
神奈川県愛川町 富田 茂子

- 339 菜の花の双葉の被くしろがねの霜に注げる冬至の朝日
神奈川県愛川町 富田 茂子
- 340 父親が野菜嫌いの五歳児と急に八百屋に寄る帰り道
東京都豊島区 工藤 好洋
- 341 菜箸で混ぜる袋のラーメンはまともな料理に一步近づく
東京都新宿区 岩本 朗
- 342 冬来たりてキャベツの権勢衰えて白菜の威光ぐんと高まる
東京都新宿区 岩本 朗
- 343 劇中の殺人現場に現れぬ正義の味方菜切り包丁
東京都新宿区 岩本 朗
- 344 ふくよかな赤子のような白菜を抱え日暮れの家路を急ぐ
神奈川県横浜市 初染 奏多
- 345 残りもの一皿ごとに盛り付けて気分は京都のお番菜屋さん
大阪府岸和田市 ツキミサキ
- 346 沐浴の温度を測る指先が菜箸のごと水面を揺らす
北海道滝川市 武田 生吹
- 347 菜の花の咲ける城址春爛漫訪ねし人に歴史を語る
群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 348 盆すぎて秋の野菜の種を蒔く冬に備える老いの楽しみ
群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 349 亡き母の白菜漬の歯ごたえとほろ甘き味懐かしきかな
群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 350 信州の旅で食せし野沢菜のおやきの味を今も忘れじ
群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 351 菜の花や桜咲く駅乗り継ぎてのと鉄道に春を確かむ
滋賀県大津市 船岡 房公
- 352 名の漢字「菜っぱの菜です」と答える子に母は言いたし「菜の花の菜」と
鳥取県琴浦町 中本 久美子
- 353 一瞬に熊かともがふ黒帽子菜の花畠に草採る嫁の
群馬県高崎市 湯浅 茂子
- 354 いつまでも野菜ジュース売っている我今後も時折付き合ふ
大阪府大阪市 水上之川
- 355 いつまでも体良好野菜類我自身野菜大好きなり
大阪府大阪市 水上之川
- 356 野菜とは緑形態多いなり体に良い食べ物付き合ふ
大阪府大阪市 水上之川
- 357 沖縄よ一年中温暖なり野菜のゴーヤチャンプル旨し
大阪府大阪市 水上之川
- 358 いつまでも菜の花畑綺麗なり江戸時代行灯に使われる
大阪府大阪市 水上之川
- 359 頭より大きな白菜抱きかかえ幼子畑のヒロインになる
岩手県盛岡市 木村 英樹
- 360 アキダイの野菜価格が基準なり靖国神社の桜のごとく
東京都中央区 佐藤 直大
- 361 忘れぬ「つけななみかみ、おゆをのんで」至高の漬け菜に未だ出会えず
東京都中央区 佐藤 直大
- 362 百近き要支援なる母といて指示待ちの子が若菜摘む
群馬県千代田町 大谷 文人
- 363 富弘の菜花の詩画を見入りおる母思ふ者と子を思ふ母
群馬県千代田町 大谷 徳湖
- 364 土産なる母の形見の菜箸は戸棚にありて出番待ちおり
群馬県みなかみ町 大川 美知子

- 365 雨を得て冬菜の芽立ちはしまりぬけものみちあり熊の足あと
群馬県みなかみ町 遠藤 長代
- 366 肉・魚・野菜よく食べよく動き遂に到達平均寿命
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 367 あの頃は日本国中貧しくて耐えて凌ぎて一汁一菜
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 368 城跡を埋め尽くしたる菜の花に蝶が舞い飛ぶ長閑けき日和
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 369 春風に揺れる菜の花黄の群生眺め微笑む遠き日の君
群馬県みなかみ町 宮崎 正光
- 370 薬膳の根菜レシビみる度に体の不調癒してみたし
群馬県高崎市 木内 寿子
- 371 菜飯食べ裸で過ごした昭和の日父も母も炭焼きの日々
群馬県みなかみ町 林 好一
- 372 菜の花に魅せられ遠く回り道日暮れて菜の香胸に収めて
群馬県みなかみ町 林 好一
- 373 白菜を小さな畑で育てたり何株育てよ家庭菜園
群馬県みなかみ町 林 好一
- 374 菜の花に桜咲く見る報道は伊豆の川津か思いを馳せて
群馬県みなかみ町 林 好一
- 375 菜の種や友より届きさて何処に庭では狭く土手に撒きたし
群馬県みなかみ町 林 好一
- 376 菜の花の迷い道に人生の出口分らず老いてしまいいぬ
長野県飯綱町 井澤 榮一
- 377 「七つの子」歌えばいつも怒ってた菜々子いつしか大人になった
秋田県秋田市 蓬田 真弓
- 378 菜の花の立ち居振る舞いスキャンして行方不明のわたしの声音
神奈川県川崎市 徳岡 暁奈
- 379 菜の花は故郷の野に乱れ咲く一面の色に雲雀の声聞く
群馬県前橋市 小畑 吉克
- 380 菜の花に雄蝶雌蝶の舞い遊ぶ思い届けよ只一途に
群馬県前橋市 小畑 吉克
- 381 菜きざむ厨のすみのラジオ告ぐ石垣島は風力4と
埼玉県羽生市 浅見 邦恵
- 382 「野菜餃子を」わずかな改善もくろみてテイクアウトす健診前夜
東京都中央区 後藤 由果
- 383 駆け込んだスーパーみどり惣菜の「赤い彗星ハンバーグ」買う
埼玉県春日部市 藤澤 由紀
- 384 教室に菜の花和えと残されて眩しいだけの陽を浴びている
神奈川県横浜市 黒川 かおる
- 385 悔しさは胃の中でもう煮えていた水菜を鍋に落とす頃には
神奈川県横浜市 黒川 かおる
- 386 子のように両手で抱く白菜を夫と食いきる頃春になる
長野県箕輪町 小林 泉
- 387 小松菜の小さき苗から手しおかけ 今、食卓に並ぶしあわせ
群馬県みなかみ町 甲斐 陽子
- 388 吾のために残っていたか夕暮れの産直コーナー 亡父の名の菜
群馬県高崎市 松本 由美子
- 389 菜つ葉の菜ではなく奈良の奈なんですけどまあとちでもいいです
東京都文京区 遠藤 玲奈
- 390 料理して嫌いな人を忘れよう菜箸で呪いとかもかけよう
埼玉県北本市 深谷 健

- 391 耳ふたつ桜をのぞむみなかみの河口のまちに菜の花ゆれる
群馬県沼田市 北森 修
- 392 菜箸に薄焼きたまごはひらめいて舟漕ぎの掬う月を想えり
東京都武蔵野市 北谷 雪
- 393 橋向こう髪をなびかせペダル踏む菜のつくあの子僕の初恋
栃木県那須塩原市 イマミツ
- 394 理不尽をからめ飲み込む空心菜噴門くぐり酸に溶け出せ
栃木県那須塩原市 イマミツ
- 395 摘みたてのかき菜茹でたて冷やしたて青虫よりもモグモグ食べる
栃木県那須塩原市 イマミツ
- 396 味噌汁の白菜ほどにくたくたとよく生きた日のふとん、やさしい
埼玉県所沢市 須藤 ゆかり
- 397 菜を間引く爪に入りし憎き土時間をかけたネール台無し
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 398 貴重なる時間を割いて蒔いた菜を無残に喰いし憎き虫ども
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 399 菜の花でままごと遊びした友は太く短い人生終える
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 400 菜の花に群がる蜂を捕まえて蜜を横盗る竹馬の友と
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 401 満開の菜が咲き誇る畑の上じゃれて戯る蝶はきらめき
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 402 熱々の仙台味噌の間引き菜の汁すすり込む秋分の朝
岩手県遠野市 森内 詩紋
- 403 黄に明る畑一面の菜の花はなほも映えをり海の青さに
東京都杉並区 堀井 邦子
- 404 菜の花の群れ咲く中でかくれんぼ黄色いリボン「ここよ」となびく
宮崎県宮崎市 青山 昌子
- 405 高千穂や若菜摘み摘み進み行く神代の里はいつしか茜
宮崎県宮崎市 青山 昌子
- 406 菜の花は冷蔵保存をいやがってすっかり春を咲かせてしまふ
福岡県北九州市 水の 眠り
- 407 菜の花の苦さと甘さを噛みしめる母の小言と同じあんばい
大分県大分市 服部 明日檜
- 408 七菜の会万葉集を学びたりき有川教授の声を忘れず
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 409 朝食は野菜ジュースとヨーグルト一人暮しのごみ少なめに
群馬県みなかみ町 関 和子
- 410 小松菜をレース模様に喰ふ虫の傍えに舞ふ秋蝶の二羽
群馬県みなかみ町 関 和子
- 411 春先の菜花の種子^{たね}つみ取りて休耕田に咲かず夢もつ
群馬県みなかみ町 関 和子
- 412 白菜の種の直播き平畝に双葉出でしがつつましく並む
熊本県熊本市 下城 公秀
- 413 く文字とふ漬け菜で済ます朝食の母の茶がゆが懐かしくなる
大阪府河内長野市 寺田 愛子
- 414 菜の花をなぎ倒してゆく子へさげぶ学校はいい行かなくていい
宮崎県日向市 佐々木 泰三
- 415 妣造る舌に残れり若菜和え記憶辿りて味試しをり
群馬県みなかみ町 しゅんらん
- 416 電車待つホームの前に広がりし菜の花畑に心浮き立つ
群馬県みなかみ町 しゅんらん

- 417 かき菜摘む指に伝いし感触は春を掴んだそれに想えり
群馬県みなかみ町 しゅんらん
- 418 ぼきぼきと若菜手折りし感触に思わずいでし唱歌一節
群馬県みなかみ町 しゅんらん
- 419 誰が蒔きし土手一面を黄に染めて菜の花人をそつと招きぬ
群馬県みなかみ町 しゅんらん
- 420 物価高家計の足しにとわが庭に野菜を植えぬ 虫との戦ひ
宮崎県宮崎市 中村 葉月
- 421 冬野菜苗を植えむと庭に出る日暮れの早し上弦の月
宮崎県宮崎市 中村 葉月
- 422 煮えたぎる湯に放ちたる菜の花のさみどり冴ゆる命いたたく
東京都国立市 宮崎 洋子
- 423 いちめんの菜の花ゆれて雲雀あがりこの昼下がりへふふ溶けてゆく
秋田県秋田市 篠田 和香子
- 424 市バス待つひとりぼつちの畦道に月よりも濃い菜の花が咲く
埼玉県ふじみ野市 雨雨 雨汰
- 425 麻痺を持つ母の炒める小松菜が手鍋のうえで歌うブルース
埼玉県ふじみ野市 雨雨 雨汰
- 426 いつからが春かと聞かれ菜の花に虫が来たらと今は答える
埼玉県ふじみ野市 青林 采里
- 427 ほろ苦き青春の日の初恋よ白き指先花菜摘みをり
大分県国東市 原 比呂子
- 428 畑隅にこぼれ落ちたる種有りて黄色目立ちし菜の花咲きぬ
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 429 夕焼けに赤く染まりし菜の花は己の色をそつと終いぬ
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 430 無人駅独りぼつんと電車待ちふと気が付けば菜の花咲きぬ
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 431 河岸に黄色く咲きし菜の花の種は何処の誰が蒔きしか
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 432 一目では同じく見えし黄色でも良く観りゃ菜にも種類数あり
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 433 菜の花は縦に黄色を綴るから右に開いてゆく春の本
群馬県みなかみ町 野本 ゆかこ
- 434 新しい菜箸はまだ馴染めずに少し震えて巻く卵焼き
茨城県ひたちなか市坂上 くも
- 435 体内の空をこぼして鍋底に沈みゆきたり空芯菜は
愛知県名古屋市 遠藤 雄介
- 436 太陽を摘んでみたし菜箸のやうに伸びたる飛行機雲で
愛知県名古屋市 遠藤 雄介
- 437 山菜の苦きを食みて母熊の内に生れたり真白なる乳
愛知県名古屋市 遠藤 雄介
- 438 伊勢街道雲出の川に菜花笑み武四郎の雛泣き上戸なり
愛知県津島市 秋 和 明
- 439 菜を洗い麦刈る父母が手の輝に贖う身分富貴のありや
愛知県津島市 秋 和 明
- 440 賄ひ係りを解き放たれし夫とわれ山菜づけなる日目を愉しむ
石川県金沢市 橋本 枝折
- 441 万葉集に興味も示さぬ吾娘なりき初子に「菜摘」と付けたるを告ぐ
石川県金沢市 橋本 枝折
- 442 うら庭に生ふ三葉芹摘み取りて浸しにすれば食卓かおる
島根県出雲市 金山 黎子

- 443 野沢菜の塩き辛さに食進み思わず代わり茶碗差し出す
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 444 香り良く炊き上がりたる菜のご飯春の気分をすべて満喫
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 445 若菜摘む妣の背中を思い出し時は過ぎれど我も受け継ぐ
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 446 菜を売りし朝一の声威勢よく取り立てのこと言うに及ばず
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 447 味噌汁に入りたる若菜香り立ち焚きたるご飯今や遅しと
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 448 谷水に節立つ指を赤らめて老い込む農は冬菜を洗ふ
山口県宇部市 藤井 重行
- 449 冷蔵庫にかき菜のおひたしがあるから食べてねと父のメモ
北海道根室市 季川 詩音

一般の部
【自由詠】

作品集

220人 514首
投稿順に掲載
太字作品は入賞・入選

- 1 まばゆかる光の中で一枚の皮膚になること長く忘れて
茨城県つくば市 松田 早苗
- 2 思ひ出し笑ひと言ふのでせう零れて止まぬ朝の地下鉄
茨城県つくば市 松田 早苗
- 3 産声は早く抱けと叫ぶなり二足歩行の難産となり
大分県竹田市 佐藤 政俊
- 4 絶望の過去より希望ある未来きみにあるんだ不登校児よ
宮崎県日向市 黒木 直行
- 5 新米の出荷作業を無事終えて父と眺める夕焼けの空
長野県箕輪町 市川 光男
- 6 落葉踏み白神のブナ林ゆけば桂の香の押し寄せ来たり
奈良県奈良市 堀ノ内 和夫
- 7 終生の師と選んだ国語辞典スマホ教には宗旨は変えない
宮崎県宮崎市 荒尾 洋一
- 8 義母供養 十三回忌 兄妹も 亡夫面影 一人目にする
大阪府大阪市 後藤 憲之
- 9 高関税 トランプ云云 ハードルの 高さどうなる 苦汁の苦さ
大阪府大阪市 後藤 憲之
- 10 声色を変えて電話で話す人 本当の声を知らない相手
長野県安曇野市 茅野 勇史
- 11 後書きをまだ書かないで喜寿となり人工透析八年目の秋
北海道札幌市 鎌田 誠
- 12 美しききれいな文字を書く姉のちよつとあるののハガキを遺し
北海道札幌市 鎌田 誠
- 13 頭垂れ時には日輪拒否をするひまわり畑のひまわり一本
山口県光市 井ノ口 皓
- 14 山河を父とし母とし人を恋ひ月に盃かざし友俟つ
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 15 川に沿ひ曲り曲りし道の先山のふかきわが住む都
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 16 峡空の流れる雲を道づれにこころの旅の果てることなし
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 17 妻眠る丘への道のつれづれに利根の瀬音が風に乗ってくる
群馬県みなかみ町 眞庭 義夫
- 18 逢ひたしと思ひつものれど老ゆる身に訪ふは遙けし君住む街は
神奈川県厚木市 井上 勝朗
- 19 「ちいぢい」と柩の窓にすがる児の爪立つ軀そつと支へつ
神奈川県厚木市 井上 勝朗
- 20 生れたる詩魂の蝌蚪は手も足も出でず脳の水をただよふ
東京都足立区 鷺沼 あかね
- 21 赴任する我より早く恩師よりの葉書一通「青山つくれ」と
愛媛県松山市 宇和上 正
- 22 雨具着け一息入れて杖を取りそと遍路は歩き始める
愛媛県松山市 宇和上 正
- 23 外敵にイグアナ弱いとガラバゴス日本列島に楽園の進化
愛知県蒲郡市 牧原 正枝
- 24 法堂の天井に御座す雲龍図見上げ居る者みな睨まるる
宮崎県宮崎市 中村 由美
- 25 サスペンスドラマの佳境に釘付の背後に高く鳴るインターホン
埼玉県本庄市 白藤 巳玲
- 26 ポスターの吉永小百合にいざなはれ奥四万ブルーに染まるひととき
群馬県前橋市 松下 昭代

- 27 手の平のファーストシューズ白く冴ゆ われにもありし赤ちやん時代
群馬県前橋市 松下 昭代
- 28 病にて 弱りし子犬 生きのびて 明日につなげて 祈りし家族
千葉県千葉市 うめさわ かよこ
- 29 短冊にたわんでをりし笹竹のみんなの夢の叶ひますやう
香川県三豊市 上久保 忠彦
- 30 わたくしは上牧この地が生誕地利根川、上越線の子守歌受信
群馬県伊勢崎市 齋藤 守男
- 31 読めやせぬ食べてみたいな「^{びやん}麺^{めん}」いとしさつの味かもしれぬ
東京都足立区 佐藤 春夫
- 32 美々卯港初めて海を牧水が見た喜びを啄木が聴く
岩手県盛岡市 森 義真
- 33 漫然と灰を重ねる脳天に赤や黄色の絵の具を垂らせ
群馬県みなかみ町 どりメキ
- 34 情熱を売ってください対価なら死後の魂はちみつ漬けで
群馬県みなかみ町 どりメキ
- 35 絶望し底まで堕ちて死にきれず空が見えたら文章を書け
群馬県みなかみ町 どりメキ
- 36 パツと咲き音と煙を撒き散らし失せる花火は君に似ている
群馬県みなかみ町 どりメキ
- 37 あっけなく私を振った人生がどうか不幸でありますように
群馬県みなかみ町 どりメキ
- 38 山里の子供合宿は大人気キラキラした目すいこまれし夏
群馬県みなかみ町 原澤 君子
- 39 夢に立つ貴女の頬を力こめ叩いたつもりの手が宙を切る
茨城県鹿嶋市 兎矢野 雅恵
- 40 きらきらと音も散らばる反射した空き瓶回収される遠景
東京都杉並区 井芹 純子
- 41 壊れゆく地球を見れば沁み沁みと人も自然の一部なりけむ
宮城県仙台市 角田 正雄
- 42 入院の母恋しがる稚寝かせ育児日記を書き始めたり
大阪府羽曳野市 赤澤 皆春
- 43 東経百三十九度ほんとの谷川岳が見える
群馬県みなかみ町 奈 良
- 44 筍を懇意な農夫から貰うラジオ体操に行つた留守に
埼玉県所沢市 若山 巖
- 45 冷や汗を握る拳の爪痕で手の平に二個ニコマーク付く
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 46 乙君が「星座みたい」と言つてきた右頬にあるエリダヌス川
群馬県沼田市 岡本 有未
- 47 大地震いつおきるかを当ててきた一本松も核爆発も
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 48 旅先でどこからですか尋ねられ群馬同士ではなしが弾む
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 49 憂なく不安なきよう伸び伸びと愛猫生きて我は労働
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 50 孫十歳飾りつけて皆で祝う食べて遊んで元気に育てと
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 51 町組は茂左衛門が住んだ町後ろ隣りへ石段で行く
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 52 ピポットを繰り返しながら塗りかえる記憶懐かし渋谷駅にて
群馬県片品村 金子 美由紀

- 53 東京で見かけたのぼりに描かれた麦の絵と空「上州麦豚」
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 54 夏草の中に我と犬がいて兵どもの夢の続きを
群馬県みなかみ町 小室 史
- 55 一羽鳴くまた一羽鳴くその声が山に重なり私を包む
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 56 旅先で間違えられた僕の傘こっちはもうすぐ梅雨が明けます
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 57 りんご箱に蓋して座るところから歌はわたしを始めてくれる
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 58 「往来」に羊さがしの旅すれば迷いの森にあかり灯れり
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 59 「刻勵」に新しい向き想像し二百度書いて手にした賞状
群馬県昭和村 加藤 南風
- 60 スカートをひるがへしては夏の風小さき木陰にて君を待ちをり
群馬県前橋市 木下 美樹枝
- 61 引き揚げに逝きたる幼き姉の名を墓誌に撫でやる法要の寺
群馬県みどり市 志田 貴志生
- 62 老いし身も夢想の中に躍らせて妻をさそひし四方の出湯へ
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 63 雪代のみなわ逆巻く瀬音きく何時しか消ゆる山の雪占
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 64 冬涸れのやうな身体をひきまはし今日も熟せり散歩のノルマ
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 65 玄関に控へし靴の片ずるも散歩に随ふ杖は健やか
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 66 ひもすがらすることなきしも時の過ぐ途切れを知らぬ大河のやうに
群馬県伊勢崎市 野口 弘
- 67 天保銭てんぼせんかま吠に入れて馬で出す三國峠の中継所
群馬県みなかみ町 林 いくじ
- 68 草に汚れ継ぎ当てもあるこの野良着穿き心地よく今朝は芋掘る
群馬県前橋市 和田 うるじ
- 69 風に乗り合わせ唄うよ沖繩うちな歌素朴で純情な人達と
千葉県船橋市 川崎 富子
- 70 碧い海神が与えたこの自然永久にあれかし沖繩うちなの平和
千葉県船橋市 川崎 富子
- 71 辰之の詠みしふるさと朧月千曲の岸辺野沢菜の花
千葉県船橋市 川崎 富子
- 72 紋別市の保護アザランがダンスする拳で踊るトランプのごとく
東京都東村山市 浦壁 あけみ
- 73 終活を始めし夫は無言にて飾りいしトロフィー壊しているなり
東京都東村山市 浦壁 あけみ
- 74 フィールドの真中に女性審判のトスせるコイン空にきらめく
東京都世田谷区 野上 卓
- 75 万年のときの削れる甌穴の川に蝉鳴く今年限りの
東京都世田谷区 野上 卓
- 76 故郷のはつなつの風伝えくる林檎の花咲ききみの初孫
栃木県那須塩原市 久保 澄子
- 77 あゝなんと雨は利尻を登れずにオムツをどうぞ登山口には
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 78 セルフレジ万引多きは成行かお客様は神様ですと
群馬県みなかみ町 野澤 武

- 79 夜る無きに都会の明りに群れ集う電灯の下蛾が遊びおる
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 80 選挙権よかれと思ひ底上げてまさかまさかの塩となるとは
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 81 九十度ハンドル切ったか俳歌壇牧水遠く朝日新聞
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 82 一言で他人他人と言うけれど吾もどこかに他人を抱く
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 83 我夫よ酒旅愛しその後にきらりと光る一首記せよ
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 84 理由など知らぬ存ぜぬペン一本間屋としての正義を目差す
群馬県高崎市 齋藤 宏子
- 85 障子開け畳の上をひんやりと風の渡るを大の字の我
群馬県本庄市 飯島 トモ子
- 86 する予定何もなき日はまず妻が何をしたいか聞いて始まる
宮城県日向市 黒木 直行
- 87 七日間の命捕えて弄ぶ猫は知らざり蟬の一生を
岡山県新見市 浅井 和枝
- 88 まのあたり大正池に写る顔旅するわれは若く華やぐ
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 89 旧友に会ひたるやうな黄の花よ駆け寄り愛でんニツコウキスゲ
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 90 上高地光と影の行きかひて明けの明星睡魔を払ふ
京都府舞鶴市 新谷 洋子
- 91 図書館の本の匂いのまといたる青春の記憶胸しめつける
大阪府摂津市 高橋 好恵
- 92 我が心包み寄り添うピアノの音奏でる指の強く優しく
大阪府摂津市 高橋 好恵
- 93 ひと粒の種から生れた僕達が出会って別れた何億のタネ
三重県津市 樋田 由美
- 94 月光に壊れた心を照らされて忘れてしまった笑顔のやり方
三重県津市 樋田 由美
- 95 今日もまたよかった探して歌に詠み大きな文字で母への便り
群馬県熊谷市 小熊 星子
- 96 身を寄せる真夏の電柱細い影われを見上げる先客の猫
群馬県前橋市 角田 光利
- 97 友の死をだれや知らんこのうちの行き交う車朝の人波
群馬県前橋市 角田 光利
- 98 古い呆けり夫の看取りの一部始終楽しくありて今も幸わせ
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 99 言い伝え語り継がれし言霊の幸いもたらず『義人茂左衛門』
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 100 悔いありて甲斐なき事を悩むより花の下にて濁り酒飲む
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 101 ここよりは越後となりし雪の峰トバの耳より風の声聞く
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 102 朝露の玉を落さぬつゆ草の紺色深く心に上まる
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 103 ゆく夏の暮るるに未だし季惜しみ梢に高き蝸の声
群馬県沼田市 内山 路鳥
- 104 迎へ火の煙たなびく門口に無念の父は早八十年
群馬県沼田市 内山 路鳥

- 105 一定の速度で光る太陽の呼吸に合わせ変わり来る赤
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 106 「前髪は心のとびら」額から光を放つ君がまぶしい
群馬県沼田市 岡本 有未
- 107 米価格値引きしていく小泉氏一人ぶたいで目指す安値に
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 108 あの空き地プールが出来るといいよプールじゃないよモータープール
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 109 夕ぐれの紺青色が湯にうつりふたりの距離を思い出させる
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 110 宝物はスマホの動画写真達私の歴史生きた証
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 111 ぎこちないマンション暮らし終わる午後力を入れて押すカードキー
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 112 昼下がりに蚊取りの煙でむせる僕きつと前世は蚊だったのだろう
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 113 病の身誰が信じるこの笑顔命かがやくフラの調べに
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 114 藪椿手折るその手は節くれて私の髪を優しく撫でる
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 115 尿瓶がクラインの壺に見ゆるまで右手に祖父のゆばりの温し
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 116 六月の猛暑のつづく夕つ方今年も早く鳴く
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 117 手を振ると揃って伸びをする燕巢立つ頃には気配で逃げる
群馬県沼田市 加藤 南風
- 118 フチ子さん足をひたして何想うあともう一滴で溢れるかもね
群馬県片品村 金子 美由紀
- 119 レンチンでパパッと快適晩ごはん教える料理家涼しげで夏
群馬県みなかみ町 小室 史
- 120 悲しみは風にもあるか独り居のわが耳たぶをすすり泣き過ぐ
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 121 免許証の返納決めし夫選ぶ最後に走るはふる里への道
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 122 杉林ひとり歩めば淋しさに音色かすれぬ吹く口笛は
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 123 減田の施策守りし吾が家なり高価の米を買い食み居る
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 124 この先に行つて何ある夕茜村のはずれの慈眼仏像
愛知県岡崎市 中村 佐世子
- 125 公園の緑の樹樹もはらはらとわくら葉散らす猛暑の日日に
群馬県高崎市 猪俣 軍司
- 126 雨降れば吾も雨となり流れゆき山の湖にて星浮かべたし
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 127 吾を呼びいとほし小鳥今少し待てよこの背に羽生えるまで
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 128 大雷雨 闇夜切り裂く稲光り酷暑の大地一気に冷ます
群馬県みなかみ町 中島 早苗
- 129 備蓄米当選メールの届きたりおかず一品ふやさんと笑む
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 130 燃えるよな炎天に咲く百日紅青空映ゆるあざやかな赤
群馬県みなかみ町 奥村 清美

- 131 アイス食べ満足さうな母の顔施設くらしも悪くないらし
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 132 絶え間なく光るイナヅマ轟音に逃げまどふ猫動じない猫
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 133 すぐそこに居るかもしれぬと怯えつつ熊鈴ならしこはごは歩く
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 134 誰もつかはぬ勉強机クレパスの汚れあるまま引出しが開く
大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子
- 135 庭の土つえばむ雀みてをれば一茶ものぞきこむ気のしたり
大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子
- 136 伝へたい思ひをうまく言へなくて合歓の花咲く下に佇む
青森県八戸市 木立 徹
- 137 庭隅に都忘れの咲き初めて逝きにし母の偲ぶる宵
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 138 茶の花を好みし父を偲びつつ命日に供ふ土手の白花
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 139 盆花に父の教へし奥山の節黒仙翁われのみぞ知る
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 140 調理場に若き者らと働けり八十歳の吾は元気に
群馬県みなかみ町 小林 博子
- 141 背負ふ子と揃ひの帽子に茄子もつ後ろ姿の動かぬかかし
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 142 訪ふ友の留守に見上ぐる階の窓黒猫じつと我を見定む
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 143 頼まれて夕餉与ふる三毛猫の三度の目ばたき確かに我に
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 144 さまざまな色にときめく新緑の林にあまた山桜見ゆ
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 145 「おばあちゃん」緞帳あがるや幼声大正琴の苦笑に始まる
群馬県沼田市 田村 鶴江
- 146 無かったことにしましよと言ひ捨てて私自身がズタズタになる
青森県青森市 高橋 圭子
- 147 積み石の危ふき個々を重ねてはいつか崩るを思ひ痛みぬ
群馬県前橋市 細井 美登里
- 148 つかめたと思ふとすぐに逃げて行くつれなき「ことば」に永遠の戀
群馬県前橋市 細井 美登里
- 149 留守番のほうびに母の描きくれし左手小さき黒腕時計
群馬県前橋市 細井 美登里
- 150 初恋の思ひ出のごと清らなる真夜に咲けるはカラスウリの花
茨城県笠間市 飯田 初江
- 151 「好きな詩を朗読します」すつくと立ち「初恋」詠ひし君転校生
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 152 発車してトンネルまでの幾秒か左窓に広がるわが町月夜野
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 153 吐くことでせつないんだと訴ふ猫オンリーワンでゐさせてくれよ
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 154 黒黒と土整へられ植ゑ付けを待ちたる河岸段丘の春
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 155 仄かなる甘きを吸ひし幼な日の思ひ出ありてサルビアが好き
群馬県みなかみ町 杉山 久美子
- 156 進学も上京も全ての原点 生まれ育ちし境町の駅
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

- 157 小学時 伊勢崎駅近、伯母宅の卓球台で友とラリー
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 158 薬大時、楽しき思い出わびしさも
池上線の戸越銀座駅
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 159 春色の越谷駅下りケーキ買い 伯母・従姉宅へ足取り弾みき
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 160 パルコ・丸井、西武に東武 心躍るシヨップとグルメの池袋駅
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 161 深谷駅に都会へ仕事の我を送りし 父のハンドル利根川渡りき
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 162 風熱る、お茶の水駅プラタナス 医薬取材で医科歯科大へ
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 163 乗換えの赤羽駅は 朝、気合、夜、おつかれ様のウォークマン聞く
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 164 乗換えで北千住駅ビルの アイスコーヒーと Pasta で一息
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 165 洗練の地下鉄駅名アナウンス ザ・東京はクールに輝く
群馬県伊勢崎市 新井 恵美子
- 166 夏空を突く百日紅仰ぎ見るあなたの喉に散る翡翠色
長野県松本市 戸来 あい
- 167 光抱き窓ぎわに立つ姿見は賢くわれの老いを見つける
群馬県沼田市 蛸山 恵子
- 168 年の瀬のたくみの里に巡り会う眼差し優しわらアートのへび
群馬県みなかみ町 佐藤 静江
- 169 友と行く初冬の伊香保落葉し際立ち見ゆる朱のかじか橋
群馬県みなかみ町 佐藤 静江
- 170 春寒に急逝せし姉見られずも思いを伝え咲き誇る花
群馬県みなかみ町 佐藤 静江
- 171 **みなかみと坪谷は深山で源流が牧水育てたふたつの故郷**
宮崎県日向市 黒木 金喜
- 172 穏やかな自慢の姉は田中家の玄関に咲くチヨウセンアサガオ
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 173 東京の彼女が纏うすべてから大脳揺らす香り漏れ出る
群馬県沼田市 岡本 有未
- 174 〰️種予知当ててきた未来観てテレビで確認神の言づつて
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 175 日頃から節電してるつもりでも請求額は高くなってる
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 176 この風は氷河期からの置きみやげひそかに覗けば吐息のよう
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 177 痛み止め飲んで進むは生きるため孫と一緒にこの地に残るため
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 178 **義姉は言う「チンゲン菜は最高よ」振り子のように頷く私**
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 179 平日の歯医者さんのロビー混雑で夏休み知る午後〰️時半
群馬県片品村 金子 美由紀
- 180 触ってもLEDは安全で白熱球の熱が恋しい
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 181 八月の汗でかぶれた幼子の背中和節子重ね戦後は
群馬県みなかみ町 小室 史
- 182 畑には誰もいないが咲く黄花元気出してと言われた気して
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

- 183 帰り道臉の裏も染まるほど君のうぶ毛に留まる夕焼け
群馬県沼田市 小林 惠美子
- 184 水紋は交わらず重なってゆく五月雨式のメール開けば
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 185 定め無く心のままに林入りキビタキの声胸に吸い込む
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 186 本当の訳は二人で食べるから美味しいお店大抵当たり
群馬県昭和村 加藤 南風
- 187 秋の夜の珈琲色の文庫本葉の裏に若き情熱
群馬県安中市 福田 誠
- 188 採血後垂らし歩みし床の血を「ダイジヨブダイジヨブ」と拭く看護師三人
群馬県安中市 新井 八重子
- 189 一村の十代の作鶏頭の条幅つらぬく勢いまばゆし
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 190 吾妻線無人駅舎に老爺ひとり電車待ちつつしばし語らふ
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 191 湖上より魚影大きく動かぬをはと見やれば落葉のいたずら
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 192 長年の賛否の末に八ッ場ダム森閑として深緑湛ふ
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 193 書評欄苦手な新書気になりて読み始めれば時を忘れて
群馬県みなかみ町 三池 幸子
- 194 梅の花実結びたるを数へつつ熟れるころあひ見定めてをり
岐阜県中津川市 吉田 順代
- 195 疲れ果て帰る途に咲く彼岸花目映ゆき赤に元氣湧き来ぬ
埼玉県小鹿野町 根岸 惠美子
- 196 厨房に働く孫の作りしか夢庵の食事舌になめらか
埼玉県小鹿野町 根岸 惠美子
- 197 牧水の本に挟まれていた紙に我が若き日の恋のうたあり
群馬県川場村 桑原 謙一
- 198 太郎次郎という名の子供いなくなれどしんと屋根に雪の降り積む
群馬県川場村 桑原 謙一
- 199 「じじひじ」と七歳の子が注意する片肘ついてランチの吾に
群馬県川場村 桑原 謙一
- 200 さくさくと伸び放題の茅刈れば鎌の刃先に抱卵の雉子
群馬県榛東村 岸 和夫
- 201 手のくぼに灰となりたる兄をのせ最後の温みに眼をつむる
埼玉県本庄市 清塚 茅香子
- 202 五〇年くらい待つのは平気です貴方を想う八月の空
群馬県沼田市 桑原 環世
- 203 猛暑日も重ねて既に限界値今更迎えた文明の利器
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 204 盆間近草刈り終えし墓掃除そして今日もまた草を刈る
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 205 末娘駅に着くよのライン来て既にホームで待つこと半時
群馬県みなかみ町 細谷 龍男
- 206 動かせぬ足の痺れも忘れよう子犬の眠り覚まさぬように
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 207 八木節を何十年も嗜んだ手つき腰つき神様の域
群馬県沼田市 岡本 有未
- 208 東京で洋服価格飛び出る目欲しい物への誘いも上手い
群馬県みなかみ町 篠原 忠

- 209 道沿いに花火大会予告あり見ようとすると信号青に
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 210 近づく^{みはなだ}と水縹よりか翠色^{すいしよく}か引き潮逆巻く船酔いに耐へ
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 211 退院日タケノコご飯炊いて待ち妹のため快復願う
群馬県みなかみ町 小林 はつ江
- 212 暗闇を今夜もトコトコ走る影座敷わらしは目をそらして行く
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 213 シェフきどりフライパンを握りしめ左目チラリとクックパッド
群馬県片品村 金子 美由紀
- 214 この先も知らないことがあってもいい知る喜びが減らないように
群馬県みなかみ町 大山 智也
- 215 青春は定まらないでいることかであれば四十路の今も青春
群馬県みなかみ町 小室 史
- 216 命とは限りあるから眩しくて私も生きるあなたのように
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 217 お子さまと祖父の呼んでたあの子らの飛べない翅に乗せたたまゆら
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 218 月はねえあなたの撫でている点字みたいな：きつとかみさまのための
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 219 山のアスパラガスという立牛^{たちしおで}尾菜茹でれば辛子マヨネーズに合う
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 220 縄文の生活描いた絨毯に八雲の悟りわかる気がした
群馬県昭和村 加藤 南風
- 221 我が町の由来となりし紀行文牧水既にエコパーク詠む
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 222 全集と合わせ読みたる解説の百首めぐりて独りうなづく
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 223 訪れた峡路で詠みし牧水の日輪眺む場所を顕彰
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 224 秋夜長新刊なりし全集を紐解き知りぬ妻への思い
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 225 牧水の全集ひろぐ秋夜長妻に宛てたる便り手元に
群馬県みなかみ町 番場 正夫
- 226 舌打ちし吾を追ひ越せし若者の耳にイヤホン白骨のごと
群馬県前橋市 中澤 ひろみ
- 227 塾帰りの子らバス席で微睡みぬどの子も少し老いた顔して
群馬県前橋市 中澤 ひろみ
- 228 夕焼けのスケッチたつぷり赤く塗る八十路も末の絵画たのしき
香川県丸亀市 寒川 靖子
- 229 亡き父とたった一度の大喧嘩墓参の度に詫びて涙す。
群馬県前橋市 中島 資高
- 230 なんとまあ風と緑の似合ふ友風はささめきおどりに染みつ
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 231 山開きしまひ静まり残さるる茅の輪寂しみ潜れずにある
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 232 雪形は青き鳥とふ友よりの写メールわれの抜歯励ます
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 233 群霞 湯屋のおんなはみな人魚国を脱してほがらかに笑う
三重県四日市市 埜中^{のなか} かなの
- 234 透き通る小川の水で不揃いな野菜洗いきモンペの母と
岡山県和気町 行正 健志

- 235 雪代の猛る音するみなかみに草鞋わらぢに歩みし牧水おもふ
茨城県鹿嶋市 大熊 佳世子
- 236 与野党の動きを今朝も聴きながら世論のやうにわれる前髪
千葉県市川市 岡本 恵
- 237 あんパンが創作パンの最初とぞ八十余歳今日ぞ知りたる
山形県鶴岡市 大沼 二三枝
- 238 古い肌にいまも血汐は熱くして君をさびしむ触れさせたまへ
愛知県知立市 星原 風堂
- 239 オレンジの夕陽のなかをバスは来て君のかたちの影を落としぬ
群馬県高崎市 井田 建
- 240 しあわせのメロンパンありますと幟旗 買って帰ろうしあわせひとつ
群馬県高崎市 井田 建
- 241 ストリートビューに見ているハルキウの少女よきようも無事でありしか
群馬県高崎市 井田 建
- 242 木のくれに蒼光りたりシャガの花ゆふべの雨のまだ干ぬあした
兵庫県宝塚市 小竹 哲
- 243 黙々と名もなき家事をするように病棟事務の雑務をこなす
東京都清瀬市 野原 てい子
- 244 たんぽぽのようなナースが退職す
東京都清瀬市 野原 てい子
- 245 鉄色の空を西へと渡る鳥供物のごとく森へと降りり
宮崎県宮崎市 大重 知加子
- 246 時示すものはお日さまだけの日々ゆつくりたつぷりねたきりの母
宮崎県宮崎市 大重 知加子
- 247 世はひとつと日々言う友が害虫や害獣などは殺すと叫ぶ
岐阜県郡上市 海神 瑠珂わたつみ るか
- 248 弧を描きしばし空へと頼寄せて水鳥ゆつくり水面へ戻る
大阪府大阪市 多治川 紀子
- 249 立ち枯れの紫陽花背すじをびんとしてなお魂があふれるようだ
大阪府大阪市 多治川 紀子
- 250 除染より十四年の畑実りたる甘藷持ち上げ得意げな児ら
福島県いわき市 鈴木 椿
- 251 晩夏光受けて浮かびしゆり達は自分を主張す至福の時間
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 252 佳き人に闘病励ますメール打つ既読とならず既に逝きけり
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 253 日暮くれ早し川の淀よみで男の子水切りして影絵の如く
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 254 松風や昭和史刻む忠魂塔行き交ふ人の世代交代
群馬県みなかみ町 増田 津恵
- 255 褒められることの無かった人生を短歌に詠んで褒められている
愛媛県新居浜市 大賀 康男
- 256 驟雨去り弓引き絞る的ちかく霞のごとく蚊柱の立つ
群馬県伊勢崎市 木村 あい子
- 257 車あれば遠出するらん澄みし空最後に行きし海思ひ出づ
神奈川県横浜市 高山 克子
- 258 仰向けの蝉手にとれば声ひとつ発したちまち視界より消ゆ
神奈川県横浜市 高山 克子
- 259 地下鉄の向かひの嬢に驚きぬ姿しぐさに母よみがへ来
神奈川県横浜市 高山 克子
- 260 雨上がり朝日が照らす蜘蛛の巣は首飾りのごとく光り連なる
静岡県沼津市 石田 禰子

- 261 利根川はゆったり流れいづれ海いつかぶつかる君居た国に
群馬県みなかみ町 ベネット 昭子
- 262 古民家の大梁語るその歴史黒煤下の家族の宴
群馬県みなかみ町 ベネット 昭子
- 263 少年の「シェーン カムバック」の声聞こゆブランドテイトンの大平原に
大阪府堺市 名川 よしえ
- 264 平原を西に大きく蛇行しつ大海原に向かう川見ゆ
大阪府堺市 名川 よしえ
- 265 手をつなぎ諭していたのか兄五歳滑り台への二列縦隊
大阪府河内長野市 木村 嘉子
- 266 闘病の夫と長らふ仕上げを買へるものならカートに載せむ
群馬県前橋市 岡田 正子
- 267 亡き夫の遺せし切手を封筒の短歌応募に丁寧に貼る
埼玉県本庄市 明石 俊恵
- 268 手術終へ遠き意識に聴こえる妻の呼ぶ声子等の呼ぶ声
埼玉県朝霞市 金澤 隆男
- 269 いつまでも残暑の続く朝刊におせちの広告伊勢海老をどる
埼玉県朝霞市 金澤 隆男
- 270 眩めきてかざす指からこぼれ落つ
秋の陽花里のさやけき震え
群馬県前橋市 加藤 孝博
- 271 色褪せた葉がわりのレシートは あなたを見てた窓側の椅子
群馬県前橋市 加藤 孝博
- 272 靴ひもがほどけてるけど言わなかった 七分前から他人のあなた
群馬県前橋市 加藤 孝博
- 273 水屋は階下おりみあがりみ妣は日に幾たびも身に威勢をつけて
群馬県高崎市 大塚 とみこ
- 274 ゲームソフトを「買って買って」と居るあいだ連呼する孫うけて立つ嫁
群馬県高崎市 大塚 とみこ
- 275 雨止みて五月の古墳に立ち仰ぐ今朝の浅間の雪の白さを
東京都西東京市 三好 あやこ
- 276 赤信号待てば必ず青になる世界平和も以外とここから
群馬県高崎市 湯浅 慧子
- 277 傘寿越え免許更新挑戦す帰途の車窓にスキの拍手
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 278 縁日に亡父の求めし金木犀大樹となりて屋敷見守る
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 279 懸命に夫無き家を守る友病も癒えてひ孫三人
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 280 縁の下支え続けて七十年卒寿迎えし姉の笑顔や
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 281 子供等が帰りし公園すべり台落葉ハラハラ音無く滑る
群馬県みなかみ町 澁谷 典子
- 282 白々とすずらん咲く庭の辺に明日を思いて一人佇む
埼玉県本庄市 内田 春江
- 283 街路樹の一本だけが選ばれて雀のお宿で賑わう夕暮れ
神奈川県横浜浜市 西前 敦子
- 284 階段の途中に座り頬杖を突いて何やらもの思ふ癖
群馬県高崎市 石井 省三
- 285 網棚の傘の持ち主はもういない最終電車の車内は一人
長野県安曇野市 茅野 勇史
- 286 草取りの帰路の疲れを包み込み明日も晴れと告げる夕焼け
埼玉県本庄市 野口 美江子

- 299 飴玉を一つレロレロ舐めながら小学校へ通った砂利道
徳島県阿南市 坂東 典子
- 298 海に向く牧水の碑に「なむなむ」と手を合わせしちひさき日々よ
神奈川県横浜市 北見 美保
- 297 雀の子こがね虫まで啄むか小さき蟻が群がりたるも
千葉県柏市 佐藤 和裕
- 296 ふた月を過ぐる雨の夜ひだり目の飛蚊はいまだうつつすらと舞ふ
千葉県柏市 佐藤 和裕
- 295 コウノトリよ戦の地には運ぶなよ笑顔あふれる地を選ぶのだ
岐阜県飛騨市 江尻 恵子
- 294 古い吾れの漁り捌き煮て試す寒鰯の腸酒をすすます
大阪府岸和田市 向井 靖雄
- 293 枯れ色の蔓に浮かびぬからすうりデイサーピスの母は和やか
千葉県柏市 まれよ
- 292 負う傷は世界を変えるためでなく 世界に自分を変えられぬため
大阪府羽曳野市 凛 七星
- 291 スマホ手に株価ちらちら眺めつつスタバで斜め読む資本論
大阪府羽曳野市 凛 七星
- 290 人々は猛暑くと言う日々も稲は穂ばらみ黄金に輝く
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 289 天国もさぞ暑かろうと見上げればもう秋だよといわし雲浮く
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 288 彼岸すぎ猛暑の夏も終りかとほつと見上げる行合の空
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 287 ひもじさの故に里来る親子熊命を賭けし高枝の柿
群馬県みなかみ町 原澤 朝則
- 312 魔の山と烙印押されし谷川岳花咲き鳥鳴きこの世の楽園
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 311 比べればどんな悩みもちっぽけでそのちっぽけに悩むのが人
兵庫県三田市 藤野 椎月
- 310 世界中を手にするように歩きゆく腕いっぱい本を抱えて
兵庫県三田市 藤野 椎月
- 309 地上へと導く銀の手すりごと静かな指が光を掴む
兵庫県三田市 藤野 椎月
- 308 清流に和してうたうや河鹿笛出湯の里に宿灯ともる
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 307 山吹に新緑萌える諏訪の森うぐいすの声溪にひびけり
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 306 記録的猛暑が収まる気配なく熱中予防に日日をついやす
群馬県みなかみ町 石坂 作次
- 305 梅雨空を癒すがごとき紫陽花は我が庭飾る朝光の中
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 304 用もなく無性に声の聞きたきにダイヤル回す深まりゆく秋
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 303 子の棚に「群馬の文学」とふ本のあり子も学びしかみなかみ紀行読む
群馬県みなかみ町 石坂 喜美江
- 302 離れ住む子等はニュースを聞きあるかわが里熊の被害を受くる
群馬県みなかみ町 松井 とし子
- 301 庭先の「コキア」も徐々に紅を増し立秋の空すみて涼しき
群馬県みなかみ町 松井 とし子
- 300 地球人だけ地球を、日本人だけ日本を、愛してません
岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢

- 313 県境の分水嶺を下りる霧ナイヤガラのごと谷へ一気に
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 314 細葉雛薄雪草に山男節樽指でシャツターを切る
群馬県前橋市 武藤 洋一
- 315 中年の息子三人見上げて赤子のように頬づり出来ず
大阪府柏原市 田倉 あけみ
- 316 初めてのナイターとなる少年野球グラウンドに群れて秋茜飛ぶ
岐阜県飛騨市 横山 美保子
- 317 牧水の「みなかみ紀行」のあと訪はば金田屋すでになく往事茫茫
東京都町田市 原澤 昇司
- 318 父母になき青春をいき老後いま戦なき世を存へてをり
東京都町田市 原澤 昇司
- 319 聲ひとつ籠めて眠れるノジュールの滑らかならぬまろき手ざはり
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 320 なみだ雨にふられつづけて道の駅の自販機はまだ全部つめたい
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 321 ひとを襲ふ熊の近きに同級のLINEの尽きぬ神無月の夜
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 322 鬼皮はまろき方より剥くべしと気づく最後の栗のひと粒
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 323 トノサマを素手にてつかみ外へ放つ廊下の悲鳴どよめきとなる
群馬県大泉町 太刀花 秒
- 324 手術室出てくるきみを立って待つともに見し日の向日葵のごと
群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子
- 325 悲しみに浸るまもなく焼香は一度と言はれ従ふ家族
群馬県藤岡市 堀口 りつ子
- 326 三度目の霊柩車の助手席に座し朝焼けの色の配合思ふ
群馬県藤岡市 堀口 りつ子
- 327 若き日に暮せる街にかかりみし橋さがしつづつ遠く歩みつ
広島県福山市 杉之原 壽美
- 328 一日の疲れあらはに夕食後居眠る夫の表情さみし
広島県福山市 杉之原 壽美
- 329 秋高し山際染めるテラスにて野点味わう至極の時よ
愛知県一宮市 伊藤 輝和
- 330 夫が地に息子の建てし隣家より孫の声するさま見えねども
群馬県藤岡市 神田 恵美子
- 331 ネットですぐ何でもわかる世界つてだんだんコシを失ううどん
山口県光市 松本 進
- 332 疾うに亡き母に叱られ目が覚める
白くさやけき真夜中の月
群馬県渋川市 木暮 由利子
- 333 「展開図」左手に持ち右手には私を覗くコーヒーカーップ
群馬県みなかみ町 田中 春枝
- 334 家中の色えんぴつをかき集め無数のハトを描き出してみる
群馬県沼田市 岡本 有未
- 335 ジャパネットエアコン壊れ注文しガス入れかえて直ってしまう
群馬県みなかみ町 篠原 忠
- 336 この暑さいつまで続く秋来ない異常気象に夏を楽しむ
群馬県みなかみ町 大山 真紀枝
- 337 ほの暗い階段登れば異世界に転生されてつづく牛鍋酒家
群馬県みなかみ町 篠原 香代
- 338 引きこもり暑さ続いて出られない極上の桃頂き明日こそは
群馬県みなかみ町 小林 はつ江

- 351 危なげな小説ならば書けそうな増えてくネタがあふれて重い
群馬県みなかみ町 高橋 芳子
- 350 モニターと夫の顔を観てるだけ人の命の終わるといいうに
群馬県みなかみ町 高橋 芳子
- 349 今もなお利根と赤谷の合流にあまりに若き学びやの日々
群馬県みなかみ町 高橋 芳子
- 348 ゆらゆらと水平線に落ちていく赤き火の玉やがて夕闇
群馬県みなかみ町 高橋 芳子
- 347 長い夜弱い日差しが蝉泣かせ鼓動高鳴る今朝を彷徨う
群馬県昭和村 加藤 南風
- 346 畑に立つ夫の背中少し揺れ亡き父のこと思い居るらし
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 345 鎖骨にすべすべまんじゅうがにを飼う 夢 みなどこにねそべりながら
群馬県みなかみ町 山崎 杜人
- 344 しまなみの波にたゆたう月影に消え入る音はスナメリの夢
群馬県沼田市 小林 恵美子
- 343 早起きし薄暗い中芋を掘る鳥はさえざり虫もないてる
群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子
- 342 なんかくれ食べかけの餅手渡せばおまえいいなと浮浪児が云う
群馬県みなかみ町 小室 史
- 341 いつもならミルク入ったの頼むけど君といるならストレートティー
群馬県片品村 金子 美由紀
- 340 1人での時間が欲しいと思うのに独りだと淋しくなる不思議
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 339 黒雲で塗り潰された西の空一瞬覗く太陽めらめら
群馬県みなかみ町 本多 寿美枝
- 364 オータニと並ぶ案山子に八十年前のもんべと頭巾の母子
群馬県藤岡市 清水 静子
- 363 「譲る」には優しき想いみなありてヘルプマークの婦人の来れば
長野県安曇野市 穂苅 真泉
- 362 AIにハイカイイエか急かされてハイと答へる声裏がへし
群馬県榛東村 川本 福江
- 361 稔り田に翅黒蜻蛉のトッピングひらりと返るひかりは平和
群馬県榛東村 川本 福江
- 360 こほろぎは鳴いてるのかと亡父間ひき夕べの庭に声はあふれて
群馬県榛東村 川本 福江
- 359 何回も「お母ちゃんは」と聞く父の母はわが母もう空にいる
東京都練馬区 稲山 博司
- 358 干柿のむけぬ世となりそこ ここにクマの出没外を歩けず
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 357 ヘルメットの下に垣間見ゆ少年の面差し残す猛暑の工事場
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 356 売家の買手なきまま夏草の蔦からまりて秋空に伸ぶ
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 355 夕暮れに手つなぎ歌ふ二歳児とかへるの唄を追ひつ追はれつ
群馬県みなかみ町 荒木 洋子
- 354 園長の叩く木魚のリズムよし乱れぬ児らの「般若心経」
岡山県倉敷市 三宅 照司
- 353 夫と呼ぶ人のおりし日懐かしむ読経流るる十七回忌
京都府舞鶴市 鱒本 ミツ子
- 352 長月の朝顔咲くを見ていたり平穏もどるに遠雷を聞く
宮崎県宮崎市 岩切 喜久代

- 365 雉の鋭き二声響き草むらより姿現す 国鳥である 神奈川県愛川町 富田 茂子
- 366 介護ゆえ職退く無念のこの胸に上書きするよな癌手術痕 神奈川県愛川町 富田 茂子
- 367 金木屋浴びたい量に従ってあちらこちらへ急がない夜 東京都豊島区 工藤 好洋
- 368 若さとは点滅している青信号猛ダッシュして駆け抜けること 東京都新宿区 岩本 朗
- 369 原因は老衰であり加療不要母九十二医の埒外へ 東京都新宿区 岩本 朗
- 370 住宅地に逃げ込みましたとテレビ言う熊からすれば散歩のルート 東京都新宿区 岩本 朗
- 371 曇天に紫煙を紛れ込ませつつ憎みし人の訃報を聞きたり 神奈川県横浜市 初染 奏多
- 372 旅人の姿が見えなくなってから足跡だけの旅が始まる 大阪府岸和田市 ツキミサキ
- 373 一つずつ言葉を紡ぐ校舎裏ガスバーナーの手順のごとく 北海道滝川市 武田 生吹
- 374 秋日和城址より見るわが故郷稲穂波うつ豊穰の里 群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 375 峡棚田収穫終えて残る稲架ひこばえ緑紅葉に映え 群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 376 アルプスの嶺々仰ぎ大糸線特急あずさ颯爽と行く 群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 377 紅葉や木曾街道の奈良井宿古き家並タイムスリップ 群馬県みなかみ町 原澤 芳雄
- 378 希望さす朝のひかりの明るさの「モルダウ」沁みる春は来ぬめり 滋賀県大津市 船岡 房公
- 379 ネコヤナギ光を含んで黄金きんになる君の背中を見送りし朝 鳥取県琴浦町 中本 久美子
- 380 吾娘作るへチマがあまたふとりゆく自然農園こだはる畑に 群馬県高崎市 湯浅 茂子
- 381 風鈴の音がきこえるお社の手水に今日はひまわり浮かぶ 佐賀県唐津市 浦田 穂積
- 382 朝顔の種まく庭で幼孫図鑑開いて朝顔さがす 佐賀県唐津市 浦田 穂積
- 383 大学よ戦国時代続いてる我が母校廃墟化すれば泣く 大阪府大阪市 浦田 穂積
- 384 もう五年コロナウイルスの猛威閉塞感の時代忘れない 大阪府大阪市 水上之川
- 385 ちはやぶる百人一首続くなり全て覚えるのに時間掛かる 大阪府大阪市 水上之川
- 386 韓国と北朝鮮続いてる千年続けば破綻してる 大阪府大阪市 水上之川
- 387 七月よ七夕の季節永遠に夏の到来水泳恋し 大阪府大阪市 水上之川
- 388 ここに来てしばらく鳴いたヒヨドリは木の葉を揺らし遠くへ飛んだ 岩手県盛岡市 木村 英樹
- 389 お湯になるまで流される水のごと吾ら世代を扱うなかれ 東京都中央区 佐藤 直大
- 390 優しさは絨毯ならむイヤリングぽとり落ちて音まで包む 東京都中央区 佐藤 直大

- 391 コンバイン去りし刈田の白鷺に付かず離れず鴉の群れる
群馬県千代田町 大谷 文人
- 392 トロッコの天より紅葉舞い込みぬ髪に胸にも勳章のごと
群馬県千代田町 大谷 徳湖
- 393 嫁に来て記憶の中に君からの愛の温くも一度もなくて
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 394 明け方の雨はつれなき我が眠り淋しき迄の秋の静けさ
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 395 稲刈りの音高らかに賑わいて静かに戻る過疎の町並み
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 396 秋雨に冷たく濡れる信号機眺めつ立ちて我待つと言う
群馬県みなかみ町 大川 美知子
- 397 無き父の持ち唄会津磐梯山偲ぶ子七人手拍子揃へ
群馬県みなかみ町 遠藤 長代
- 398 久々にクラスメートのメールありA子B君C男死すると
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 399 柿に栗人家近くに食材が熊は学習せし模様なり
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 400 近未来日本の四季は消滅か春秋無しに冬夏となりぬ
群馬県みなかみ町 杉木 輝夫
- 401 私にはただの家の燈貴方には何時も私がつ証の燈
群馬県高崎市 木内 寿子
- 402 豪雪の故郷離れ幾年月墓標に会うは年に一度か
群馬県みなかみ町 林 好一
- 403 庭花壇赤赤の葉鶏頭赤く咲きたり酷暑も負けず
群馬県みなかみ町 林 好一
- 404 庭花壇日日草に千日紅時折尋ねるカマキリもいて
群馬県みなかみ町 林 好一
- 405 故郷の友より届く手紙には白寿の両杖シニアカー
群馬県みなかみ町 林 好一
- 406 この爺の敬老祝いて町や区が長生きせよと祝い届きて
群馬県みなかみ町 林 好一
- 407 菜の花は春一番を呼びてきて秋は冬越エネルギー油与え
長野県飯綱町 井澤 榮一
- 408 来る春に花散る里の風となり地藏となるらん あなたに逢いたい
秋田県秋田市 蓬田 真弓
- 409 消しゴムは消したことを覚えてる無口なゆえに言わないだけで
神奈川県川崎市 徳岡 暁奈
- 410 湖の君と乗りたるボートより岸辺萌たち喧騒を遠くに
群馬県前橋市 小畑 吉克
- 411 野道ゆく小供と追って蜻蛉とる青き大空黄金の穂波
群馬県前橋市 小畑 吉克
- 412 退院の日のハンティング傾かぎいて父が父ではなくなり始む
埼玉県羽生市 浅見 邦恵
- 413 まるさんかくしかく子が描くじゆうちよう足掻くわたしに禅の道説く
東京都中央区 後藤 由果
- 414 新姓のさんずい上手く書けなくておりなす点は夫、吾子、わたし
埼玉県春日部市 藤澤 由紀
- 415 玉葱に包丁入れて「分断をさけて」差別も意見とされて
神奈川県横浜市 黒川 かおる
- 416 可決するまで結婚は待つという友とドリンクバーを飲み継ぐ
神奈川県横浜市 黒川 かおる

- 417 故郷の午前二時にも街はあり十四の我はどこまでも行く
長野県箕輪町 小林 泉
- 418 ゆだる夏薄暮の庭にむれてとぶトンボの羽に秋を見た
群馬県みなかみ町 甲斐 陽子
- 419 土用の日炎天かに梅を干す手もとに浮かぶ母のおもかげ
群馬県みなかみ町 甲斐 陽子
- 420 中国の奥山に咲くブルーポピー葉くぼりて足早に逝きし友
群馬県みなかみ町 甲斐 陽子
- 421 迷いネコ共にくらしして早二年一人と一匹しあわせな日々
群馬県みなかみ町 甲斐 陽子
- 422 夕間暮れ電車の揺れに身を任せこの一日の思いあため
群馬県みなかみ町 佐藤 静代
- 423 山里の実り田の穂はしなだれて晴れの稲刈り待ちわびるよう
群馬県みなかみ町 佐藤 静代
- 424 長酷暑枯れ木が山に点在し山から悲鳴聴こえるよう
群馬県みなかみ町 佐藤 静代
- 425 蓮池の中に一輪残り花人を引きつけゆっくりもよし
群馬県みなかみ町 佐藤 静代
- 426 桑茂り活計支えし養蚕の役目を終えて杖となりぬ
群馬県みなかみ町 佐藤 静代
- 427 煙突のけむりを見つめ「ママだね」と妹言いぬ「死」を知ったあの日
群馬県高崎市 松本 由美子
- 428 窯の火を纏ひたるまま出できたる丹の碗を宥めゆく月白
東京都文京区 遠藤 玲奈
- 429 みなかみのすべてが雪になり君と僕の歩幅がゆっくりずれる
埼玉県北本市 深谷 健
- 430 コーヒーは日々の「」後輩の下流のカフェのコピーにエール
群馬県沼田市 北森 修
- 431 空を背負い待つ人のいて頼りない脚がもう一度ペダルを踏んだ
東京都武蔵野市 北谷 雪
- 432 晩秋のICUで語り合いじわりと沁みる終わりの予感
栃木県那須塩原市 イマミツ
- 433 明日も雪空とところはライトグレー明度の高い青で上書き
栃木県那須塩原市 イマミツ
- 434 旧式の赤で停まった交差点新式青が次々と呼ぶ
栃木県那須塩原市 イマミツ
- 435 うそ泣きの幼子ひよいと抱き上げて大人の眉間もやわらかくする
埼玉県所沢市 須藤 ゆかり
- 436 「鮭の皮なるべく食べよ」もう居ない祖父直伝の教え守る日
群馬県沼田市 岡本 有未
- 437 きゃはん履く三蔵法師・玄奘の旅の姿にしばし見惚れる
群馬県沼田市 岡本 有未
- 438 家族には黙秘していたあの時の親指の怪我今明かされる
群馬県沼田市 岡本 有未
- 439 とつとつと馴れ初め語り出す君とビールの泡の上昇を追う
群馬県沼田市 岡本 有未
- 440 本当は話しかけたい図書館で図録ばかりを眺めてる時
群馬県沼田市 岡本 有未
- 441 人ともに熊の社会も変化して爆竹などは聞く耳も無し
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 442 我が町の熊はスーパー銀行と郵便局へ顔出して行く
群馬県みなかみ町 いちやくそう

- 443 熊騒ぎ程々にとは思いしも処かまわず今日も出没
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 444 順調な音響かせて早苗丸世界の海へ元気に船出
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 445 万葉の恋歌を記す徒渉竹藪を出て歌碑は陽を浴び
群馬県みなかみ町 いちやくそう
- 446 アポロよりコーヒービートが好きだった君から5粒もらってからは
岩手県遠野市 森内 詩紋
- 447 小島^{せんせい}先生の短歌時評か新聞にありて目を引く切り抜きもせり
東京都杉並区 堀井 邦子
- 448 統治下に女学生なる台湾の友の歌集は遺稿なるらむ
東京都杉並区 堀井 邦子
- 449 装丁も藍色生地に光る文字友の歌集はみやびに自筆
東京都杉並区 堀井 邦子
- 450 台湾の統治時代に学ばれて日本語すらすら友は話ししに
東京都杉並区 堀井 邦子
- 451 ホームラン3脱三振10異次元大谷翔平どよめく地球
宮崎県宮崎市 青山 昌子
- 452 積木積む三角四角自在なり世界を丸く丸く誰かして
宮崎県宮崎市 青山 昌子
- 453 海岸線はしる車に汐の香が乗り込んできて夏がはじまる
福岡県北九州市 水の 眠り
- 454 曇りなきレンズの奥のまなざしで輪郭だけを撫でてゆく君
群馬県みなかみ町 塚川 紗妃
- 455 感嘆の声星屑のように降る花火夏の終わりに触れた指先
群馬県みなかみ町 塚川 紗妃
- 456 嬰兒のふにふに動く口元を見ながら微睡むまめやかな日々
東京都大田区 服部 明日檜
- 457 灼熱の地上をさくるや蟻達の散水ホース上を一系列にゆく
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 458 離り住む孫娘よりメールあり確かなる曾孫の芽のある画像が
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 459 彼岸花赤白咲けるその先に山吹き花ける異常気象はや
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 460 大根の発芽二葉のみどりなす酷暑つづきて枯れてしまいいぬ
群馬県前橋市 山口 タツ子
- 461 他所行きもスニーカーと決め腰痛後ヒールの靴は不要となりぬ
群馬県みなかみ町 関 和子
- 462 おろし金金属なのに磨り減りて力を入れて大根おろす
群馬県みなかみ町 関 和子
- 463 頬寄せて幼の抱くぬいぐるみ熊を知らないかわいからぬ
群馬県みなかみ町 関 和子
- 464 葛の葉をうらがへしつつ島山のはだへに北の風ひくく吹く
熊本県熊本市 下城 公秀
- 465 高三の遅い帰宅を問ひし娘に彼女できたときと恭しくも
大阪府河内長野市 寺田 愛子
- 466 朝露をつつく小鳥の声たかく秋空たかく君の名を呼ぶ
宮崎県日向市 佐々木 泰三
- 467 散歩する道脇ありし万葉の恋歌を刻む徒渉の碑
群馬県みなかみ町 しゅんらん
- 468 温暖化昔は見ない白鷺の渡りはいつかと気になりし朝
群馬県みなかみ町 しゅんらん

- 469 収穫の終りし農は集まりて共同作業の小屋を掃除す
群馬県みなかみ町 しゅんらん
- 470 秋深し僅かに聞こゆ虫の音も力もとなく夜はふけりをり
群馬県みなかみ町 しゅんらん
- 471 秋の田に雨をしのぎて立つ鳥の白き姿がなお寒さ呼ぶ
群馬県みなかみ町 しゅんらん
- 472 友よりの猟で出きみし観音像亡夫の代わりに吾を守りぬ
宮崎県宮崎市 中村 葉月
- 473 秋時雨黄花コスモス首垂れて揺れて倒れて晩秋の気配
宮崎県宮崎市 中村 葉月
- 474 ただひとり「ことり」と生まれた縁側に座れば「おかえり」牧水の聲
群馬県みなかみ町 桂田 紗歩
- 475 牧水がぶぶりと浸りし法師乃湯温泉泡がわたしもつつむ
群馬県みなかみ町 桂田 紗歩
- 476 濃き色の血が滴った霊獣の命の感触手の内にあり
群馬県みなかみ町 桂田 紗歩
- 477 売りに出す土地にまっかな曼殊沙華父の肉から生えたるごとく
東京都国立市 宮崎 洋子
- 478 湘南とふ地酒に会ひぬ口中に冷たく明るく海が広がる
秋田県秋田市 篠田 和香子
- 479 穴道湖の深さは知らず白々と胸うちつける夏のさよなら
広島県広島市 小野 系子
- 480 公園に「一年二組」と叫んでは飛びまはりたる春の少年
広島県広島市 小野 系子
- 481 葉の翳を電車の日除けカーテンはタゴールの詩の余白に落とす
埼玉県ふじみ野市 雨 雨 雨 汰
- 482 冬ざれの都市は人間たちだけが生きてるんだ あ 配膳はネコ
埼玉県ふじみ野市 雨 雨 雨 汰
- 483 一階の時計の針は空を指し二階の針は地を指している
埼玉県ふじみ野市 青 林 采 里
- 484 エンディングノートいまだに空白に出来れば白紙このまま逝きたい
大分県国東市 原 比 呂 子
- 485 一日に何度も変わる空模様転ばぬ先と傘を代用
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 486 霧に濡れ利根に建ちたる万葉の恋歌記されし歌碑がたたずむ
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 487 鹿の声寂しく響く峡路行き落とし文あり踏むをはばかり
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 488 足元に落ち葉広がる峡路にて転ばぬように気を張りて行く
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 489 朝ぼらけ梟の声太く聴き足もとにあり水溜まり避け
群馬県みなかみ町 にりんそう
- 490 週末の掃除機が吸う灰色の綿の群れたちまた会ったわね
群馬県みなかみ町 野本 ゆかこ
- 491 餌不足の獣とあらばひだるしや熊の出没日ごと痛きよ
群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子
- 492 廃校の報せを受けてくちびるに校歌鮮やか我に驚く
茨城県ひたちなか市坂上 くも
- 493 貧しくも旅する夫を送り出し「おおばかもの」と自らを言う
群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ
- 494 針を背に打たれて蝶は微睡めり天使のやうに翅を展げて
愛知県名古屋市 遠藤 雄介

- 495 鈴虫と名付けられたる鈴よりも永く大地を奏で来しもの
愛知県名古屋市長 遠藤 雄介
- 496 姉さんと呼びるし指に白金の指輪嵌めたりガローテのごと
愛知県名古屋市長 遠藤 雄介
- 497 善悪の目盛りも分かぬわれの手で寝息を立てる白鳥かなし
愛知県津島市長 秋 和 明
- 498 かみ鳴りて麓の校舎に灯油の香帰り踏みしむ初牡丹雪
愛知県津島市長 秋 和 明
- 499 冷めやらぬ猛暑の昨夕聞こえたる声の主やもこの空蝉は
石川県金沢市長 橋本 枝折
- 500 休診に術なく仰ぐ裸木の小枝のいくつを返り咲く花
石川県金沢市長 橋本 枝折
- 501 猛暑日にすず風くれし扇風機感謝にしまふ彼岸の明けて
島根県出雲市長 金山 黎子
- 502 歌碑祭は雨の降るなか献酒する牧水やはり雨男なり
群馬県みなかみ町 奥村 清美
- 503 静々と冷たき雨に打たれつつ熊を注意し今朝も散歩す
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 504 朝ぼらけ遠くに聞こゆ雄鹿のせつなき声に歩み速める
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 505 岳からの冷たき風が吹きおろし人無き里を賑やかに行く
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 506 防災の無線が鳴れば又熊と慣れたる民に危険おぼゆる
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 507 今朝もまた熊に注意の無線聴き5度目を聴いて一日暮れをり
群馬県みなかみ町 ふうろそう
- 508 もうすこし後もう少し頑張りにて百歳目指す老い果てぬれど
山口県宇部市長 藤井 重行
- 509 美術品に不発弾一步二歩と重くなるやミーソン聖域
北海道根室市長 季川 詩音
- 510 朝ドラにはるけき生活よみがえり昭和は良きところみたさる
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 511 御巢鷹の峰に黙する静子ちゃん17歳の時を置きをり
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 512 寒暖差身に対えるかたつむり水尾のごときを樹肌に曳けり
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 513 追憶の小道は美しき呼吸して片目で広き秋にむかえり
群馬県みなかみ町 久野 とし華
- 514 吹き上がる風にのり来る紅葉あり何を伝える葉の便りかな
群馬県みなかみ町 久野 とし華

高校生以下の部
【題詠「菜」】
作品集

242人 376首
学校順に掲載
太字作品は入賞・入選

- 1 摘み取れば朝露光る菜の花の春笑い出す揺れる顔
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 中島 優空
- 2 夏野菜美味しく食べて健康心へ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 植木 憂太
- 3 散歩道菜つ葉と青空いい景色覗いてるのは自然の目たち
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 瑞稀
- 4 新鮮な野菜の中に紛れてるつまんで食べてる夏の虫
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 瑞稀
- 5 菜の花の霞む野原の青空は直ぐに始まる春の始まり
群馬県利根商業高校 1年 赤石 瑞樹
- 6 菜の花の明るさマネて生けてけば人生先の悩みは無しか
群馬県利根商業高校 1年 赤石 瑞樹
- 7 春風の動きに合わす菜の花は揺れて語るわ春のこもれび
群馬県利根商業高校 1年 赤石 瑞樹
- 8 春風にゆれる菜の花見渡せば友と笑えば心安らぐ
群馬県利根商業高校 1年 伊藤 大悟
- 9 春風に菜の花揺れて畑道黄色い絨毯君と歩きぬ
群馬県利根商業高校 1年 稲田 銀次郎
- 10 冬野菜大根土に眠りつつ食卓飾る母のぬくもり
群馬県利根商業高校 1年 稲田 銀次郎
- 11 小松菜の緑は深くバス停で買い物袋君に手渡す
群馬県利根商業高校 1年 稲田 銀次郎
- 12 畑道白菜の葉が巻き始め白き花咲く季節めぐりぬ
群馬県利根商業高校 1年 稲田 銀次郎
- 13 水菜摘む朝露まとい輝いて手のひら冷たし新しき日よ
群馬県利根商業高校 1年 稲田 銀次郎
- 14 道端に菜の花開く咲き始め優しく香る春の訪れ
群馬県利根商業高校 1年 小野 李桜
- 15 菜の花とスマホで撮った通学路「なんでもないね」って笑っていた
群馬県利根商業高校 1年 金古 希愛々
- 16 菜の花に春の風がよぎりひらひらまうよ黄色のさざなみ
群馬県利根商業高校 1年 小林 優太
- 17 焼けるほど強い日差しに負けないでまるで宝石赤い夏野菜
群馬県利根商業高校 1年 齋藤 椿
- 18 一面に広がる菜花と青空のコントラストが超エモい
群馬県利根商業高校 1年 齋藤 椿
- 19 夏がきた野菜美味しい季節かなたくさん食べて元気いっぱい
群馬県利根商業高校 1年 杉木 珀飛
- 20 美味しいな野菜たくさん食べようねこれであたかも元気いっぱい
群馬県利根商業高校 1年 杉木 珀飛
- 21 菜の花がひらひらと散る春終わり涼しい風の花びらが舞う
群馬県利根商業高校 1年 高島 秀翔
- 22 菜の花と快晴の空眺めつつあたり一面綺麗な自然
群馬県利根商業高校 1年 高島 秀翔
- 23 ゆでた菜をしようゆで食べてにがいなあそれでもまあまあごはんは進む
群馬県利根商業高校 1年 田原 要
- 24 菜の花をただ見ていたら春だった写真をとってすぐに帰った
群馬県利根商業高校 1年 田原 要
- 25 菜の花の、黄色い色が、広がって花の匂いが、風に吹かれる
群馬県利根商業高校 1年 都所 柊也
- 26 畑には、緑の野菜が、育ってる、太陽浴びて、大きくなる
群馬県利根商業高校 1年 都所 柊也

- 27 菜畑に自転車こいで入りゆけば夢のような黄色の世界
群馬県利根商業高校 1年 都丸 颯志
- 28 教室に差し込む光やわらかく菜の花のように夢を抱けり
群馬県利根商業高校 1年 都丸 颯志
- 29 冬枯れの景色に映える菜の花が我に光を差している
群馬県利根商業高校 1年 星野 由利愛
- 30 公園で菜を見つければ蜜すいにカブラバチが集合する
群馬県利根商業高校 1年 森野 陽色
- 31 風に揺れ黄色く光る菜の花の強さを感じ明日へ向かう
群馬県利根商業高校 1年 山崎 綾太
- 32 根をはらせ空に向かって美しく咲いた菜の花大地を守る
群馬県利根商業高校 1年 山崎 綾太
- 33 いつまでも頬を撫でてく夏風はいつまでも咲く菜のごとく
群馬県利根商業高校 1年 吉澤 花音
- 34 夏菜かみ汗のあとに水ごくり一年生の夏ただ球を投げる
群馬県利根商業高校 1年 渡部 亮磨
- 35 春風に揺れる菜の花笑顔まで届く陽だまり心が躍る
群馬県利根商業高校 1年 金子 楓
- 36 菜の花が笑う春の日差し心も弾む風の中
群馬県利根商業高校 1年 金子 楓
- 37 菜の花は秘密のダンス春の風そつと誘う笑顔の魔法
群馬県利根商業高校 1年 金子 楓
- 38 春の風菜の花畑暖かい風に揺らるる自分の気持ち
群馬県利根商業高校 1年 木暮 莉桜
- 39 菜の花がきれいに揺れる花たちに目を離せない春の思い出
群馬県利根商業高校 1年 木暮 莉桜
- 40 ことごとと肉だけカレー母つくる昔も今も野菜嫌いに
群馬県利根商業高校 1年 田村 璃桜
- 41 菜の花の色をすつてもまっ白なチヨウは蜜を月にあげてる
群馬県利根商業高校 1年 田村 璃桜
- 42 一面の菜の花ひらく道をゆく心軽くて歌口ずさむ
群馬県利根商業高校 1年 根立 葵
- 43 食べ残し青菜の皿に気づかれず小さな嘘が今日を繋いだ
群馬県利根商業高校 1年 大本 徠斗
- 44 青き菜の揺れる外野に打球飛ぶ汗と泥舞う青春の夏
群馬県利根商業高校 1年 東海林 琉衣
- 45 菜の花のひかりに揺れて春の風ひらひら香り故郷思う
群馬県利根商業高校 1年 橋本 康大
- 46 山菜を摘む子の笑顔やわらかく緑きらめき母の声あり
群馬県利根商業高校 1年 橋本 康大
- 47 山行けば山菜取れる旬のもの種類でわかる季節の変わり
群馬県利根商業高校 1年 八戸 勝多
- 48 めでたい日おしゃれで豪華盛り付けを菜ばしの番本領発揮
群馬県利根商業高校 1年 八戸 勝多
- 49 菜の花や風に煽られ春の歌冬の訪れ微かに感じる
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 50 きゅうりナス生姜も刻み夏野菜お漬物へと形を変える
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 51 楽しみは夏が終わりに近づいて木の菜の色が虹になる時
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 52 菜の花が綺麗に咲くよ春の中朝日が上がり夕日が沈む
群馬県利根商業高校 1年 星野 恭佑

- 53 いいにおい母が作ったあの料理青菜のソテー今思い出す
群馬県利根商業高校 1年 皆川 爽馬
- 54 鍋の中緑が主役青菜さんまるで温泉楽しんでる
群馬県利根商業高校 1年 皆川 爽馬
- 55 菜の花とウグイスの声歩く道そよ風そよそよ春の訪れ
群馬県利根商業高校 1年 皆川 涼馬
- 56 夏の山光り輝く太陽に照らされ光る菜の花が
群馬県利根商業高校 1年 荒田 凜音
- 57 太陽の下で輝く夏野菜水しぶきを浴び涼しくなる
群馬県利根商業高校 1年 荒田 凜音
- 58 菜の畑黄色に揺れて夏へ行く嬉し寂しき背丈のびたり
群馬県利根商業高校 1年 岡田 萌々
- 59 菜の花を描いた絵の具の黄色さに明日の自分を少し重ねる
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 60 試験前机に置かれし菜の弁当の祈りが青さに宿る
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 61 摘みたての菜を刻む音響きおり台所からの春の目覚めよ
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 62 帰り道畑に残れる菜の青さ部活帰りの汗に染み入る
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 63 菜の花やゆらりゆらりと揺れながら想いや届くみなかみの町
群馬県利根商業高校 1年 小林 千紗
- 64 菜の花が告げるや雪の解ける頃新たに芽吹く蕾の声
群馬県利根商業高校 1年 小林 千紗
- 65 菜を集め家に帰ると家族たち目を輝かせ待っているかな
群馬県利根商業高校 1年 小林 悠人
- 66 菜の花がきれいにさいてまぶしいよ来年もまた見れたらいいな
群馬県利根商業高校 1年 宮下 芽衣
- 67 菜の花と桜の色が合わさって視界一面のグラデーション
群馬県利根商業高校 2年 安濃 煌雅
- 68 菜の花をおひたしにして食べてみたすぐ苦いよまだ子供かな
群馬県利根商業高校 2年 生方 鳳靖
- 69 青き菜を刻む音さえあたたかき暮らしのなかに春はしのびて
群馬県利根商業高校 2年 興原 柊
- 70 畑にはまだ名も知らぬ菜が芽吹く誰かの夢が静かに育つ
群馬県利根商業高校 2年 興原 柊
- 71 たくさんの夏野菜をねもらい食べ微笑む孫とほっとする祖母
群馬県利根商業高校 2年 上村 美幸
- 72 真っ黄色風に揺られる菜の花を見ると感じる春の訪れ
群馬県利根商業高校 2年 岸 吉光
- 73 制服の裾がそよいで菜の花とふざけ合う日々かけがえもなく
群馬県利根商業高校 2年 小坂橋 翔和
- 74 菜の花を見れば感じる夏の空黄色の中で白球を追う
群馬県利根商業高校 2年 篠原 優
- 75 菜の花や高嶺にさくもの煌めく星のよう黄色く輝く花の草原
群馬県利根商業高校 2年 馬場 康平
- 76 春がきてたくさん咲いた菜の花を見ているだけで心落ち着く
群馬県利根商業高校 2年 綿貫 友莉亜
- 77 菜の花がゆらゆらゆるれる初夏の風立派に育つ夏の夕暮れ
群馬県利根商業高校 2年 鐘ヶ江 翼
- 78 皿の上茹ですぎた菜に文句言いそれでも全部食うのが寮生
群馬県利根商業高校 2年 唐木 湘太郎

- 79 今日の菜はいつもより味しみていた誰も言わないけど茶碗空く
群馬県利根商業高校 2年 唐木 湘太郎
- 80 近所からたくさんもらった野菜たち食卓彩るパレットみたい
群馬県利根商業高校 2年 小泉 結愛
- 81 わらびウド春の山菜一面に春風が吹く季節かな
群馬県利根商業高校 2年 小泉 結愛
- 82 寮の庭菜っ葉をかじり腹満たすカップ麺よりもちよっと健康
群馬県利根商業高校 2年 小仁 熊源
- 83 素敵だな君の笑顔は元気である春に花咲く菜の花みたい
群馬県利根商業高校 2年 清水 惺麻
- 84 春の菜小さな手で摘む笑い声畑にひびく朝のひかり
群馬県利根商業高校 2年 須田 莉乙翔
- 85 菜の花が風にゆれてる道の先友と歩けば春が来たね
群馬県利根商業高校 2年 須田 莉乙翔
- 86 菜の花に夕陽こぼれて遠くの山もそっとそまりぬ
群馬県利根商業高校 2年 竹之内 煌真
- 87 うつくしい菜の花畑心地よい黄色に染まりいい匂いだね
群馬県利根商業高校 2年 津久井 蓮虎
- 88 菜の花とちようちよがともにゆらゆらと風にまかせておどってる
群馬県利根商業高校 2年 奈良井 萌杏
- 89 菜の花よ黄色に染る花畑遠くで見ても綺麗だわ
群馬県利根商業高校 2年 橋詰 来弥
- 90 夏の色耳をすませば聞こえるの夏の綺麗な自然の音よ
群馬県利根商業高校 2年 橋詰 来弥
- 91 菜の花に夕日の赤が染み込んで部活帰りのみちがあたたか
群馬県利根商業高校 2年 平塚 侑
- 92 菜の花や独特な香り爽やかふわりと告げる春の訪れ
群馬県利根商業高校 2年 安原 悠奈
- 93 春の菜を摘みて手のひら香り立ち風にそよげる緑きらめく
群馬県利根商業高校 2年 吉野 陽詩
- 94 菜の花のきいろの色に目がとまりあたり一面菜の花の海
群馬県利根商業高校 2年 宇田川 梨乃
- 95 風そよぐ菜の花道を歩くと匂いで思う昔の記憶
群馬県利根商業高校 2年 宇田川 梨乃
- 96 菜の花がゆれる土手道暖かい風にまじって春のにおいが
群馬県利根商業高校 2年 鹿野 莉来
- 97 畑にも春がきたよと菜の花が風にゆられて笑っているよ
群馬県利根商業高校 2年 鹿野 莉来
- 98 緑の葉静かに揺れて春を待つ菜の花咲き誇る心も晴れやか
群馬県利根商業高校 2年 ベ木 琉斗
- 99 緑の葉風に揺れて菜の花春を告げる心も躍る
群馬県利根商業高校 2年 ベ木 琉斗
- 100 遠き春君のいない畦道に菜の花だけがやけにまぶしい
群馬県利根商業高校 2年 鈴木 花菜
- 101 花のよう菜のようにして生きていたいやわらかくても強くあるため
群馬県利根商業高校 2年 鈴木 花菜
- 102 菜ってなに黄色いお花かわいいねいつでもどこでもすごいきれい
群馬県利根商業高校 2年 竹内 悠悟
- 103 そうだいな緑広がる菜の花を見る人たちが称賛してる
群馬県利根商業高校 2年 羽住 侑起
- 104 おべんとう母の手づくり菜のしおりちよっとにがくてでもうれしかった
群馬県利根商業高校 2年 橋場 悠人

- 105 菜の花がまぶしく光る通学路ぼんやり歩く春の朝です
群馬県利根商業高校 2年 橋場 悠人
- 106 山降りて日暮れの色を纏いけり菜の花畑
群馬県利根商業高校 2年 星野 駆音
- 107 菜の花の黄色にそまる春の道風にゆられて光あふれ
群馬県利根商業高校 2年 星野 隼人
- 108 摘みし菜を家族で囲み食べている我が子の顔をふと思ひ出す
群馬県利根商業高校 2年 茂木 望
- 109 菜を食べてみんなで囲む食卓を幸せいっぱいお腹もいっぱい
群馬県利根商業高校 2年 茂木 望
- 110 菜の花や川面にうつる夕あかりほころぶ笑みは春のひとつとき
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 111 夏野菜苦手だった菜のながみ大人の味と調べてみたよ
群馬県利根商業高校 2年 吉永 玲斐
- 112 菜の花の月の明かりに照らされて月の光で花色を増す
群馬県利根商業高校 2年 荒井 陽
- 113 菜の花の咲き乱れたる春風に遠くの山も芽吹きてゆく
群馬県利根商業高校 2年 荒井 陽
- 114 菜の花が咲いていた庭風に揺れ春思ひ出す僕感動
群馬県利根商業高校 2年 石坂 有人
- 115 クラスでは言えない気持ち育ててる窓ぎわの菜がそつとゆれてる
群馬県利根商業高校 2年 小野里 悠月
- 116 家の前菜の花咲いて春が来た匂いに癒され心いっぱい
群馬県利根商業高校 2年 金子 ほのか
- 117 菜の花がゆれてる道があるいてく春のにおいがふんわりとくる
群馬県利根商業高校 2年 柴崎 翔
- 118 小松菜をごま和えにして食べてみる思ったよりも甘さ広がる
群馬県利根商業高校 2年 勅使川原 壮哉
- 119 春の菜を二人で摘んだあの季節今あの人が頭に浮かぶ
群馬県利根商業高校 2年 遠橋 瑛琉
- 120 菜の花が1面広がり黄色いな来年も見たい菜の花畑
群馬県利根商業高校 2年 林 美優
- 121 菜の花に寄りかかりつつ語り合う未来のことはまだ菜の花色
群馬県利根商業高校 2年 増田 結衣
- 122 菜の花がきれいに輝く一面に春の訪れを感じさせている
群馬県利根商業高校 2年 阿部 未来
- 123 夏の日に野菜が取れた新鮮な家族と食べるおいしいです
群馬県利根商業高校 2年 阿部 未来
- 124 青空の下で輝く菜の花は強く生きよとまた背を伸ばす
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 125 夏休み菜の花揺れる帰り道立ち止まりつつ夏を感じる
群馬県利根商業高校 2年 佐藤 瑠南
- 126 菜の花がそよそよと揺れる春の朝お日様の中につこり笑う
群馬県利根商業高校 2年 塩谷 歩翔
- 127 菜の花や風に揺られてひかりさす土に根ざして春を告げていく
群馬県利根商業高校 2年 塩谷 友羅
- 128 春風に咲き誇る菜のさらさらと春を感じてうれしくなる
群馬県利根商業高校 2年 塩野 大翔
- 129 摘みたての菜の花しげく咲く小道君と歩いた風のおいよ
群馬県利根商業高校 2年 高山 結衣
- 130 春菜摘む袖にひとひら風の香を抱えて帰る夕暮れの道
群馬県利根商業高校 2年 長澤 夢李

- 143 あの日から菜の花咲くと思ひ出す懐かしい声風にのせて
群馬県利根商業高校 3年 佐藤 廉侍
- 142 菜の花の匂はまだまだ先だけど待ち遠しくて待ち望むわれ
群馬県利根商業高校 3年 佐藤 剛
- 141 炎天に、夏の若菜を摘みながら滴る雫風が冷めく
群馬県利根商業高校 3年 坂本 孝信
- 140 菜の花を見て嗅ぎ感じるなつらしさなつただけでわかさきわたつ
群馬県利根商業高校 3年 小林 晃二郎
- 139 スーパーの袋からはみ出す青い菜を自転車で風がゆらして
群馬県利根商業高校 3年 金古 碧夢
- 138 夕暮れと、朝日が映える、菜の花は、春を感じる、美しい花
群馬県利根商業高校 2年 山村 風真
- 137 夕暮れに母と刻める青き菜の香りただよい声を失くせり
群馬県利根商業高校 2年 村田 夏輝
- 136 菜の花の黄に染まる野を歩みゆくひとひら風が春を運んで
群馬県利根商業高校 2年 村田 夏輝
- 135 菜の花が踊り歌う横目見てチヨークの音と風の音聞く
群馬県利根商業高校 2年 深代 汐梨
- 134 菜の花は春の風景彩って小さな幸せ見つけていく
群馬県利根商業高校 2年 平田 真秀
- 133 冬になり雪降り霜降り寒くなり鍋の季節で白菜現る
群馬県利根商業高校 2年 平田 真秀
- 132 夏祭り途切れぬ笑みとうちわ風呂衣の裾に灯る赤堤灯
群馬県利根商業高校 2年 長澤 夢李
- 131 月影にひとり佇む夜の川流れる水は心を映す
群馬県利根商業高校 2年 長澤 夢李
- 144 菜の花を見れば心があかるくてはなの道をゆつくり歩く
群馬県利根商業高校 3年 杉木 悠吏
- 145 やさい菜をおみそしるにと入れてみたなつかしい味ほっぺがおちる
群馬県利根商業高校 3年 杉木 悠吏
- 146 鍋囲み菜もみんなで分け合えば湯気に包まれ笑顔あふれる
群馬県利根商業高校 3年 高橋 楓禾
- 147 冬の時期土地一面の綺麗な黄机に並ぶ菜の花の飯
群馬県利根商業高校 3年 羽生田 稜
- 148 朝の食卓小松菜みそ汁湯気のぼる眠いまなこにやさしい青さ
群馬県利根商業高校 3年 福田 悠人
- 149 輝く菜の花春の小さな幸せ私の心へと元気いっぱい明るさをくれる
群馬県利根商業高校 3年 阿部 雛乃
- 150 畑ゆく麦わら帽子と菜のにおい土に根ざした暮らしが揺れる
群馬県利根商業高校 3年 井上 実咲
- 151 摘まれた菜時の移ろい色褪せるされど変わらぬ春を見送る
群馬県利根商業高校 3年 加藤 侑弥
- 152 菜の花が綺麗に咲くと人々が微笑みかける今の時期
群馬県利根商業高校 3年 木内 空美
- 153 菜の花が黄色く咲くよ春の日に蝶々も一緒に踊ってるみたいな
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 154 母が作る菜のあえ物が食卓にやさしい味が心にしみる
群馬県利根商業高校 3年 高松 蒼空
- 155 菜の花のにおいに包まれ道を歩き友と笑えば春も笑顔に
群馬県利根商業高校 3年 高松 蒼空
- 156 菜の花の香りを運ぶ風の中言ひそびれたねあの日のこと
群馬県利根商業高校 3年 田原 葵

- 157 冬菜摘むひとつひとつに名をつけて呼んでみたくなる静けさの中
群馬県利根商業高校 3年 田原 葵
- 158 菜を洗う音がキッチン満たしてく母のうしろでスマホいじってた
群馬県利根商業高校 3年 西山 歩実
- 159 白菜は白いっていうが緑じゃね？名乗る資格をまず見直して
群馬県利根商業高校 3年 星 瑠綺愛
- 160 菜の花に笑顔を重ね駆けてゆく君と僕らの春は続くよ
群馬県利根商業高校 3年 星野 好香
- 161 菜の花の道を飛び出し声あげて夢を語れば空も晴れわたる
群馬県利根商業高校 3年 星野 好香
- 162 春になり菜の花遠く見てみれば目に映るのは黄色の絨毯
群馬県利根商業高校 3年 宮内 充也
- 163 菜の花が風に揺れてる通り道見ると出てくる愛情たち
群馬県利根商業高校 3年 若林 怜桜
- 164 菜の花に集まるみんな春の時少しの願いを風に乗せてく
群馬県利根商業高校 3年 若林 怜桜
- 165 野菜にはたくさん種類わからない摂らないとダメ栄養たっぷり
群馬県利根商業高校 3年 飯田 誠道
- 166 8月に活気溢れる菜の花とこのまま共に歩み続ける
群馬県利根商業高校 3年 今泉 優利
- 167 菜の花も見れば心もあたたかく道を歩けば春を感じる
群馬県利根商業高校 3年 大澤 奈美
- 168 春の畑菜の花ゆれて風を呼ぶ黄色のじゅうたん空に広がる
群馬県利根商業高校 3年 小林 玖竜
- 169 菜の花がひかりをあびてさきみだれあかるい春をつけているかな
群馬県利根商業高校 3年 小林 玖竜
- 170 菜の花夕日に染まり川沿いに帰り道さえ光り輝く
群馬県利根商業高校 3年 須田 ひなの
- 171 畑には朝露光る青き菜よ母の手により味噌汁となる
群馬県利根商業高校 3年 塚原 圭悟
- 172 菜の花が駆までつづく帰り道スマホ越しで見る君の横顔
群馬県利根商業高校 3年 富澤 いちか
- 173 春風と混じり合う声菜の香り友の笑顔に救われている
群馬県利根商業高校 3年 富澤 いちか
- 174 教室の窓から差し込む光浴び仲間の笑顔力になる
群馬県利根商業高校 3年 富澤 いちか
- 175 吹く風と響き合う音汗を吹き夢を重ねて舞台に立つ日
群馬県利根商業高校 3年 富澤 いちか
- 176 菜の花が咲く頃春を感じるな黄色い花鮮やかに咲く
群馬県利根商業高校 3年 中條 翔太
- 177 夕暮れに菜の花揺れ舞い春の息色とりどりの香り乗せてくる
群馬県利根商業高校 3年 松井 漣
- 178 青き菜を買い物袋に入れながら母と話せる夕暮れの道
群馬県利根商業高校 3年 森 煌陽
- 179 菜の花や遠い星も見ている地球の物語夜空の下
群馬県利根商業高校 3年 角田 翔成
- 180 菜の花や春風に揺れ心も和む命輝き彩りを添える
群馬県利根商業高校 3年 花茂 優衣奈
- 181 夏野菜朝一番の採りたてを食べて感じる土の温かさを
群馬県利根商業高校 3年 阿部 晃大
- 182 山菜を採って渡すわおばあちゃんなんでも作れる料理人
群馬県利根商業高校 3年 阿部 晃大

- 183 菜の花が風にゆられて春を呼び明るい黄色道うめつくす
群馬県利根商業高校 3年 阿部 栞奈
- 184 菜の花につつまれながら歩く道理想の未来目指して行こう
群馬県利根商業高校 3年 阿部 栞奈
- 185 夏野菜みずみずしさが桁違い料理にしても欠かせないもの
群馬県利根商業高校 3年 小野 蒼依
- 186 菜を積んで食卓に運ぶおいしい菜自分で積むとうまさ爆増
群馬県利根商業高校 3年 金子 雅
- 187 川沿いに菜の花そえて走る道部活帰りの汗もきらめく
群馬県利根商業高校 3年 佐藤 寧々花
- 188 野に咲ける菜の花黄色かがやいてあしたのぼくも強くなりたい
群馬県利根商業高校 3年 佐藤 寧々花
- 189 菜の風にひかりの粒が舞い上がるここは夢かと足をとめたり
群馬県利根商業高校 3年 高橋 咲来
- 190 菜の花のひとひら散りて風となる触れられぬ夢消えてゆくのみ
群馬県利根商業高校 3年 高橋 咲来
- 191 菜の花は記憶に残り美しいまた咲く日まで心満たさず
群馬県利根商業高校 3年 戸丸 仁
- 192 菜の花の黄色い波に風が揺れ良い香りが鼻をくすぶる
群馬県利根商業高校 3年 富澤 栞菜
- 193 菜の花を眺めて歩く帰り道黄色い風が一面に
群馬県利根商業高校 3年 富澤 栞菜
- 194 菜の花が一面彩り夏感じ舞う蝶達に目が奪われる
群馬県利根商業高校 3年 萩原 汰河
- 195 菜の花が咲けば一面金色に春の訪れ雪解けるかな
群馬県利根商業高校 3年 馬場 鱒之介
- 196 朝ごはん湯気にまじわる菜の匂いまだねむい目にやさしくしみる
群馬県利根商業高校 3年 藤井 希
- 197 菜の花が咲く道通る下校道風に乗っかる黄色の匂い
群馬県利根商業高校 3年 藤井 希
- 198 菜の花にあさ日のかげはうつりそめ谷ゆく水もあたたかくなる
群馬県利根商業高校 3年 藤井 結月
- 199 青き菜を摘むひとのこゑ谷ひびき春まだきにも土の香ぞする
群馬県利根商業高校 3年 藤井 結月
- 200 照りつける日差しは強くきらめいて暑さ吹き飛ば夏野菜かな
群馬県利根商業高校 3年 古谷 杏奈
- 201 一面の菜の花の中ワンピースなびかせる君愛しくおもふ
群馬県利根商業高校 3年 星野 彩虹
- 202 菜の花を摘んで炒めたフライパン焦げた香りと春の味
群馬県利根商業高校 3年 星野 芽生
- 203 菜の花が咲く季節には色がある赤黄緑に空や雲たち
群馬県利根商業高校 3年 星野 柚羽
- 204 菜の花をわき分けてみた景色がいつもより少しきれいと思う
群馬県利根商業高校 3年 真庭 あいく
- 205 菜の花に夕陽やわらぎ風そよぐ春をまるごと抱きしめたくて
群馬県利根商業高校 3年 本多 凛愛
- 206 春菜摘む君と並びしひとときに言えぬ言葉が風がさらいて
群馬県利根商業高校 3年 本多 凛愛
- 207 青き菜を刻む包丁の音ひびき台所には母のあたたか
群馬県利根商業高校 3年 本多 凛愛
- 208 菜の花がぼきりと折れるその瞬間君の心に哀れみの海
群馬県利根商業高校 3年 川嶋 結翔

- 229 春の朝浮かぶを水滴キラキラと金色に輝く菜の花畑
群馬県利根商業高校 3年 市場 星姫
- 210 陽をあびて照らして光る菜の葉先広がる大地黄色に染める
群馬県利根商業高校 3年 市場 星姫
- 211 放課後に友と歩けば菜の香り未来のことを話していたよ
群馬県利根商業高校 3年 中澤 孝太朗
- 212 優しい陽そよぐ花風春が来た辺り一面おどる菜の花
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 山本 琴和
- 213 新学期太陽ともに菜の花の黄色く光みなうつくしき
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 坂間 柚映
- 214 菜の花のなかにちいさな赤いてん春のこもれば仲間と友に
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 山本 悠乃
- 215 夏の空ぶたいはアジア流す汗頂点目指しいぎ勝負
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 亀井 颯真
- 216 菜の花が風にゆられる昼下がりでおいでと手招きをする
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 小野 夢愛音
- 217 菜の花や季節感じる帰り道風に揺られる小さき幸せ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 伊藤 瑠亜
- 218 菜の花で春の訪れ感じさせ私の勝負いぎスタートだ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 深津 蒼奈
- 219 やってきたニコニコ祖母の夏野菜いぎ目の前に手が動かない
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 莉聖
- 220 菜の花に魅了されゆく蜜蜂が羽音を奏で舞い踊りけり
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 高橋 莉紗
- 221 夏の日に初めて食べる京野菜美味の連続修学旅行
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 山本 煌
- 222 菜の花にはばまれ始める通り道花見るとなく花粉の時期に
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 山口 玲那
- 223 夏野菜小さいころは食べれない今の自分はめちゃ食べれる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 田島 優希
- 224 陽菜さんはバレーボールが上手で試合の時もがんばっている
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 田島 優希
- 225 冬閉じて春の風吹き暖かく舞い踊るのは菜の花か
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 渡邊 登代
- 226 風にゆれ芳香薫る菜の花をながめる私立春を知る
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 岡部 璃子
- 227 菜薫る日蝶舞うなら追いかけてともに飛躍してっぺんを取る
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 西原フエウヰントシバキヤ
- 228 金色の春の陽にゆれる菜の花と青空に映えるあの日の白雲
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 須田 一輝
- 229 春風に舞い散る桜雪の様揺れる菜の花春の喜び
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 松島 和湖
- 230 水澄む日雨がしたたる菜の花にブンブンと鳴る蜻蛉留まる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 長嶋 虹音
- 231 菜の花や太陽てらされ輝くよ今日もはじまる小さな幸せ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 塚越 華楽
- 232 青と黄のコラボレーションきれいだな菜の花畑春風と
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 塚越 華楽
- 233 菜を刻む包丁の音淡々と母の横顔今日も変わらず
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 長 和佳奈
- 234 菜の花はパラパラと散り春の季節一目変えれば入学式
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 太田 優仁

- 247 食事の場わいわいと泣く子どもたち「野菜だー」と言っていたな
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 矢崎 新一
- 246 朝露で色よく光る夏野菜たくさん食べたい夏野菜カレー
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大塚 真央
- 245 菜の花と菜花のような君を見てみとれるうちに春風がふく
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 陵太
- 244 菜の花と元気いっぱい走る君菜の花よりも明るい笑顔
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 陵太
- 243 菜の花や元気いっぱい手をふるな私だけでは手ふりかえせぬ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 陵太
- 242 新緑にさらさら光る菜種梅雨大地彩る天恵来たる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 石川 莉子
- 241 春風に揺られて動めく菜の花に思いをはせる春空の下
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 吉田 悠花
- 240 夏の朝風が涼しく音をきく菜の花ゆるる夏の静寂
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大原 彩衣良
- 239 温暖で緑広がる春の季節その中に咲く黄色の菜の花
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 絢斗
- 238 ランドセルおもくてふらり春の道菜の花だけがまっすぐ立つ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 原田 梨桜菜
- 237 菜の香り春の風にのり心む新しい芽吹き未来を照らす
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 西山 希虎
- 236 菜の花の種を野にまくその刹那にも並ぶ華なる花
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 吉原 煌翔
- 235 帰り道菜の花ひとつ手にとつて山と一緒に一人ほほえむ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 清水 雪華
- 260 菜の花が風になびかれ美しく春の訪れあなたと共に
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 渋谷 美月
- 259 菜の花が風ふくおかに咲きほこり月夜に照らされ夢へと誘う
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 菅原 一花
- 258 菜の花がゆるる受験までの一本道脳に小さくやれるとつぶやく
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 ブートラミ
- 257 菜の花にまぎれて君の声ひとつ届かぬままに春がほどける
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 ブートラミ
- 256 菜の花に光こぼれて蝶あそぶ春はきつと肩にふれる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 ブートラミ
- 255 呼びかけにふり向く君の笑みひとつ菜の花越しに風がときめく
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 ブートラミ
- 254 菜の花のゆれてるときにかさなる目君も知らない私の春が
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 ブートラミ
- 253 黄色い優しさに苦みを隠す菜の花のような私
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 中原 紗穂
- 252 菜の花や頬をくすぐるそよ風に甘くほろ苦き春を知りけり
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 中原 紗穂
- 251 涼し気に静かに濡れる紫陽花の芽吹きはじめの青き菜もまた
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 三森 未来
- 250 風に揺れ黄色く咲いた菜の花を夢中でそっと見つめる二人
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 北爪 陽菜
- 249 雲の下菜の花畑君と見て別れの季節思いは内に
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 吉川 奈那
- 248 菜の花が咲き乱れてる家の庭花粉とともに感じる春よ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 長岡 和香

- 273 菜の花はちようちよもいるよかわいいなちようちよになって上をとびたい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 272 野菜にはいろんなしゆるいあるんだよぜんぶおいしい野菜たちだよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 271 山にきた！ きのこや山菜たくさんだ たっぷり取っておうちに帰ろう
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西澤 咲歩
- 270 楽しみなピクニックの日！ おべんとうおいしくつくって菜の花畑へ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西澤 咲歩
- 269 菜の花を手折る指先のぬくもりで昔の春をいま編みなおす
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 齊藤 優輝
- 268 菜の花を渡りゆく風は立ち止まる春の匂いの君の背中に
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 267 菜の花が君の仕草で揺れていて昼九つを潮風通る
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 266 菜の花のこぼす朝日の匂いかな袖に残れる春の体温
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 265 川沿いに咲きみだれたる菜の波よ流るる時の心やすらぐ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 和気 旬佑
- 264 野に咲いた蜂も集まる集いの場きもちい風にゆれる菜の花
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 須田 夢斗
- 263 菜の花のくきのように高く咲くおれないように強く育つ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 川崎 詩琉
- 262 吾は羅患窓から見える菜の花の咲き乱れるはより輝いて
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 保科 亮輔
- 261 春のなか2人きりで目立った菜の花ともに揺れる恋ごころ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 高澤 桃
- 286 今日のごはんオムライスだよ前菜にポテトを用意大好きなポテト
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 三好 柚
- 285 菜の花がゆらゆらゆれるきれいだな100本以上の菜の花草げん
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 三好 柚
- 284 私はね野菜がきらい白菜も大きらいだよ食べれるかなあ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 三好 柚
- 283 白菜も野菜のなかまおいしいなりようにつかうたいせつなあじ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 282 野菜はねからだにいいよえいようがあるからだよなからだにいいな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 281 はるの花菜の花があるきいろいなハチとチョウもねみつはおいしい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 280 花のいろきいろといえば菜の花だきいろいと菜の花きいろ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 279 菜の花はきれいなきいろきいろきいろ花がゆれてきれいだ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 赤羽 陽向
- 278 菜の花はいろんな色がありすぎる黄色や白の色しかないね
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 小野 結菜
- 277 菜の花がパチパチと鳴るいい音だハートの葉っぱみたいできれい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 276 小松菜は葉っぱみたいなしょっかんだへんなしょっかんすぎるだろうな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 275 お惣菜おやがらくするものだよねおいしいけどねなんかやだよね
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 274 いえのそば家庭菜園やりたいたのしそうだしおもしろそうだ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな

- 299 菜の香を長き道標に歩ゆみゆく鋭視線が未来をうちぬく
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 298 春風にゆれる菜の花黄色くて心に灯るやさしき光よ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 297 家を出て菜の花畑こえて行くあの場所はおもいでほこら
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 296 菜の花をおいかけながら来た場所はむかしあそんだおもいで場所
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 295 菜の花がさいていたからひろったよかがやいてほかんちゅうです
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 横山 麗葉
- 294 あきのきせつ菜花さくよきれいだなちがうきせつにもさかないのかな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 後藤 朱莉
- 293 おばあちゃん今日は小松菜パーティーよテーブルの上小松菜だらけ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 292 おじいちゃんいっしょにとるよ山菜を山菜にがてでも食べるんだ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 291 おばあちゃん家庭菜園しているよコスモスやバラいい香りだな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 290 夏野菜家で育ててしゅうかくだ好ききらいせずちゃんと食べなきゃ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 289 菜の花がえがおのようにさきほこるとてもきれいで気分がいいな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 288 白菜はとてもおいしいやさいだなおみそしるにねはいつているな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西村 真稀
- 287 菜の花はとつてもきれいな花ばたけまだまださいてお花がきれい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西村 真稀
- 312 夕食に出てくるトマトとても美味思いが詰まった家庭菜園
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 赤岩 伶南
- 311 嫁菜咲く春に芽生えるこの想い今この瞬間心うばわれる
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 河野 建之介
- 310 魚釣り小物を釣って笑われるこれは前菜次こそ大物
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 野村 奏人
- 309 菜の花の芽吹きが春を伝えてる長かった冬終わりを告げる
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 野村 奏人
- 308 菜の花の咲いた丘には鳥が飛び春のおとずれ今年も来たか
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 根 橋 遥
- 307 菜の花の葉をつんでく帰り道春の匂い気分おだやか
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 小林 陽菜
- 306 夜ご飯寿司と副菜それにサブ菜箸で取る食べれる分を
長野県塩尻市立広陵中学校 2年 千野 将
- 305 菜の花のきれいなところでまってるねいいことがひとつあるから
長野県塩尻市立広陵中学校 2年 宮島 充輝
- 304 お惣菜私の好きなお惣菜さんぞき焼きでとてもおいしい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 303 お母さん家庭菜園しゅみでね楽しくやるねお母さん良い
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 302 秋こそね野菜たくさん食べれるよ。スイートポテトたくさん食べる
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 301 来年の春になればね菜の花をたくさん見つけたからものだよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 300 菜の花をつみたくなるよでも家の近く菜の花なくてショックだ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏

- 313 毎食に主菜だけじゃなく副菜を作ってくれる優しいママ
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 手塚 朱梨
- 314 菜の花の私は枯れただからこそみんなに美味しく食べてもらえた
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 手塚 朱梨
- 315 夕ご飯いまでは慣れた食卓に惣菜ならぶ一人のご飯
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 手塚 朱梨
- 316 春風に菜の花揺れて山里の光り満ちたり心清くも
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 小池 俊
- 317 台所野菜スープのいいにおい今日のご飯はおかわりできそう
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 岡村 美宥
- 318 健康な体を目指して今を生きる食生活は一汁一菜
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 田中 柚衣
- 319 父親に野沢菜うまいとすすめられ子供の口には少し合わない
長野県塩尻市立広陵中学校 3年 水迫 大樹
- 320 色彩は白菜みたい制服は喪服のように夏を終わらす
神奈川県立光陵高校 3年 佐野 晃太
- 321 手のひらが菜っ葉のようなやさしさと明日に手を引いてくれたのは君
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 322 根菜は最初に煮込んでいきましよう。味はとりあえずその後悔と
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 323 あわよくば菜食主義者になりたくてダイエットはまだ明日からのつもり
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 324 あと少し時がすぎれば菜の花のステージがほら、出来そうですよ
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 325 子供たち、野菜をひふみと数えたらひふみと口へ放り込んでね
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 326 彩りは添えるものだよ野菜さん母の教えに従う弁当
神奈川県立光陵高校 3年 相模 奈緒
- 327 夕方の惣菜パンに割引のシールが貼られる前を想うよ
神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈
- 328 七色の野菜ジュースを寄せ集め嘘の規模より遠い満月
神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈
- 329 余白がないくらいに君と居たくって菜の花畑で二人、溺れる
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子
- 330 風になったポチの小さなおくりものみたくお庭に菜の花、ふわり
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子
- 331 去年より社会を知った妹のてのひらにちぎられる菜の花
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子
- 332 菜箸でそとつとついた憂鬱に夜中の味を教えてもらう
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子
- 333 羽をもつ語尾に気づいて菜の花はあなたの胸で春を迎える
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 334 夕焼けに溶け込んでいく寂しさに惣菜パンはいつもおんなじ
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 335 焼きそばに放りこまれた適当な野菜に似てる僕の人生
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 336 白菜が鍋でぼったりするように柔らかいままのころでいたい
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 337 おはようと教室の戸が動いた遊びの影の菜の花になる
神奈川県立光陵高校 2年 藤井 綾音
- 338 給食当番の男子の親指が野菜スープを吸りかけてる
神奈川県立光陵高校 2年 藤井 綾音

- 351 溜め込んだ太陽の熱は菜の花の黄となり人の笑みを撒く
神奈川立光陵高校 1年 木村 夏帆
- 350 肉色の弁当箱を見て母はお詫びばかりの菜っ葉を添える
神奈川立光陵高校 1年 木村 夏帆
- 349 菜の花は電車を待っているのです 瞳が零した春を見つめる
神奈川立光陵高校 2年 照田 佳苗
- 348 惣菜のパックの端の隅にいる衣の地球脱走計画
神奈川立光陵高校 2年 照田 佳苗
- 347 雨粒は招待状を手にとって野菜畑に舞い降りていく
神奈川立光陵高校 2年 照田 佳苗
- 346 制服が抱えきれない足跡を前菜にしたフルコースです
神奈川立光陵高校 2年 太田 実来
- 345 雲味のケーキを焼いてみましようと甜菜糖のかけらをつまむ
神奈川立光陵高校 2年 太田 実来
- 344 菜園を箱庭のよに整えて根は土を抱き葉は空映す
神奈川立光陵高校 2年 古川 眞帆
- 343 鍋の底菜の芯からの泡ひとつゆつくり透けて冬がほどける
神奈川立光陵高校 2年 古川 眞帆
- 342 葉はひかり芯はぬくもり白菜は外に寒さを内に春持つ
神奈川立光陵高校 2年 古川 眞帆
- 341 早く夕方が来てほしい時は菜の花を近くの池に浮かべる
神奈川立光陵高校 2年 中西 董
- 340 菜の花がぼわりと続く利根川のほとりで君へかけたい羽織
神奈川立光陵高校 2年 藤井 綾音
- 339 優しさが確かに切った思い出をサラダ菜で巻き込んでひとくち
神奈川立光陵高校 2年 藤井 綾音
- 364 花散らす動作が板についた頃菜の花畑は夕に染まった
神奈川立光陵高校 1年 植草 結良
- 363 三日月に似た菜の花にどうしても世の優しさを確認したい
神奈川立光陵高校 1年 植草 結良
- 362 いま一瞬世界を春に支配した菜の花の散るそんな細道
神奈川立光陵高校 1年 植草 結良
- 361 「まずいから」残した菜っ葉とおんなじで世界に独りしがみつく夜
神奈川立光陵高校 1年 植草 結良
- 360 雪山に種まき坊主顔を出し菜花ほほえむ土香る里
神奈川立光陵高校 1年 尾上 幸奈
- 359 高一でようやく食べれた生野菜 もちろん必要ごまドレッシング
神奈川立光陵高校 1年 尾上 幸奈
- 358 息を止めチンゲン菜を飲み込んで大人の嘘の味を覚える
神奈川立光陵高校 1年 宇山 龍
- 357 白菜の白いところがお気に入り、ポチはヴィーガン予備軍ですね
神奈川立光陵高校 1年 小林 央奈
- 356 売れ残り餃子の惣菜引っ提げて、家までタマとスキップしましょ
神奈川立光陵高校 1年 小林 央奈
- 355 お刺身のお隣に咲く菜の花は食えるんですか？ 生ゴミにポイ
神奈川立光陵高校 1年 小林 央奈
- 354 お野菜はスーパーマンの背に乗って生えかけた歯に微笑んでいる
神奈川立光陵高校 1年 眞壁 春菜
- 353 小指だけちよっぴり背伸びをしてみたら菜の花みたく笑えるからさ
神奈川立光陵高校 1年 眞壁 春菜
- 352 春を駆ける菜の花みたいに生きていくそんな背中に恋をした夜
神奈川立光陵高校 1年 眞壁 春菜

- 365 母の手から鍋の中へと舞い降りる菜種油のような微笑み
 神奈川県立光陵高校 1年 山田 万葉
- 366 菜の花をぷち、と殺した手のひらで泥の絡まる爪を隠した
 神奈川県立光陵高校 1年 山田 万葉
- 367 毎晩に惣菜を買う大学生クックパッドがおすすすめですよ
 神奈川県立光陵高校 1年 松尾 綾音
- 368 「おはよう」を弾かれたから何重も壁を作って白菜になる
 神奈川県立光陵高校 1年 松尾 綾音
- 369 小ささで笑われたから真っ赤っか トマトを貶す野菜の仲間
 神奈川県立光陵高校 1年 松尾 綾音
- 370 五百円これで僕の物になって一目惚れした惣菜パンへ
 神奈川県立光陵高校 1年 西村 真穂
- 371 五分おきの電車の風に急かされて菜の花は少し背伸びして咲く
 神奈川県立光陵高校 1年 石井 桃衣
- 372 菜の花の匂いを知ってる五歳児は都会に塗れる高校生に
 神奈川県立光陵高校 1年 大西 真央
- 373 小三の私の特技「菜箸くるくる」祖母の怒号が響く午後五時
 神奈川県立光陵高校 1年 大西 真央
- 374 山菜が好きになれない高校生 きつとお酒のツマミにならん
 神奈川県立光陵高校 1年 大西 真央
- 375 学校で大きく育てた白菜は今夜おいしい八宝菜に
 徳島県立阿南光高校 3年 阿地 しずく
- 376 河川敷の菜の花の種は川音を子守唄にし春まで寝むる
 山口大学教育学部附属光義務教育学校 9年 横道 玄

高校生以下の部
【自由詠】
作品集

326人 559首
学校順に掲載
太字作品は入賞・入選

- 1 初めての冬の景色美しい白くそまつた谷川岳が
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 塩崎 誠大
- 2 草むしりおつかれさまとおばあちゃんパキンと割った大人のパピコ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 田村 晴菜
- 3 愛犬とあの暑い夏砂浜でなにも知らずにただ過ごしていた
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 桑原 珠菜
- 4 笑顔な母と灯台から見る青海原潮風そよぐ潮騒の音
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 細矢 悠生
- 5 桜道ぱくりと食べたモカとムギ花を求めて駆ける公園
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 小林 香湮南
- 6 代表選試合開始と声が聞こえる自分も相手も準備万全
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原 鷹聖
- 7 退紅の花弁散らばる黄昏に高ぶる思いで駆ける狛犬
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 佐藤 琉衣
- 8 にやおにやおといつもは鳴かないうちのねこにやおにやおとごほんの時だけうちのねこ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 野々花
- 9 紅葉の勝負の気持ち2二金いつまで経っても奇跡の一手
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 湯 沢 平
- 10 まちわびた桜と同じピンク色舞うように走るスターの光
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 旺次郎
- 11 紫陽花の蕾ほころぶ帰り道辺り好天気持ち荒天
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 木村 悠真
- 12 会いたくて見れば見るほど遠くなる時計の音も鼓動の音も
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 本多 伯符
- 13 汗ひとつ栄光手にする喜びをオレンジタータン感謝する
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 菜々
- 14 笛の音に覚悟が決まるあの試合いつか立つぞと国立の芝
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 山本 倅輔
- 15 下校時間窓から差し込むオレンジ色照らされながら最後の放送
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 松村 優月
- 16 うとうとと短歌を作る授業中体に当たる暖かい風
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 真庭 りさ
- 17 「おつかれさん」言われて答える「ありがとう」まあるい幸せこぼせぬチョコバイ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 森本 和花
- 18 ホッケー部一人さびしく過ごした日終わりを向かえこれから先へ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 角田 桜生
- 19 逆襲のチャンスボールを打ち込んで掴んだ勝利響く歓声
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 望心
- 20 夕暮時空がかぶりし暮色布わたしのこころも黄金色かな
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鬼 頭 陸
- 21 暑い日に水風船でひんやりと割って飛び散る笑顔と水滴
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 綿貫 未都
- 22 雨の音別れの時の花束を思い起こせば仲間を偲ぶ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 優斗
- 23 小鳥鳴くカーテン開けた眼の中に飛び込む朝日今日のはじまり
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 山中 健太
- 24 星涼し炭踊りだす網の下夜空に届け肉の笑い声
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 中島 優空
- 25 休み前浮かれているやつ怪我するぞ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 植木 憂太
- 26 戻れない静まり返る体育館汗とともに流れる涙
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 優心太

- 27 ストレート最終回の二死満塁高まる鼓動静まる球場
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 新井 啓介
- 28 別れ時先輩たちのおもかげにごめんなさいと伝える気持ち
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 生方 海璃
- 29 白露降るシュート決まって胸がいつぱいスコアが並ぶ気を抜かないで
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 山本 侑我
- 30 猫たちは飯に限ってよつてくるなでてあげよう苦笑いでも
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 下城 瑛斗
- 31 あと一步できなかつたのは攻めること次は真っ直ぐ絶対リベンジ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 渡辺 弥月
- 32 ツーアウト一打サヨナラ羊雲強打をつかみ送球アウト
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 大川 向陽
- 33 焦る心敵の速攻燃える守り筋断裂に引き下がる足
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 木村 琉愛
- 34 汗流しアシストを決め3点差笑顔あふれる籠球祭
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 寺口 太陽
- 35 冷え切った身体にあたるボールがいたいそれでも辞めない夏はもうすぐ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 桜庭 汐花
- 36 クリア川忘れられない弟が投げた私の美しい石
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 森田 未来
- 37 気がつけば桜の木々はみどり色祭りに花火待ち遠しい
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 室 葵子
- 38 風が吹き葉桜ゆれて擦れる音夏の知らせに舞い踊るよう
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 杉木 亜葵羽
- 39 がんばれと応援の声あと少し風と一緒に全力ダッシュ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 本多 柚花
- 40 蛙の音耳にも入らず汗流す「上手になりたい」その一心で
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 美空
- 41 生まれた従兄弟夢中で抱っこをしていると「抱っこしてよ」とせがむ弟
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 美空
- 42 何者か夜の田んぼにゲコゲコと夏季限定の天然の音
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 亮太
- 43 何者か夏の自然に鳴り響くセミとカエルの炎夏のコラボ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 亮太
- 44 授業中初夏のお知らせ聞きながら窓越しに見る鳥のかけっこ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 細矢 陽奈
- 45 走り梅雨課題のページまっさらで寝ずに終わらず午前四時半
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 木村 汐奈
- 46 喉が枯れ胸のあたりが潰される夜な夜な響く咳の声
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 倫
- 47 ああ海よ光り輝くその青は終わりの見えぬ果なき青よ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 西ノ村 斗愛
- 48 ああ星よキラリキラリと輝いて永遠と思ふ果なき時を
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 西ノ村 斗愛
- 49 この声が届く先には何がある孤独に満ちた果なき闇よ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 西ノ村 斗愛
- 50 辛いのは頑張っている証拠だから止まるな歩み続けろ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 西ノ村 斗愛
- 51 人は皆長く生きても最後には三途の川を渡って行く。
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 西ノ村 斗愛
- 52 スギの粉屑え返る時予報より先に感じる如月初め
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 中閑 蒼太

- 53 空に咲く打ち上げ花火すぐに枯れ煙とともに秋の訪れ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 田村 恵愛
- 54 再対戦負けた悔しさこの球に乗せてつないだ味方へのパス
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 伊藤 勇太
- 55 陽は剣焼けたる道を駆けぬけて命削りて届けたゴール
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 拓也
- 56 フォアハンドいつもと違う球の音青空広がるテニスコート
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 沙絢
- 57 沖縄の海から響く波の音風は涼しく暑い碧空
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 侑人
- 58 願ってる中止の連絡布団の中くしゃみの祭り雨の部活動
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 関 瑛翔
- 59 夏の空目の前にいる強敵に打ち勝つ私かっこいいでしょ
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 泉 花菜
- 60 小2の夏ばかなあんたが手をひいたとけてくみみとオレンジミラー
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 芳賀 紬希
- 61 どこか見てのんびり泳ぎまた沈むつい見つけ合うウーパールーパー
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 花凜
- 62 モフモフでキバむき出す君見つければ構えなくなるピースサイン
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 本多 蒼衣
- 63 グランドの白い線に並ぶ人残りは数秒心臓の音
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 金子 友祐
- 64 熱望の近づいて来たゴールライン決めて弾けてうるむ視界
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 伽粹
- 65 きれいな街の灯りを見てみるとなんだかい夢見れそうかなと
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 杉木 萌菜
- 66 マウンドに立って投げ込むストリート振り抜く腕と麦わら帽子
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 内海 涼介
- 67 泣くなよと言われて私我慢するタオルで隠すブルーのしづく
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 優莉
- 68 本番だ緊張ほぐす母の声勝負の世界へ動き出す足
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 羚
- 69 起き上がり床にもどりで日曜日とこしへに続け喜びと雨
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 倅太
- 70 面打ってようやく取れた初一本油断はしないやめかかるまで
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 時吉 一颯
- 71 鯉のぼりエアコンを付け寝転ぶともう夏だなと感じる5月
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高柳 光稀
- 72 メリハリのあるキヨの人格憧れるいつもうるさい一人実況
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 真大
- 73 バーベキュー牛は周りでうめき声ためらいながら食べられるかよ！
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 瑞稀
- 74 流れゆく優しいメロディーと回る羊 脳のスイッチきれるときまで
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 田村 佑愛
- 75 米不足と重なり気付く感謝の気持ちもう食べられない曾祖父の味
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 1年 大崎 菜央
- 76 ラフティング 白い水しぶき 笑い声
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 1年 高橋 凜多朗
- 77 縄文の 矢瀬の里に 星光る
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 1年 高橋 凜多朗
- 78 秋桜とサンストーンの空の星欠けてゆくのは月だけでいい
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 香帆

- 79 夜遅く課題に追われ焦り出す過去の自分がゆるせない
群馬県利根商業高校 1年 伊藤 大悟
- 80 夏休み朝食彩るきゆうりあり瑞々しくて目が覚める
群馬県利根商業高校 1年 上松 大雅
- 81 クーラーの聞いた部屋より夕立の匂いを探す夏休み
群馬県利根商業高校 1年 上松 大雅
- 82 かき氷迷っていつも好きな色熱い体に染みる冷たさ
群馬県利根商業高校 1年 小野 李桜
- 83 イラストで自分の想い描き映す誰かの心響くと良いな
群馬県利根商業高校 1年 金古 希愛々
- 84 でかい山広すぎる海どちらとも自然ででき大きな恵み
群馬県利根商業高校 1年 城田 聖乃
- 85 ミンミンとなくセミの声うるさくてストレスたまりもの壊す
群馬県利根商業高校 1年 城田 聖乃
- 86 プチとかさ呼ばれて笑うトマト族うちは完熟デカさが違う
群馬県利根商業高校 1年 フンティラ ユウト
- 87 ピーマンが苦手な君の皿の上そつと移したばくの優しさ
群馬県利根商業高校 1年 フンティラ ユウト
- 88 帰省して楽しい時間すぐ終わる帰寮したらきつい毎日
群馬県利根商業高校 1年 森野 陽色
- 89 いつ変わるため息溶けるこの夏にそれでも帰る暖かい家
群馬県利根商業高校 1年 吉澤 花音
- 90 もう終わる新しい年夏休み来年のこと考えながら
群馬県利根商業高校 1年 吉澤 花音
- 91 汗にまみれ足跡残して走るたびに小さな勇気が心を押す
群馬県利根商業高校 1年 渡部 亮磨
- 92 はじまりの不安や悩みはらはらと消えてしまえよ不安な気持ち
群馬県利根商業高校 1年 木暮 莉桜
- 93 放課後の教室に残る笑い声窓から響く風の声
群馬県利根商業高校 1年 根立 葵
- 94 新緑のレタスを摘みとりサラダかな彩りのせて春の味覚を
群馬県利根商業高校 1年 阿部 颯太
- 95 甲子園届かぬ夢を見送りて誰にも言えず握る白球
群馬県利根商業高校 1年 大本 徠斗
- 96 汗流し声枯れるまで叫んだ日甲子園まで続けてく日々
群馬県利根商業高校 1年 大本 徠斗
- 97 青空に高く打球が飛んでいく僕らの青春ここにあるんだ
群馬県利根商業高校 1年 東海林 琉衣
- 98 秋になり放課後にふと空見れば紅葉のように紅色だ
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 99 楽しみは布団に入ってぐっすりトリフレッシュするため眠る時
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 100 夏休み毎日野球辛いけど甲子園のためにやるしかない
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 101 楽しみはみんなで遊ぶへトへトに喉が渴いて水を飲むとき
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 102 ピッチャーで大事な場面で四球出し迷惑かけてごめんさい
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 103 歩いてね坂道を登りきったその先に見える景色
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎
- 104 ラムネ瓶プシュッとあけて掲げればここから先は夏の始まり
群馬県利根商業高校 1年 古瀬 英太郎

- 105 夏の野球涙を流し全力でプレーを続ける高校球児
群馬県利根商業高校 1年 星野 恭佑
- 106 朝起きてご飯を食べればグラウンドへ今日も大きな夢を抱いて
群馬県利根商業高校 1年 皆川 涼馬
- 107 練習後疲れた体に囲む食卓疲労回復明日も頑張ろう
群馬県利根商業高校 1年 皆川 涼馬
- 108 なをそだてかぞくのえがおそうぞうしこしをいためるもえみがあふれる
群馬県利根商業高校 1年 大澤 優詩
- 109 なのくさをあつめにやまにおとずれるどれかわからずたちおうじょう
群馬県利根商業高校 1年 大澤 優詩
- 110 夕暮れの海に溶けゆく笑みひとつ戻らぬ夏を胸に沈めて
群馬県利根商業高校 1年 岡田 萌々
- 111 SNSに流れる言葉追いかけて気づけば夜が静かに更ける
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 112 消しゴムの角ひとつだけ残りおり積み重ねたる日々証よ
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 113 友といて笑う瞬間写真より心の中に残るきらめき
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 114 電車窓映る自分と目が合って明日の顔を少し探して
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 115 下書きに消せぬ言葉が残りおり心の奥の声を示せり
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 116 放課後の夕焼け空に染まりつつ明日を少し信じて歩む
群馬県利根商業高校 1年 木内 美和
- 117 暑い日にただひたすらに歩くこと意味を求めず快感のため
群馬県利根商業高校 1年 小林 悠人
- 118 浴衣着て見上げる花火きれいだな来年もまた君とみたい
群馬県利根商業高校 1年 宮下 芽衣
- 119 蝉の声夏を感じる歌声が次第に遠のく秋の訪れ
群馬県利根商業高校 2年 安濃 煌雅
- 120 パリパリといい音が鳴るキャベツを僕はたくさん食べていきたい
群馬県利根商業高校 2年 板橋 柊士郎
- 121 夏の昼セミがたくさんないているお腹がへつてる合図なのかな
群馬県利根商業高校 2年 板橋 柊士郎
- 122 暑い夏日焼けで真っ黒皮むけて夜になったら行方不明だ
群馬県利根商業高校 2年 生方 風靖
- 123 夏休み日に日に迫る大ピンチ課題に迫られる夏の終わりよ
群馬県利根商業高校 2年 岸 吉光
- 124 泥だらけユニフォーム見て思ったよ誰より強く君は輝く
群馬県利根商業高校 2年 小板橋 翔和
- 125 夏休み部活に勉強追い込まれ青い空には白球が飛ぶ
群馬県利根商業高校 2年 篠原 優
- 126 黄色い花と青い空を清める華麗な草原悪心も忘れる心の跡地
群馬県利根商業高校 2年 馬場 康平
- 127 夏の空火花が咲いて綺麗だねみんなの笑顔も綺麗に咲いた
群馬県利根商業高校 2年 綿貫 友莉亜
- 128 休みの日散歩途中たくさんのゆらゆら揺れる輝く菜の葉
群馬県利根商業高校 2年 石井 千聖
- 129 夏休み最初はとても楽しいが終わりに連れて課題地獄だ
群馬県利根商業高校 2年 石井 千聖
- 130 夏ならば祭りや花火行くべきだもう戻らない過ぎ行く時間
群馬県利根商業高校 2年 石井 千聖

- 143 スマホないどこにあるんだ探したらほっけのなかにこんにちは
群馬県利根商業高校 2年 竹内 悠悟
- 142 ジリジリと耳をすませばセミの声夏が来たなと心が躍る
群馬県利根商業高校 2年 菊池 琉心
- 141 真夏日の人工芝で走る皆水分とって頑張りましょう
群馬県利根商業高校 2年 菊池 琉心
- 140 夕暮れに赤く染まって風止まりひとり見上げるまだ青い月
群馬県利根商業高校 2年 吉野 陽詩
- 139 ひまわりの首かしげても太陽は振り向くことを知らぬま夏
群馬県利根商業高校 2年 安原 悠奈
- 138 甲子園夏の日差しが輝いて白球を追いかける僕
群馬県利根商業高校 2年 平塚 侑
- 137 ジリジリと耳をすませばセミの声夏が来たなと心が躍る
群馬県利根商業高校 2年 橋詰 来弥
- 136 何しよう花火に祭り海水浴行事を楽しむ夏休み
群馬県利根商業高校 2年 橋詰 来弥
- 135 花が咲く夏の夜空にカラフルな心が躍る花火大会
群馬県利根商業高校 2年 橋詰 来弥
- 134 なつがきたはなびとまつりたのしむぞあつというまにもう学校
群馬県利根商業高校 2年 津久井 蓮虎
- 133 青い空激しく揺れる水面かな飛び込む気持ち夏の訪れ
群馬県利根商業高校 2年 竹之内 煌真
- 132 新春になにも知らずに独り立ち親の苦勞をはじめて知った
群馬県利根商業高校 2年 清水 惺麻
- 131 ひまわりが太陽目指して凜と立つ雲無し空と麦わら帽子
群馬県利根商業高校 2年 鐘ヶ江 翼
- 144 ひしひしと光る眼差しあびながら冷水を浴びていく
群馬県利根商業高校 2年 羽住 侑起
- 145 ドンと咲きパツと消えゆく光かな夏の終わりを惜しむかのように
群馬県利根商業高校 2年 星野 駆音
- 146 **名前だけノートの隅に書いてみる誰にも見せぬ小さな秘密**
群馬県利根商業高校 2年 星野 隼人
- 147 夏の空君の横顔照らしだすひとつの影もやさしく揺れる
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 148 放課後に交わす言葉のあたたかさ胸にしまいて歩む帰り道
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 149 眠れずに窓をあければ星ひとつ願いを託す夜のしじまに
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 150 風そよぐページの音もやわらかに夢へと続く物語かな
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 151 朝焼けにひとすじ光さしこめば今日の始まり胸がはずむよ
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 152 雨上がり靴音ひびく石畳に映る世界がすこし澄みゆく
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 153 図書館でふと目が合えば時止まり声にならぬ想いあふれる
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 154 月明かり眠れぬ夜をただ包むこころの波もしずかにほどこけ
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 155 **花ひらくその瞬間を見ていたら自分の未来少し信じる**
群馬県利根商業高校 2年 大和 江菜
- 156 ユニフォーム汗と土での模様つけ暑い夏ももうすぐ終わる
群馬県利根商業高校 2年 吉永 玲斐

- 169 星たちは日落ちる頃に目を覚まし夜の世界を照らし始める
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 168 はがおちてふとふりむけばかぜがとびはがそらたかくまいあがつてる
群馬県利根商業高校 2年 山崎 心音
- 167 はるのかぜなのはながちりちりとおそらたかくにしずかにとんで
群馬県利根商業高校 2年 山崎 心音
- 166 教室の窓辺に残るきみの影ノートに映す好きの文字ひとつ
群馬県利根商業高校 2年 増田 結衣
- 165 自転車で坂をくだれば笑い声風より速く夏を追い越す
群馬県利根商業高校 2年 増田 結衣
- 164 夏の夜夜空に広がる火の花は夏の思い出花火大会
群馬県利根商業高校 2年 林 美優
- 163 海の音氷の山と風鈴が夏の暑さに対抗してる
群馬県利根商業高校 2年 遠橋 瑛琉
- 162 白球を追いかけ走る汗のなか夕日の光背中を押して
群馬県利根商業高校 2年 勅使川原 壮哉
- 161 眠れない窓の外には丸い月自分をそっと照らしてくれる
群馬県利根商業高校 2年 柴崎 翔
- 160 夜の空君の横顔照らしてる一瞬の夢打ち上げ花火
群馬県利根商業高校 2年 金子 ほのか
- 159 おなかすきコンビニで買った菜めしおにぎり帰り道にはちょっときもちい
群馬県利根商業高校 2年 小野里 悠月
- 158 あめふってやる気のない日寝て過ごすなにもしてないどうしよう
群馬県利根商業高校 2年 石坂 有人
- 157 部活中間こえてくる蝉の声うるさいけれど夏を感じる
群馬県利根商業高校 2年 吉永 玲斐
- 182 裸足では少し熱いね浜の砂君の足あと追って歩いた
群馬県利根商業高校 2年 高山 結衣
- 181 夏終わり悲しくなって夜眠るおきてみたら太陽だ
群馬県利根商業高校 2年 塩野 大翔
- 180 青空に声を合わせて笑い合う木々もこだまし友情育つ
群馬県利根商業高校 2年 澁谷 友羅
- 179 菜の花が風に揺れる日春が来て心はずむ空の青さよ
群馬県利根商業高校 2年 塩谷 歩翔
- 178 夏休み大きな花火がぱつと咲き夜空を照らし心も照らす
群馬県利根商業高校 2年 佐藤 瑠南
- 177 曇り空太陽隠れ薄暗く風は涼しく癒しの時間
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 176 暑き日は意識朦朧足止まり何かを求めまた歩き出す
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 175 夏の世は熱き光が見下ろして逃れるために水を探して
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 174 朝なると目覚まし鳴りし布団中朝の戦い今幕開ける
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 173 昼過ぎて天に昇りし太陽が熱き視線でこちらを覗く
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 172 夏の世は昼は汗だく地獄絵図夜は涼しく桃源郷
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 171 日が強く肌が焼けてく夏の中影を求めてあたりを探す
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈
- 170 ざあざあと空が泣き出す雨の中雷雲が怒りを落とす
群馬県利根商業高校 2年 今井 夢奈

- 183 はしゃぐ子の手を離さずに歩く父浴衣のすが風に揺れてた
群馬県利根商業高校 2年 高山 結衣
- 184 まっすぐに陽を浴びのびるトマトの子赤くはじめて夏のまんなか
群馬県利根商業高校 2年 能登 聖那
- 185 茄子の艶秋のしじまに火を入れてしずかに香る夕べの味噌汁
群馬県利根商業高校 2年 能登 聖那
- 186 数字追い心すり減る月末にふと目が合った電卓のミス
群馬県利根商業高校 2年 能登 聖那
- 187 春と夏四季の2つがもう終わり年の短さ寂しく感じる
群馬県利根商業高校 2年 深代 汐梨
- 188 道路から、見上げる先に、聳え立つ、谷川岳と、連なる山だ
群馬県利根商業高校 2年 山村 風真
- 189 ベンチには誰もいなくて空だけがずっとそこから見下ろしている
群馬県利根商業高校 3年 金古 碧夢
- 190 目が覚める目覚ましがわり蝉の鳴き声うるさいようで夏の音色らしさ
群馬県利根商業高校 3年 小林 晃二郎
- 191 おわりかなれいぼうつけずすよるこのまえまでのなつの威圧感
群馬県利根商業高校 3年 小林 晃二郎
- 192 **トマト食べ口の中だけ夏祭り誰にも見えぬ赤の花火よ**
群馬県利根商業高校 3年 坂本 孝信
- 193 トマトトマトトマトマトマトマトマト見事な兜持ち生まれける
群馬県利根商業高校 3年 坂本 孝信
- 194 白球を追う球児たちが集う場所テレビ越しでも心が踊る
群馬県利根商業高校 3年 佐藤 剛
- 195 汗をぬぐい未来を信じて歩む道夏の光に背中を押される
群馬県利根商業高校 3年 佐藤 廉侍
- 196 ペン握りひたすら書き込む音響き焦る心も明日への道
群馬県利根商業高校 3年 高橋 楓禾
- 197 初めての球を追わない夏休み何か足りない寝る前の僕
群馬県利根商業高校 3年 羽生田 稜
- 198 筋トレで鏡に向かい吠えてみる誰もいないが気合いは満点
群馬県利根商業高校 3年 福田 悠人
- 199 美しいバラ赤く染まる愛情子供へ抱くピンク色の感謝オレンジ色の絆
群馬県利根商業高校 3年 阿部 雛乃
- 200 「やらなきやね」口に出すたび遠くなる蝉の声だけどこまでも響く
群馬県利根商業高校 3年 井上 実咲
- 201 汽笛鳴り遠ざかる君見る背中言い足りないよまだ夢の中
群馬県利根商業高校 3年 加藤 侑弥
- 202 回想列車記憶に揺れる君がいた走り出した夢覚めないように
群馬県利根商業高校 3年 加藤 侑弥
- 203 追憶の中で咲くのは紫苑かな誰かの笑みが涙を誘う
群馬県利根商業高校 3年 加藤 侑弥
- 204 去りゆく日スイートピー香る春に晴れ空に溶けゆく優しい思い
群馬県利根商業高校 3年 加藤 侑弥
- 205 菜の花としゃがんでおしゃべり春の道きいろいひみつふたりだけだよ
群馬県利根商業高校 3年 木内 空美
- 206 **朝露に濡れてひかれる菜の花を手を繋いでみる友達とぼく**
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 207 おひさまに向かつてのびるなばなのは元気いっぱいぼくもがんばる
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 208 春風に菜の花ゆれてひかりさす黄色の海を友と歩けり
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝

- 229 給食に菜っ葉のおひたし少し苦いでも体にはいいんだようなあ
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 210 菜の花を見上げる道の夕焼けにオレンジ色の影がのびてく
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 211 春の野に摘みし若菜の香りして手のひらひかる陽だまりの色
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 212 夕暮れに菜の花揺れて風を呼ぶひとり帰路の影を照らせり
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 213 君と摘む菜の花かがやく朝の道笑みこぼれつつ時は過ぎゆく
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 214 菜の花をみんなでながめ笑い合う春の公園鳥も泣いてる
群馬県利根商業高校 3年 清水 愛輝
- 215 白い雲追って走った帰り道笑う横顔夏が通った
群馬県利根商業高校 3年 西山 歩実
- 216 目覚ましが鳴って止めてもまた鳴ってお前が主役か俺の人生
群馬県利根商業高校 3年 星 瑠綺愛
- 217 窓開けて聞こえてくるは蝉の声夏の始まり気づくこの家
群馬県利根商業高校 3年 宮内 充也
- 218 八月の沼田に響く太鼓の音老若男女楽しむ祭り
群馬県利根商業高校 3年 宮内 充也
- 219 朝日さす窓から光差し込んで今日も始まる新しい日が
群馬県利根商業高校 3年 飯田 誠道
- 220 ランニング強い日差しが刺してきてどんどん消える気力
群馬県利根商業高校 3年 飯田 誠道
- 221 真夏の日光差し込む暑さの日風に仰がれ黄色の精霊
群馬県利根商業高校 3年 今泉 優利
- 222 川の水足をひたせばひんやりと小さな魚が指をよぎれる
群馬県利根商業高校 3年 大澤 奈美
- 223 朝食にトマトをのせたパンを焼く眠い目こすり今日も始まる
群馬県利根商業高校 3年 片桐 歩夢
- 224 夏休み課題やらずに空見上げあの雲みたいに自由でいたい
群馬県利根商業高校 3年 片桐 歩夢
- 225 太鼓の音響きに胸もはずみつつ夜空に浮かぶ花火の輝き
群馬県利根商業高校 3年 須田 ひなの
- 226 白球が青空裂いて舞い上がる声援ひとつ背を押してゆく
群馬県利根商業高校 3年 塚原 圭悟
- 227 キンキンに冷えたトマト食べたいな夏を感じる瞬間じゃ
群馬県利根商業高校 3年 中條 翔太
- 228 流れゆく川のせせらぎに心寄せ水面に映る星屑夢みる
群馬県利根商業高校 3年 松井 漣
- 229 水上の雪解け水に流れ着く淡い青春冷たい記憶
群馬県利根商業高校 3年 松井 漣
- 230 汗にじむメガホン握り振りかざすスタンドだって戦っている
群馬県利根商業高校 3年 森 煌陽
- 231 夏休みいつもゴロゴロ暇すぎるだけど中々行動しません
群馬県利根商業高校 3年 角田 翔成
- 232 汗まみれ力がこもるよ演奏に甲子園まで連れてって
群馬県利根商業高校 3年 花茂 優衣奈
- 233 泥まみれ選手必死に食いついて目指す場所は甲子園
群馬県利根商業高校 3年 花茂 優衣奈
- 234 菜の花は特別な日に渡される不思議な気持ちになるのかな
群馬県利根商業高校 3年 花茂 優衣奈

- 247 真夏の日せみの鳴く声夕立にほっと一息浴衣着る
群馬県利根商業高校 3年 星野 芽生
- 246 ひまわりが皆肩並べ日を求めお天道様に伸び続けている
群馬県利根商業高校 3年 星野 彩虹
- 245 夏の夜に咲き誇る花美しく浴衣姿で輝きを増す
群馬県利根商業高校 3年 古谷 杏奈
- 244 花火咲く夜空を心人並び見る「来年もまた」果たされぬまま
群馬県利根商業高校 3年 馬場 鱒之介
- 243 菜を手折り花瓶に生けては窓に咲く黄色と緑心安らぐ
群馬県利根商業高校 3年 馬場 鱒之介
- 242 谷川の雪解け水が町へゆく命の芽吹きと豊かな大地
群馬県利根商業高校 3年 馬場 鱒之介
- 241 夏休みこれで最後か高校の多くの課題も恋しく思う
群馬県利根商業高校 3年 萩原 汰河
- 240 ひまわりと同じ方向向いていたあの日の夢はまだ遠くても
群馬県利根商業高校 3年 戸丸 仁
- 239 ひとりきり空にラッパを鳴らしてた入道雲がじつと見ていた
群馬県利根商業高校 3年 高橋 咲来
- 238 何色も絵の具が染まる三月に桜舞う夜
群馬県利根商業高校 3年 久保 咲真
- 237 悲しみを越えて前へと進む春花が微笑む香りの中へ
群馬県利根商業高校 3年 久保 咲真
- 236 夏休暇家族でほのぼの旅に出るけどその帰り道憂鬱な気分
群馬県利根商業高校 3年 金子 雅
- 235 夏休み楽しみだった夏祭り今しかできない夏の思い出
群馬県利根商業高校 3年 小野 蒼依
- 260 窓の外にぎわう声の夏休み勉強追われる受験生かな
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 赤石 楓
- 259 快晴の川にとびこむ翡翠と似た物同士むじゃきな子供
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 島田 瑠希
- 258 夏祭り大風が来て大被害部活休みでひまな一日
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 荒牧 大翔
- 257 鯨たち旅の途中に北へ来る太平洋をゆつくりと
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 村川 穂徠
- 256 夏祭り声鳴りひびくあかるい場夕焼の中人が帰宅
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 小林 諒真
- 255 灰色の風なびく空夏祭りけふという日よ雨が降るかな
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 坂間 柚映
- 254 緊張の糸がほどけるその瞬間ただまっすぐに矢は走りゆく
群馬県利根商業高校 3年 中澤 孝太朗
- 253 右向いて左を向くと目が回るまるで季節のうつりかわり
群馬県利根商業高校 3年 川嶋 結翔
- 252 夏休み大きな青空浮かぶ雲何より大きくかがやいている
群馬県利根商業高校 3年 真庭 あいく
- 251 **にんじんが、喋った気がして、逃げ出した、よく見たらさ、自分の声だ**
群馬県利根商業高校 3年 松井 吏音斗
- 250 レタスって、何かに似てる、気がするけど、言ってる間に、飛んだレタスよ
群馬県利根商業高校 3年 松井 吏音斗
- 249 向日葵と麦わら帽子かぶっては風に飛ばされ流れ出る汗
群馬県利根商業高校 3年 星野 柚羽
- 248 夏空に光る太陽白い雲蝉の鳴く声揺れる陽炎
群馬県利根商業高校 3年 星野 柚羽

- 273 母猫の枯木を見る目冷たくて春はまだかと待つ心かな
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 渡邊 登代
- 272 西へ行く人の影には椿映え何も言えぬが送り出さねば
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 渡邊 登代
- 271 夢にみるアニメみたいな青春を恋に祭りに花火大会
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 高田 百萌
- 270 日常の中で東雲空に声上げて夜のさかい間臘月の色
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 山口 玲那
- 269 くもり空あれくるう空に轟きの雷鳴りひびく水たまりはね
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 山口 玲那
- 268 暑い日にアイスほうばりひと休みセミのひと声夏を感じる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 山本 煌
- 267 降り注ぐ白い星星白い息火照った頬を冷ます北風
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 高橋 莉紗
- 266 夏祭り夜空に浮かぶ花畑二人を照らすスポットライト
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 高橋 莉紗
- 265 曲流れ心が躍る私たちつかれたあとにジュースを飲んだ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 櫻井 瑞季
- 264 夏祭り勇気を出して彼誘い一緒に花火重なる手と手
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大沼 紫季
- 263 傘五つ見えるあの道目的地地運ぶこの足修学旅行
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大谷 倫太郎
- 262 天気予報雨が降るのか降らぬのか空をうかがうてるるぼうず
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 桑原 唯月
- 261 山道を登ると見える三日月や耳にきこえる虫の合唱
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 鈴木 健太
- 274 どこへ行く自由に行くは鷹の影我も共にと恨む心よ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 渡邊 登代
- 275 坂道を上って下る登下校体力うばう真夏の日差し
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 岡部 璃子
- 276 夏風と青空の下大ホール奏で響かせ一音入魂
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 倉本 渉夢
- 277 梅雨明け真夏の空に鳴りひびく熱中症の警戒アラート
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 倉本 渉夢
- 278 日焼け止め毎日塗るが真っ黒け今年はいくら使うのだろう
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 重田 乃衣
- 279 炎天の青空の下じりじりと額の汗が表す暑さ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 重田 乃衣
- 280 夏の外五分経ったら家人の結局夏はスマホでおわり
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 長嶋 虹音
- 281 今年の夏今までのちがう過ぎ方受験に向け勉強はげむ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 滝澤 莉乃
- 282 後転がもはや前転どこ向いてどこまで転ぶマットの旅路
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 小久保 陽菜
- 283 夏祭りカップル歩く道なみはこの苛立ちがかくしきれない
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 長 和佳奈
- 284 優勝し仲間のもとへ走りより大歓声に涙あふれる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 太田 優仁
- 285 冬風の海鳥渡る早朝に群がる中に息たえるもの
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 小野 さくら
- 286 スパイクの地面蹴る音聴こえると嫌でも心が高ぶってくる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 小山 慶人
- 287 関塚 晴信

- 299 くつのひも一人おくれで最後尾静かに移動講習会
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 亀井 穂香
- 298 アサガオや輝くまなざし目におわれパチリと身に写る一輪
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 亀井 穂香
- 297 身の周り黄色の影色があきれ自信をなくす私の立場
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 亀井 穂香
- 296 ドア開く音をききつけ母親が走り寄ってくテストの結果
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 塚越 唯翔
- 295 坂道を君と二人で夏の夜夕日が照らす君の眼差し
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 花輪 咲人
- 294 夕ぐれに君と二人で坂道を夕日が照らす君の眼差し
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 花輪 咲人
- 293 ヒマワリが太陽ながめ夏がくる ヒマワリのように楽しく生きる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 川島 璃亜人
- 292 コンクール中学最後の部活動校舎に響く楽器の音色
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 酒井 日和
- 291 空見上げ花火のあとのしずけさに空へ飛び立つ夏の思い出
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 徳田 希輝
- 290 テレビから流れる甲子園横目観てプリント一枚また後まわし
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 原田 梨桜菜
- 289 新緑が雨にうたれる街中を友達と学ぶ京の歴史
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 田畑 結花
- 288 夏祭りキャンパスに咲く花々とすこしけむたい火薬のにおい
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 田畑 結花
- 287 夏祭り月夜に輝く流れ星はかなくちった八月の夜
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 柳田 和成
- 312 三年後高校野球で甲子園出場したら優勝するぞ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 渡邊 陽尊
- 311 夏休み時間忘れて勉強し去年と違汗をかかない
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 田村 快音
- 310 今年こそさされず捕らえる意気込むも対策むなく蚊にはさされる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大内 愛友花
- 309 こもる熱だんだん重なり重み増す五人でこたつ「これ誰の足」
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大内 愛友花
- 308 西日差し網戸に期待風よ来い来たのは熱風分かっていただけ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大内 愛友花
- 307 西日差し網戸に団扇試すけどやわらがぬ熱サウナじゃないのに
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大内 愛友花
- 306 学校のプールをたたく夕立も友と帰れば某アトラクション
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大内 愛友花
- 305 ひるさがりきんもくかおる山のなか木々の間にさしこむ光
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 陵太
- 304 見続けるまだかまだかと丸い芽を向日葵うける私の視線
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 石川 莉子
- 303 恋の風音を聞きつけ訪れる君に待たるる十五の夏よ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 佐々木 凜人
- 302 白銀の雪につつまれ歩き出す白い世界に目がくらんでく
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 吉田 悠花
- 301 青い空ながめていたら気が晴れて空と同じく青に染まって
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大谷 総一朗
- 300 アサガオがずっとこちらをながめてるその輝きについてふりむいて
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大谷 総一朗

- 313 初めての修学旅行で京都・奈良たくさんさんの建物がきれいだな
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大塚 真央
- 314 クーラーを求めて走る夏休み予約運転しててよかった
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 長岡 和香
- 315 夕立の滝のような大雨も夏の暑さに手も足も出さず
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 佐藤 蒼空
- 316 梅雨での光り輝く稲妻も夏の暑さに手も足も出さず
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 佐藤 蒼空
- 317 入梅をしても吹ききたる熱い風それをも越えたる祭りの花火
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 佐藤 蒼空
- 318 部活なく四時頃帰る幸せをかみしめてたら課題に追われる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 桑子 歩大
- 319 炎天下プールであそぶ子ども達帰りの車つかれてねむる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 松島 千夏
- 320 市総体熱気や涙と共に舞うみんなで繋いだ一つのボール
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 北爪 陽菜
- 321 バラいちごアイスコーヒー夏蜜柑ナイトプールはたのしかったよ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 井手上 海翔
- 322 春すぎて炎天下なか走る君水を求めて日陰も探す
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 新井 勘太
- 323 日光を浴びて育つてく向日葵と部屋とじこもり涼む私と
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 成塚 須美伶
- 324 クリスマスサンタにだけの一生の願い 恩を返すから金が欲しいと
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 山下 桃実
- 325 ランチ後の外の体育めっちゃハード炎天下の中熱風しか来ず
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 加藤 雪華
- 326 市大会最後の夏を優勝に県大会で目指すは優勝
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 石井 謙伍
- 327 ざあざあとかすれて消える過去の人貴方の笑顔思い出せるか
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 高橋 蒼空
- 328 六月の中旬ごろは梅雨のはず雨は降らずに真夏日のよう
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 碓井 遥斗
- 329 夏祭り君とすごしたあの夏は忘れないから君の存在
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 百合野 愛
- 330 母の日に日頃の感謝をありがとう心からおくる愛のプレゼント
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 塚越 駿介
- 331 ザーザーと雨の音鳴る夕立は夏限定でふと訪れる
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 新島 杏奈
- 332 夏休み楽しい時間はすぐ過ぎて残るは課題とテスト勉強
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 橋本 結愛
- 333 夏休み仲良く友と遊んだら待っているのは受験勉強
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 松島 由奈
- 334 非公開休みの日だけメイクするいつか公開できるだろうか
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 深町 帆花
- 335 夏祭り金魚すくい取れてたらすごくうれいと思えました
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 濱田 チアゴ
- 336 楽しいねいつも暑い日かけた遊んだりするそれが楽しい
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 竹下 さら
- 337 夏の日に風鈴なり団扇片手にすずしみながら過ごす日々
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 丸谷 羚馬
- 338 夏祭り火の玉上がり空に舞う周り輝き私を照らす
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 佐藤 琉可

- 351 青春だあの人と行く夏祭り夜空の下で恋人つなぎ
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 内田 花音
- 350 夏の日にあそびたいけど家こもる気温が高く外へ出れない
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 岡村 明音
- 349 プロポーズ愛のささやき聞く君に火照った顔に熱いキス
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 高橋 優互
- 348 私から君へ届いてこの気持ち加速していく花火と共に
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 福田 あおい
- 347 帰り道後ろ姿を思い出す手を伸ばしてももう戻らない
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 バウムランライレイダイ
- 346 恋の色君を照らした光る花夜空に咲いた打ち上げ花火
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 バウムランライレイダイ
- 345 恋は咲く想いを告げたあの日から君と始めるラブストーリー
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 バウムランライレイダイ
- 344 恋心はっと気づいたこの気持ち君の瞳に胸がざわつく
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 バウムランライレイダイ
- 343 桜まう道にあしあとやわらかく春のにおいに心ほどける
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 重原 心友
- 342 桜木が咲いてる季節ぼくたちは新しい道へ進み始める
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 ブートラミ
- 341 夏の夜かがやく夜空光る星流れ星見てきれいだと言う
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 中原 紗穂
- 340 木陰よりせみがささやく一言は命短かし恋せよ乙女
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 亀岡 航明
- 339 こんにちはは夜中に言われおれ思う今の時間はこんばんわだと
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 亀岡 航明
- 364 木漏れ日のひかりの粒を浴びながら静けさに寄る夏の山道
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 363 電線のスズメがひとつ鳴くたびに静かな午後が少し崩れる
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 362 砂時計音を立てずに落ちてゆく夜明けの色がガラスに滲み
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 361 閉めてても窓から入るセミの声夏をすぎれば鈴虫の声
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 茂木 優愛
- 360 セミが鳴くホタルがひかる夏の夜火花がひかる私の瞳
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 高田 美麗
- 359 夏の夜涼しい風にふかれればふと思ひ出す夏の思い出
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 本多 大河
- 358 桜の花春風にゆれ夢ごこち散ってる花は降る雪のよう
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 津久井 大遥
- 357 夏休み楽しみですが短すぎその間にも勉強する
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 中野 大地
- 356 寒い冬われにえられぬぬもりがこいしくなつてぬれてるまくら
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 井上 よしあき
- 355 さむい冬夢にまでみたあの子にはとうてい会えずひとり年こし
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 井上 よしあき
- 354 幾度も昂ぶる胸は友を見て恋か否かを知る者はなし
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 保科 亮輔
- 353 「月光」の響く音色と寝込む君病室で弾く愛の告白
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 保科 亮輔
- 352 夏祭り花火見ながらかきごおりみんなで楽しむ楽しい花火
群馬県太田市立宝泉中学校 3年 梶原 桜

- 377 なつにはねかにさされるのいやだけどなつはだいきだいきだよな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 376 夏まつりいろんなやたいあるけどねどれにしようとなやむのがいい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 375 かき氷ゴリゴリけずりシロップをかけてたべるよキーンとなった
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 374 うわあああアリがこわすぎきらいすぎなにあの体きもすぎるだろ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西澤 咲歩
- 373 かんきせん秋になつてもつかいませすちよつとさぶくて使うのやめた
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西澤 咲歩
- 372 せんぶうきボタンをポチつとすずしいなこのままずつとすずんでいたい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西澤 咲歩
- 371 あれあれあれっ 足がムズムズかゆすぎるまわりをみたらかごとんでいた!
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西澤 咲歩
- 370 夏祭り夏の定番かき氷おいしいけど頭がいたい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西澤 咲歩
- 369 息をする無為なる行為に身を委ね波打ち際に裾を濡らせり
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 齊藤 優輝
- 368 街灯に集る羽虫は今人か吹けば飛ぶほど軽い思考か
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 齊藤 優輝
- 367 名を呼べば波はほどけて風となり君を想えば星が涼しい
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 366 ひぐらしの音の途切れる坂に佇つ真昼の月が赤くにじんで
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 365 ハリセンボンの棘を数えてあなたとの約束はもう遠い泡沫
群馬県高崎商科大学附属高校 1年 畠山 美紅
- 378 もみじがねおちていくのがうつくしいほうせきみたいでもすぐかれる
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 379 いろいろなあきがあるけどなにがすき わたしはないよきみはあるのか
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 綿貫 ゆうな
- 380 枯れ葉でねふとんを作るゆめをみてぜったいこわれまた集めるよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 小野 結菜
- 381 波の音波がたかくてきれいだなひかりをあびてひかっているよう
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 赤羽 陽向
- 382 さくらの木ピンクの花がたくさんだ風がふいたら花びらがまう
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 赤羽 陽向
- 383 ふうりんがリンリンとゆれっているリンリンとなりひびきわたるな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 384 ふうりんはリンリンとなるすずみたい風でなる音きれいな音だ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 385 花のみつハチとチョウにもたいせつだおいしみつはむしのごはんだ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 386 レモンの木あたたかいところになる木だあじはおいしいちよとすっぱいな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 387 くだものはぶどうとりんごようなしもももあるよなたくさんある
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 川窪 悠希
- 388 秋だからスイートポテト食べないと近くのイベント行きたくないよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 三好 柚
- 389 夏だからいろんな味のかきごおりどの味にしよう全部かけよう
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 三好 柚
- 390 春だからちようちよいつぱいかわいいなでもちよつとじゃまでもかわいいな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 三好 柚

- 403 秋の空オレンジ色のきれいな空もみじの色といっしょの色だ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉
- 402 臨海で行った名古屋の広い海塩の香りが心にのこる
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 401 帰り道もみじかたてにスキップでおばあちゃんにねわたすおみやげ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 400 夏休みやっと始まる長い休みでも宿題が大量にある
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 399 家の中ドンドンびびくなぞの音外をのぞくと花火だったよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 小岩井 彩莉
- 398 なつやすみまいにちたのしいだけどしゆくだいがあつてだるいー
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 越立 龍空
- 397 すいかはねまじでおいしいすいかだよでもねたねがあるけどおいしい
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 越立 龍空
- 396 ゆうえんちいろんなのたのしいなこわいのりものたのしいんだよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西村 真稀
- 395 ふわふわのチョコドーナツおいしくてとまらなくなるすきなんだよね
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西村 真稀
- 394 あきにはねもみじがきれいふゆになるとねもみじがおわる
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西村 真稀
- 393 なつやすみとつてもながいうれしいなおでかけいっぱいいきたくなるな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 西村 真稀
- 392 ねんに1度クリスマスだよプレゼントくるといいよな楽しみすぎる
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 三好 柚
- 391 夏休みさいこうすぎだでもだるい宿題いらんでも楽しいな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 三好 柚
- 416 あの子はねてんこうしたよいわれた日話しなかったでももういない
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 415 秋の空ゆうぐれの空きれいだなたいようを見てにっこり笑
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 414 おじいちゃんとおむかしあそんだおもいでだからばこみたいおもいで場所
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 413 春の日はおじいちゃんのおわかれがきた天国いっても元気でいてね
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 横山 麗葉
- 412 冬のときかぞくでつくったゆきだるまおもいでたくさんありすぎちゃった
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 横山 麗葉
- 411 なつのとときともだちといたイオンのなかみんなでおそろキールホルダー
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 横山 麗葉
- 410 なつのひるぜったいやるよタネとばしだれがいちばんとばせるのかな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 横山 麗葉
- 409 なつのひはうみにとびこむつめたいなうみのめせんはひかったたいよう
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 横山 麗葉
- 408 夏の日はせみのなきごえきこえるよミンミンミンないているよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 後藤 朱莉
- 407 夏の日をかえるのなきごえうるさいなゲコゲコゲコないているよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 後藤 朱莉
- 406 ハロインは、みんなであつまりかそうしておどろかせにいくんだよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 後藤 朱莉
- 405 あきといえばさつまいもみんなやいてみんなたべたのしいな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 後藤 朱莉
- 404 夏の日はいとしたべるかきごおりシロップのあじいろいろあるよ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 後藤 朱莉

- 417 君がくれたキーホルダーは残ってる君はもういないまた会いたいな
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 418 春の日はお別れの時悲しいなみんな泣いてる卒業式
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 飯田 紗花
- 419 夏の色楽しい色も悲しい色も秋になればね全てわすれる
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 420 秋こそは年に一度のハロウィンやりたいけれどやるひまがない
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 421 夏祭り屋台がたくさんあってあそびぼうだい心が自由
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 422 かき氷夏の定番ガリガリね食べれるアイス暑い時良い
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 423 海の波ザーザーとキレイ音あそびたくなるいっしょに
長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 安藤 楓夏
- 424 好きな人見つめてしまう君の顔心拍上がる顔赤くなる
長野県塩尻市立塩尻東小学校 2年 宮島 充輝
- 425 アサガオは夏になると目を覚ます雨の音を聞きつけるんだ
長野県塩尻市立塩尻東小学校 2年 千野 将
- 426 わたしはつむじがふたつ天才だ唯一無二のギフト
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 小林 陽菜
- 427 桜咲くそよ風吹けばひまわりが夏のしわざかいや春泥棒
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 根橋 遥
- 428 北風が肌を突き刺す槍のよう盾の代わりにマフラーを巻く
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 野村 奏人
- 429 在りし日に家族で行った温泉街目に映るもの全て新鮮
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 野村 奏人
- 430 慣れきった季節の過ぎが処方箋君と過ごした記憶の泡と
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 河野 建之介
- 431 もうむかしけやきの下の二人掛け紅葉と季節色褪せる秋
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 赤岩 伶南
- 432 本当の気持ちを隠し過ごしてるじゃないとちよつと疲れてしまう
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 手塚 朱梨
- 433 きつともう届かないからいまだけは忘れないよう浸っていよう
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 手塚 朱梨
- 434 今世でもあなたと出会い別れたのだから私は愛を知れたの
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 手塚 朱梨
- 435 秋の風ふわりと吹いて木の葉舞う学校帰りに空を見上げる
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 小池 俊
- 436 まんなかにどんとすわってうごかない猫の世界の王様みたいに
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 小池 俊
- 437 緑の葉色づきはじめ思いだすベンチにすわるあなたの涙
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 岡村 美宥
- 438 ぐんぐんとあがっていくのは心の声軽くて重いわたしの言葉
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 田中 柚衣
- 439 **暗い海灯台が一部照らしてる希望の光があるかのように**
長野県塩尻市立塩尻東小学校 3年 水迫 大樹
- 440 コストコのぬいぐるみになりたい日です悠然とカゴで運ばれ、抱かれ
神奈川県立光陵高校 3年 西村 祥太郎
- 441 今朝に見た濃密な夢は何処なり 富豪の老人は限で語る
神奈川県立光陵高校 3年 西村 祥太郎
- 442 下駄箱で踊る桜の稚魚達にフアイトと言ってあげられる甘さ
神奈川県立光陵高校 3年 佐野 晃太

- 443 ドーナツの穴から夏が逃げていく「じゃあね」じゃなくて「またね」の味する
神奈川県立光陵高校 3年 佐野 晃太
- 444 朝焼けでパンを焦がしてしまふから早く迎えに来てよ大空
神奈川県立光陵高校 3年 佐野 晃太
- 445 心臓をゆっくり撫でるいつもより半音高く血流が鳴る
神奈川県立光陵高校 3年 佐野 晃太
- 446 音は風 言葉は花となり僕の胸のあたりであたたかくなる
神奈川県立光陵高校 3年 佐野 晃太
- 447 切ないね、それは切ない。左手の小指もそうって言っていますよ
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 448 人間と荷物をパズルのように詰め練り進んでる東海道線
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 449 あざやかに色づいてった実のようにそこにいた君はやいばを持って
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 450 ぶろぼうず そうプロポーズ、跪き頭に薔薇を刺して待ってる
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 451 花冠授けましょうね海風にしおれかけてたところを添えて
神奈川県立光陵高校 3年 山本 未生
- 452 五月雨もさることながら散開し再来するは三度目の夏
神奈川県立光陵高校 3年 福島 楓
- 453 お宝のたを探してますとたたたと駆けて逃げてく足音残し
神奈川県立光陵高校 3年 福島 楓
- 454 弟を追いたくないから忘れ物するな入試の小問集合
神奈川県立光陵高校 3年 洲崎 大知
- 455 乗客が一人の名古屋行き夜行バス過ぎてゆく富士山 見えない
神奈川県立光陵高校 3年 洲崎 大知
- 456 「何者になるべきなの」と五歳児は地蔵黙らす哲学者かも
神奈川県立光陵高校 3年 相模 奈緒
- 457 引き出しに眠ったままの言葉からあなたに返す「またね」をこぼす
神奈川県立光陵高校 3年 相模 奈緒
- 458 山よりも大きな背中を見せつけていつか短歌の王になりたい
神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈
- 459 まだこども以上ってだけ バースデーケーキでおなかいっぱいになる
神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈
- 460 風に押し出されるように十八歳 投票用紙の濁った白さ
神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈
- 461 少しだけって言ってあなたは夜を待つ少しの夜を抱きしめている
神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈
- 462 スーパーの光に集まって来た蛾が前世天才だった確率
神奈川県立光陵高校 3年 猪野田 涼奈
- 463 消えたくて消えたくてでも 一歩すら踏み出せなくて雨に打たれてる
神奈川県立光陵高校 2年 永井 穂果
- 464 パン作り上級者だね ぬかるみを駆け抜けた後の白かった靴
神奈川県立光陵高校 2年 永井 穂果
- 465 風だって風なりに死を有してる 静かな夜の街を見つめる
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子
- 466 人生で紡ぐ言葉は限られている 何処までも風で在りたい
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子
- 467 花を摘むように明日を終えたくてちよっとお話ししませんか、風
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子
- 468 再啓で始まる手紙が灯となって夜風とともに川を流れる
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子

- 469 どうしようもないまま夏に生きている 短歌を詠んで読んだ、それから
神奈川県立光陵高校 2年 柳原 萌々子
- 470 コスモスが手を振っている さよならは君の目尻に似た色のまま
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 471 水色のキリンをずっと待っている工事現場の鈍いさよなら
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 472 孤独って手放さなくていいらしい表紙のさくら loading now
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 473 教科書の端に絡まるそよ風の中に隠した自分を探す
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 474 一つだけ短くなったクレヨン黄色によく似た夕日が昇る
神奈川県立光陵高校 2年 森岡 千尋
- 475 霧がかかるみなかみの空 曾祖父の描きかけの風景画みたいで
神奈川県立光陵高校 2年 藤井 綾音
- 476 線香を忘れたくなる午後六時シトラスの香り髪に纏わせ
神奈川県立光陵高校 2年 藤井 綾音
- 477 嘘を吐くことが得意だ目を逸らす先の三日月は何も言わずに
神奈川県立光陵高校 2年 藤井 綾音
- 478 少年の無邪気な両手をくぐり抜け池のめだかは風を夢見る
神奈川県立光陵高校 2年 藤井 綾音
- 479 ゲームでは推しをのんびり育成中 傷つけたくないので使わんが
神奈川県立光陵高校 2年 中西 董
- 480 無人駅のベンチの上に残された切符は月のうさぎ宅行き
神奈川県立光陵高校 2年 中西 董
- 481 **重力がどうしても動に見えちゃって一部分だけくしゃくしゃになる**
神奈川県立光陵高校 2年 中西 董
- 482 君の言う「多機能ボールペン」いつも「滝登るペン」にしか聞こえん
神奈川県立光陵高校 2年 中西 董
- 483 文芸部に一目惚れしたきっかけは短歌と部内の温かさです
神奈川県立光陵高校 2年 中西 董
- 484 孫からの花を飾って発車する当然のよに今日も咲いてる
神奈川県立光陵高校 2年 古川 眞帆
- 485 探しても未来はいつも指の先シャーペン回す昼下がりに夏
神奈川県立光陵高校 2年 古川 眞帆
- 486 あなたへの既読は未送信のまま 自転を速くしていく地球
神奈川県立光陵高校 2年 照田 佳苗
- 487 **夕焼けは私の部屋に差さなくてどこか遠くで鳴る古時計**
神奈川県立光陵高校 2年 照田 佳苗
- 488 茶々丸は時空を超えて生きている大樹の下で耳をとがらせ
神奈川県立光陵高校 2年 照田 佳苗
- 489 **内側の熱を知りたい氷菓子切り開かれた表面零度**
神奈川県立光陵高校 1年 木村 夏帆
- 490 掘り起こした土の香りに思い馳せ詰めまった小箱を埋める
神奈川県立光陵高校 1年 木村 夏帆
- 491 「土」の字は地面に十字架刺さってる。どうでも良くて青空を見る
神奈川県立光陵高校 1年 眞壁 春菜
- 492 **空のまだ研究されてないところペガサス今だにいてほしいから**
神奈川県立光陵高校 1年 眞壁 春菜
- 493 死はいつかあなたの隣に並ぶからそっと優しく手を引いてほしい
神奈川県立光陵高校 1年 眞壁 春菜
- 494 黒色を漆黒と呼ぶお年頃 選んだ飴はイチゴのくせに
神奈川県立光陵高校 1年 小林 央奈

- 495 季節から秋が家出をしています ポッケのカイロに春を求める
神奈川県立光陵高校 1年 小林 央奈
- 496 教室の窓破壊したヤンキーが猫語でタマに語りかけてる
神奈川県立光陵高校 1年 小林 央奈
- 497 長いこと時が止まった小説はギリギリ形を留めてあった
神奈川県立光陵高校 1年 宇山 龍
- 498 小学校以来の友へもう土に汚れない手を大きく振った
神奈川県立光陵高校 1年 宇山 龍
- 499 いつからかなんとか世代が悪口になっているのが人間だよ
神奈川県立光陵高校 1年 宇山 龍
- 500 きみ宛の下書きをスマホに溜めている内容よりも改行ばっか
神奈川県立光陵高校 1年 尾上 幸奈
- 501 行間がだんだん大きくなっていくプールの後の授業と蝉噪
神奈川県立光陵高校 1年 尾上 幸奈
- 502 金じゃない優しい黄色が好きだった風に揺れてる君のたてがみ
神奈川県立光陵高校 1年 尾上 幸奈
- 503 心臓を動かすための歌詞がある曲の向こうの世界が好きだ
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 504 言葉とは包丁だから使い方しだいで明日を選べるはずさ
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 505 埃とかかぶってそんな森にある館みたいな昨日が過ぎた
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 506 究極の選択の中に僕が居る 解答用紙にへたっぴな丸
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 507 具だくさん！みたいな表記をされたくて自分の顔を必死に飾る
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 508 アスファルトを研ぐ雨にすら馬鹿にされ「あのね」の続きが渋滞してる
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 509 今はただ泣いていたいや 真つ暗な部屋のままにして孤独を触る
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 510 文芸の力を信じる事にする。文字を手放し短歌に変える
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 511 野良猫が僕を見つめて二十秒哲学めいた午後へ連れてく
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 512 星空が地球を見下ろすから迷子 至急どなたか僕を求めて
神奈川県立光陵高校 1年 植草 結良
- 513 放課後にくじら花壇の尾の下でじゃがいもみたいな土玉が照る
神奈川県立光陵高校 1年 山田 万葉
- 514 お客様が駆けてた春のお出口は明日を迎えた地平線です
神奈川県立光陵高校 1年 山田 万葉
- 515 AIの嵐に朽ちた現代に短歌はそつと言葉を植える
神奈川県立光陵高校 1年 山田 万葉
- 516 雑草と土管が映える空き地にて搜索中です青いポケット
神奈川県立光陵高校 1年 松尾 綾音
- 517 静寂に蛍群れば百鬼夜行孤高の月に抗うように
神奈川県立光陵高校 1年 松尾 綾音
- 518 コンクリの隅で傾く雑草が母なる山へ行き先を指す
神奈川県立光陵高校 1年 松尾 綾音
- 519 風纏い不自然に舞うタンポポは動物だって思い込んでる
神奈川県立光陵高校 1年 西村 真穂
- 520 ポケットに入れたどんぐりで作られたトキメキ一つ小鳥にあげる
神奈川県立光陵高校 1年 石井 桃衣

- 533 グローブの穴から僕の指が出る買って欲しいが手放せないな
京都府舞鶴市立城南中学校 2年 新谷 航大
- 532 沖縄のパラセーリングの五分間雲の上へと瞬間浮いた
京都府舞鶴市立城南中学校 2年 新谷 航大
- 531 映画見てプールで泳ぎ合宿と中二の夏は笑顔沸騰
京都府舞鶴市立城南中学校 2年 新谷 航大
- 530 昼寝より目覚めてすぐにボタン押す洗濯機の次マイタレット
京都府舞鶴市立中筋小学校 6年 新谷 和花
- 529 友だちと政治の話をしたのにお返事なくてタブー視みたい
京都府舞鶴市立中筋小学校 6年 新谷 和花
- 528 早起きが続ける秘訣は早寝だよ何んか嬉しい二学期の朝
京都府舞鶴市立中筋小学校 6年 新谷 和花
- 527 沖縄の家族旅行の四日間にここに顔の母さんが好き
京都府舞鶴市立中筋小学校 6年 新谷 和花
- 526 ひいばばちやま施設のロビーで笑ってた折鶴持ってたまた来るからね
神奈川県立光陵高校 1年 大西 真央
- 525 ラダメスがエジプト軍を引き連れて凱歌を奏でる複雑な恋
神奈川県立光陵高校 1年 大西 真央
- 524 大相撲千秋楽の国技館 座布団投げの軌道が消える
神奈川県立光陵高校 1年 大西 真央
- 523 Anima to 笑顔が咲いた部屋には音楽のかけら散りばめられて
神奈川県立光陵高校 1年 石井 桃衣
- 522 心では成長痛を抱えててパレットに残る渦に飲まれる
神奈川県立光陵高校 1年 石井 桃衣
- 521 床の隅で風とじゃれてる埃すら光って見えるレンズ越しの部屋
神奈川県立光陵高校 1年 石井 桃衣
- 546 タレットで花と調べたらベゴニアのたくさんの色の花がでてきた
山口県光市立光井中学校 1年 山根 結月
- 545 恒例の夏休みには海に行く家族みんなでおにぎり食べる
山口県光市立光井中学校 1年 山根 結月
- 544 川の水飲んでみたい川の水飲むと相当うまいんだろうな
山口県光市立光井中学校 1年 古谷 惇
- 543 練り消しの職人ここに存在だと疲れが吹き飛んでいる
山口県光市立光井中学校 1年 古谷 惇
- 542 海底でエイに囲まれ死んでいく僕らの育てたアサリへのフーガ
山口大学教育学部附属光義務教育学校 9年 横道 玄
- 541 しりたえの雪降る窓辺高校の古典学習いとさやかに
京都府立西舞鶴高校 2年 新谷 泰生
- 540 秋風にたなびく雲が月隠し雲の行末千変万化
京都府立西舞鶴高校 2年 新谷 泰生
- 539 駅員さん特急券の販売にいとめらかな英語を喋る
京都府立西舞鶴高校 2年 新谷 泰生
- 538 ざわめける令和七年大仏を見上げる頭に不変を感じた
京都府立西舞鶴高校 2年 新谷 泰生
- 537 白魚の煌煌はねる伊佐津川ひそかに鳴いた窓辺のかわず
京都府立西舞鶴高校 2年 新谷 泰生
- 536 御茶ノ水までの毎朝四ページ江森備は今日への祝福
京都市立洛友中学校 2年 中振 悠
- 535 富士山へ登った一瞬忘れない残る難問絶対解くぞ
京都府舞鶴市立城南中学校 2年 新谷 航大
- 534 新人戦カーブ投げるか直球か肘を痛めて投げられないよ
京都府舞鶴市立城南中学校 2年 新谷 航大

- 547 クロユリは呪いや復讐花言葉人に渡すのはやめておこうか
山口県光市立光井中学校 1年 小池 海翔
- 548 分の昭和の町を走るバスレトロな時代にタイムスリップ
山口県光市立光井中学校 1年 小池 海翔
- 549 あんなにも小さな種からはじまって気づけば今は朝顔が咲く
山口県光市立光井中学校 1年 池藤 碧希
- 550 プールとは違った良さが海にある自然の波とこの温度感
山口県光市立光井中学校 1年 池藤 碧希
- 551 前までは売っていたはずのお菓子たち好きなものまでなくなつてゆく
山口県光市立光井中学校 2年 清家 麗羽
- 552 息をする全人類が息をするいろんな空気が入り混じっている
山口県光市立光井中学校 2年 清家 麗羽
- 553 輪ゴムには主な特徴伸縮性限界伸ばせて約八倍に
山口県光市立光井中学校 2年 嵐川 紗帆
- 554 青い空入道雲は光っている空を見ながら感じている夏
山口県光市立光井中学校 2年 嵐川 紗帆
- 555 忙しい漫画描き終え安堵する2年の秋は課題が多い
鹿児島県屋久島おおぞら高校 3年 大島 美咲
- 556 本を読み良い作品を探し出すまだ見つかからず少し困惑
鹿児島県屋久島おおぞら高校 3年 大島 美咲
- 557 編み物はアメリカ式で編んでるよ絵描きの手には負担が掛かる
鹿児島県屋久島おおぞら高校 3年 大島 美咲
- 558 晩冬にベレーの帽子を被りつつ合わせ考えつくづく悩む
鹿児島県屋久島おおぞら高校 3年 大島 美咲
- 559 リモートで頭を横にしてしまう多くあるけど耳では聞くよ
鹿児島県屋久島おおぞら高校 3年 大島 美咲

第九回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

令和八年（二〇二六）三月発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒三七九―一三〇五

群馬県利根郡みなかみ町後閑三二一―一

みなかみ町教育委員会 生涯学習課内

電話〇二七八（二五）五〇二五